Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.96／ 2014 APRIL
（月1回発行）

仙台大学 広報室
Monthly Report

仙台大学入学式―期待を胸に新入生629人

新入生を代表して力強く宣誓文を読み上げる奥村陽葉さん＝仙台大学第五体育館

4月5日（土）、春風が吹く中、本学第五体育館で「平成26年度 第48回体育学部第17回大学院入学式」が行なわれました。新入生629人（体育学科305人・健康福祉学科120人・運動栄養学科86人・スポーツ情報マスメディア学科45人・現代武道学科54人・編入学生4人・大学院スポーツ科学研究科15人）は、期待に胸を膨らませながら、入学式に臨みました。

4月1日付けで就任した阿部芳吉学長は、新入生に対し「入学を許可します」と告知。続いて、朴澤泰治理事長が「“答えのない問題”に最善解を導くことができる能力を鍛えてほしい」と期待を込めて挨拶されました。入学者を代表して、奥村陽葉（おくむらあきは）さん（体育学科1年―北海道・小樽潮陵高校出身）が「私たちは、体育・スポーツ、健康に関わる諸科学を探求し、これからの時代の担い手となるよう、身体を鍛え、教養を深め、心を磨き、豊かな学生生活をおくれるよう努力して参ります」と力強く宣誓文を読み上げた後、来賓の滝口茂柴田町長からご祝辞を頂きました。在学生を代表して、ソチ五輪ボブスレー日本代表の黒岩俊喜（くろいわとしき）さん（運動栄養学科3年―神奈川・橘高校出身）も「仙台大学はスポーツを科学的に研究する大学です。日本有数の施設と情熱的な先生方、さらに心優しい柴田町の方々がいらっしゃいます。私も日本ボブスレー界の一員として、さらに努力して参ります。新入生の皆さん、一緒に頑張っていきましょう」と歓迎の言葉を述べました。

新入生一人一人の大学生活が豊かで充実したものになることを教職員一同、心よりご祈念申し上げます。

＜ 目 次 ＞

仙台大学入学式 ―期待を胸に新入生629人	1
平成26年度 新任者紹介挨拶	2
中国からの留学生が地域交流― 太極拳教室を開催	7
全日本柔道連盟女子強化合宿in 仙台大学を実施	8
仙台大学の先端機器を駆使した 研究最前線―シリーズ（6）	12
学生の競技結果	13

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成26年度 新任者紹介 挨拶(平成26年4月1日付)

－教員6名・事務職員4名・新助手6名・臨時職員10名の計26名が着任－

青沼　一民　教授
(教職支援ｾﾝﾀｰ長)

フレッシュで活気ある、そして意欲のある学生に負けないよう、頑張りたいと思います。よろしくお願いします。

村上憲治　准教授

体育学科でお世話になります村上憲治です。主にバイメカの視点よりスポーツ傷害に関する研究を行ってきました。科学的視点とAT・PT・鍼灸師としての経験を還元できるように頑張りたいと思います。

真野　芳彦　講師

温故知新を胸に抱き励んでいきたいと存じます。

金井　里弥　助教

温かさと活気あふれる本学で、学生たちのより実り多き大学生活に貢献できるよう、楽しみながら精進したく思います。どうぞよろしくお願いいたします。

渡部　由佳　助教

約11年間、地元の愛媛県で保健所栄養士として勤務しておりました。一日も早く学生達や教職員の皆様から信頼される教員を目指し、精一杯頑張ります。よろしくお願いします。

河野　未来　助教

昨年まで新助手として勤務させて頂いておりました河野未来です。専門種目は新体操です。明るく楽しい授業づくりを心掛けて、学生の皆さんと頑張っていきたいと思います。宜しくお願い致します。

遠藤　近志　さん
(管理課長)

管理課配属の遠藤近志です。よく近藤さんと間違われます(^_^;)皆様とお会いする機会が多いと思います。お見知り置きの程宜しくお願いいたします。がんばります。

駒板　公一　さん
(事業戦略室担当課長)

生まれも育ちも、そして前の仕事もここ柴田町の「生粋のしばたっ子」の駒板公一と申します。事業戦略室に配属となりました。地元柴田町の大学、仙台大学の一員となり大変光栄に思います。

佐藤 真紀子 さん
(教務課)

船岡には祖父や叔母が住んでおり、以前から１年のうち何度も足を運ぶ、馴染み深い土地です。事務経験は浅いですが、精いっぱい頑張りたいと思いますので、宜しくお願いします。

多久島 嘉則 さん
(管理課担当課長)

６月に自衛隊を定年退職し、仙台大学管理課にお世話になる多久島です。環境の変化に対応して柔軟な思考ができるよう努力してまいりますので、よろしくお願いします。

<6月1日付採用>

齋藤広子新助手
(AT・川平)

川平フィールドのＡＴルームで勤務致します。高校生アスリートの外傷・障害・疾病の発生をを少しでも減少させるために精進していきたいと思います。よろしくお願いします。

壹岐 優 新助手
(ｳｪｲﾄﾄﾚｰﾆﾝｸﾞ・管理課)

今年度から新助手として働かせていただくことになりました壹岐優です。大変未熟ではありますが、少しでも母校に貢献できるように日々努力していく所存であります。

大垣　亮 新助手
(AT)

今年度より新助手として働かせて頂くことになりました。アスレティックトレーニング分野の発展・普及に貢献できるよう尽力して参りたいと思います。宜しくお願いします。

松浦 里紗 新助手
(健康福祉)

社会人としての自覚を持ち、理事長、学長をはじめ大学関係者、学生、地域の方との関わりを大切に務めていきたいと思います。未熟ではありますがご指導の程よろしくお願い致します。

三品 朋子 新助手
（運動栄養）

今年度より運動栄養学科で新助手として勤務致します三品朋子です。様々な業務を通して成長することが出来るよう精進して参りますので、ご指導の程よろしくお願い致します。

仁科 浩平 新助手
（男子体操）

今年度から新助手としてお世話になります、仁科浩平です。仙台大学の一員として大学に貢献できるよう、最善を尽くしたいと思いますので、よろしくお願いします。

我妻 晃旗 さん

この度臨時職員として働かせていただく我妻晃旗と申します。学生支援室ボランティアセンターを担当します。何かと不慣れですが責任ある仕事ができるように努めていきます。よろしくお願い致します。

小林 真衣 さん

学生時代に培った経験を生かして、元気いっぱい頑張っていきたいと思いますので、よろしくお願いします！

渡邊 泰祐 さん

宮城県タレント発掘育成事業を担当します渡邊です。お仕事の難しさを痛感する毎日ではありますが、事業の対象となる子供たちとともに、若輩者の私自身も成長していきたいと思います。

柴﨑 篤 さん

タレント発掘事業を担当します柴﨑篤です。タレント発掘以外にも覚える事がたくさんあり、余裕がない状態ですが毎日笑顔を絶やさず子供たちとともに成長できるよう日々精進したいといと思います。

青田 駿 さん

皆様初めまして。この度入試創職室で勤務をさせて頂くことになりました、青田駿です。皆様のお役にたてますよう全身全霊をかけて勤務していきます。宜しくお願い致します。

秋葉 智人さん

仙台大学の臨時職員と明成高校の非常勤講師（保健体育）としてお世話になることになりました、秋葉智人です。仕事も部活動指導も頑張りたいと思います。高大連携事業をフル活用してサッカー部強化を図っていきたいです。

山家 宗一朗 さん

今年度から臨時職員として学生支援センターで働きます山家宗一朗です。学生の生活をより良いものにするために、支援していきたいです。よろしくお願いします。

山田 彩夏 さん

このたび健康管理センターで働かせて頂くことになりました、山田彩夏です。将来は養護教諭として活躍したいと思っているので、学生時代から引き続き、たくさんのことを学びたいです。よろしくお願いします！

高橋 祐也 さん

私は、昨年度の３月に仙台大学を卒業しました。今年度からは、本学の職員として、学生時代に学んだ多くのことを最大限に活かしていけるよう努めていきたいと思います。

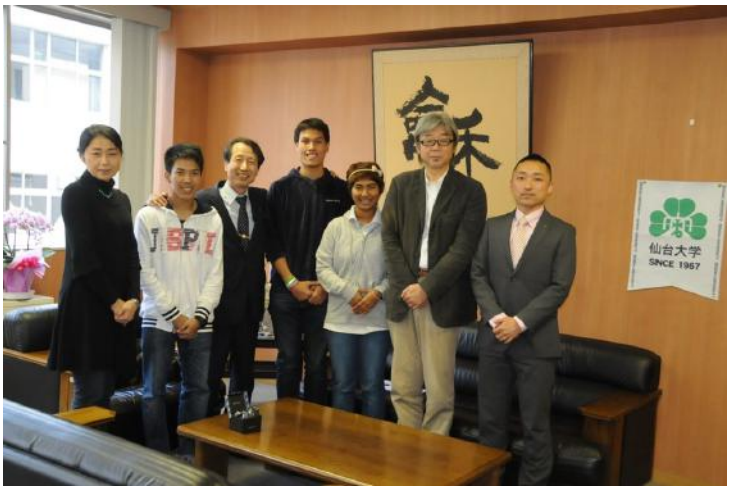
小川 亜紀 さん

スポーツ健康科学研究実践機構に着任致しました、小川亜紀と申します。微力はございますが、お役に立てる様、努力精進して参る所存です。何卒、ご指導ご鞭撻の程宜しくお願い致します。

半澤 智明 さん

漕艇部の寮である漕門館で食事を準備させていただく事になりました。仕事を学びながら喜ばれるような食事を提供できるよう頑張らせて頂きますので宜しく御願いします。

タイのシーナカリンウィロート大学から留学生が来訪



阿部学長（左から3番目）と肩を組むタイからの留学生＝学長室

4月4日（金）、国際交流提携校のシーナカリンウィロート大学（タイ）からの留学生3名が、高橋まゆみ国際交流センター長（写真左端）・小松恵一教授（国際交流センター企画委員／中央ヨーロッパ・東南アジア担当）（写真右から2番目）・石森靖明職員（事業戦略室）（写真右端）と共に、学長室を訪れました。

ジャトゥロン・マハカノクさん（体育学科2年）（写真左から4番目）、チャトラパト・ナムジュンデーさん（体育学科3年）（写真左から2番目）、プドサデー・クムトンさん（写真右から3番目）は、平成26年4月～8月までの半年間、学部の科目等履修生として学びます。

留学生はそれぞれ、「日本の文化と日本の武道を学び、視野を広げたい。日本の友人をたくさん作りたい」（マハカノクさん）。「早く日本語を覚えて、日本の友人と一緒にサッカーがやりたい」（ナムジュンデーさん）。「将来は、高校の体育教師を目指している。仙台大学では柔道・剣道・空手道・合気道に挑戦したい」（クムトンさん）と留学への意気込みを話しました。

小松教授は留学生3名に対し、「半年間と短い期間ではあるが、日本の文化と習慣を体験し、更に見聞を広めてほしい。何事にも積極的に取り組み、留学の経験を将来に生かしてほしいと願っています」と期待の言葉を述べられました。

第6回元気！健康！フェアinとうほく―「元気体操の楽しみ方」を実演

気軽に楽しくできる「足踏み」を実演する齋藤（左）・柳澤の両新助手＝仙台国際センター

4月6日（日）、仙台国際センター（仙台市青葉区）で「第6回元気！健康！フェアinとうほく」（主催：東北大学・河北新報社・東北放送／共催：仙台大学他）が開催されました。同フェアは、東北大学を中心とした講師陣が、最新・最先端の健康情報について幅広い視点でわかりやすく紹介する講演やセミナー・その他の体操プログラムもある健康フェアです。

本学からは、柳澤麻里子・齋藤まり両新助手が「元気体操の楽しみ方」について、家庭でも気軽に楽しくできる「足踏み」・「スクワット」の実演を交えながら紹介しました。安定した歩行・転ばない歩き方を維持できるようにすることがねらいです。「元気体操の楽しみ方」(会場：同センター第三会場「桜」)には、約80名の皆さまがご参加くださいました。

柳澤新助手は「運動は苦手・辛いと思われがちです。今回は、ご自宅に戻られてからでもできる、テレビを観「ながら」・座り「ながら」できる手軽で楽しい運動を紹介しました。心身共に健康な生活の実現に向けて、運動を継続して行なってほしいです」と話しました。

なお、4月5日（土）は、同フェアで本学の山梨雅枝講師が「「美」を体験するための「体力」」について講演を行ないました。

The International Council of Toy Industries (ICTI) presents the Award to SENDAI UNIVERSITY—国際玩具協議会が仙台大学にアオードを授与

（左から）ラースICTI会長、朴澤理事長、富山日本玩具協会会長

4月8日（火）、グランドプリンスホテル高輪（東京都港区）において、本学は国際玩具協議会（ＩＣＴＩ）よりＩＣＴＩ・Awardを受賞しました。これは、同協議会の持廻り年次総会開催国において、子どものために有意義な活動をしている団体に対し、主催国協会の推挙により総会時に与えられる賞であり、仙台大学は東日本大震災被災地において2011年から2013年の３年間「東北こども博」を実施し、子ども達を勇気づけたということが受賞理由となりました。

世界16ヶ国より約50人の各国代表が集うなか、五大陸をかたどった銅製の風車の楯を受け取った朴澤泰治理事長・学事顧問(写真中央)は英語で「仙台大学がＩＣＴＩアオードを頂いたことは大変な名誉であり、ＩＣＴＩに心より御礼申し上げます。東日本大震災は特に宮城県・岩手県・福島県に深刻な被害を及ぼし、地域の子ども達の受けた精神的な痛手は大きく、また自由に遊ぶ場所が無いなどの辛い状況にあるなか、日本玩具協会のご提案により「東北こども博」を開催したところ、2011年に約14,000人、2012年に約16,000人、2013年に約18,000人という多数の方々に参加頂き、子ども達の笑顔を見ることができました。震災復興の今後を担う子ども達の支援の一助となったことは大きな喜びです」と挨拶されました。

次期国際玩具協議会長の英国代表(写真左)から、英国で本学と同様の活動を行っている大学を「紹介したい」などと、今後の国際的な学術的展開を期待できるような交流も図ることができました。

五大陸をイメージした風車の楯

仙台大学漕艇部の学生たちがボートの魅力を伝える

満開の「一目千本桜」を背にボートの体験会を楽しむ中学生ら
＝柴田町の白石川

4月19日（土）、晴天に恵まれ「一目千本桜」も満開に咲く中、仙台大学漕艇部主管「第8回しばたまちさくら回廊ボート体験会」が、柴田町北船岡の河川敷公園で開催されました。柴田町の中学生ら約30人が参加し、川面からの風を受けながらボートの試乗を楽しみました。ボートには本学漕艇部の学生たちも同乗。子どもたちにボートの魅力を存分に伝えていました。また、エルゴメーター（陸上でボートを漕ぐ動きを体験できる機械）体験も行ないました。

ボート体験会は、地元の子どもたちに、白石川の自然の素晴らしさとボート競技に興味･関心を持ってもらうことを目的として、本学と柴田町などで組織された実行委員会が主催。昨年に続き2回目の参加となった中学3年の男子生徒は、「前回よりも上手に漕げるようになり、楽しかった。ボートから見る桜が格別に良かった」と話しました。

仙台大学体育学科スポーツマネジメント・コースの春季研修会を開催

平成26年4月19日（土）～20日（日）、宮城県蔵王自然の家にて、仙台大学体育学科スポーツマネジメント・コースの春季研修会が行われました。参加者は、新たに同コースに所属することになった2年生81名（2名が欠席）、2年生を指導し研修会を運営する補助学生（同コース3～4年生）10名、教員4名でした。天気にも恵まれ、蔵王の自然に囲まれながら充実した研修会を実施することができました。

この研修会には、大きなねらいが2つあります。1つは参加学生、補助学生、教員との交流です。緊張をほぐすための「アイスブレイクゲーム」、グループごとに一人では解決できない課題に取り組む「イニシアティブゲーム」、夜の体育館で行われた「グループ対抗戦ゲーム」など、1日目は遊びやレクを中心に行い、参加者が楽しみながら交流できるようにしました。なるべく多くの人と触れ合ってもらうため活動ごとにグループを変更し、顔も名前も知らなかった人とも活動を通して親密になることができました。また、補助学生として参加学生を指導してくれた先輩と仲良くなったり、授業でしか接点のない教員の意外な一面が見えたりと、横のつながりだけでなく、縦のつながりもできました。

2つ目のねらいは、同コース2年生の必修授業であるスポーツマネジメント実習の事前指導です。大学の教室で実習の内容を説明するのではなく、実際にお世話になる施設に出向き研修をうけることで、より実のある事前指導になると考えています。2日目のプログラムは、実習を経験した先輩の話を聞く「体験談話会」で具体的にどんなことを実習でするのか、どんなことに気をつければいいかを学び、その後に「野外炊事」、「スコアオリエンテーリング」などの自然の家の活動を実際に体験しました。実習では多くの小中学生に指導する立場となりますが、自分が体験したことがなければいい指導はできません。まずは、活動の楽しさや施設の使い方を身を持って体験してもらうことで、実習での指導につなげてくれることを期待します。他にも、自然の家ならではの部屋の使い方や布団のたたみ方、食堂の配膳システム、朝夕のつどいや入所式・退所式の進行の仕方など、自然の家の利用方法を知るいい機会となりました。

これらの２つのねらいをもって同スポーツマネジメント・コースではこの春季研修会を行っていますが、実は我々教員にはもう一つの裏目的があります。それは、補助学生の成長です。この研修会を始めた頃は、教員が研修会を企画し、運営・指導していました。数年ほど前から補助学生の教育にも力を入れるようになり、補助学生がレクリエーションを企画したり、生活指導をしたりするようにしました。すると、2年連続で補助学生をやる4年生が3年生を指導したり、同じ学年同士で刺激しあったりと、非常に高い教育効果が生まれるようになりました。また、補助学生の活躍を見て、2年生が「来年は自分も補助学生に挑戦してみたい」と思うなど、良い循環も生まれました。その結果、教員は事前に補助学生に指導者トレーニングやミーティングを行えば、当日はほとんど補助学生が学生を指導し、研修会を運営してくれるほどになりました。反省会でも、研修会をよりよくするためのアイディアを出したり、もっと指導者としての資質をあげたいという感想が聞かれるなど、意欲的な態度が見られました。野外・レクリエーションの本当の魅力は、「やって楽しむ」ことよりも「指導する」ことにあります。今回は補助学生の10人がその魅力をより深く味わってくれたと思います。そして、2年生たちはこれから、「指導する」魅力を味わってほしいと思います。来年度は、何人の学生が補助学生を希望してくれるかが楽しみです。

＜報　告：体育学科ｽﾎﾟｰﾂﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ・ｺｰｽ
講師　岡田成弘　＞
＜写　真：　同　助教　弓田恵里香＞

中国からの留学生が地域交流―太極拳教室を開催

太極拳を指導する趙偉さん（左）と張希雲さん（右）
＝船迫生涯学習センター

4月20日（日）、柴田町の船迫生涯学習センターで中国からの留学生・趙偉（ちょうい）さん（仙台大学大学院2年－中国・上海体育学院出身）と張希雲（ちょうきうん）さん（仙台大学大学院1年－中国・瀋陽師範大学出身）が講師を務める「太極拳教室」が行なわれ、地域から25名の方が参加しました。

同教室は、仙台大学の留学生との交流をとおし中国伝来の太極拳を練磨し、会員の健康増進と相互の親睦を図ることを目的として、柴田町日中友好協会が主催。今年で7年目を迎えました。

昨年から太極拳教室の講師を務めている趙偉さんは「和気あいあいとした雰囲気の中、楽しく太極拳教室を実施することができています。皆さまは、大変意欲的に取り組み、素晴らしい上達です。太極拳を通じて、心身ともに健康的な生活の実現に貢献していきたいです」と日本語で話しました。

7年間継続して太極拳教室に参加されている柴田町日中友好協会の大槻則子さんは、「中国からの留学生たちは真面目で素直。留学生との交流を楽しんでいます。太極拳は、静かでゆったりとした音楽に合わせて、深い呼吸で体を動かす気持ちよさが魅力です。もっと上達したいです」と話しました。

太極拳教室は、定期練磨として月2回（4月から翌年3月まで年間24回）実施する予定です。

海を越えて輝く学生たち(1)―海外留学研修報告会を開催

台湾・台東大学の交換留学について報告する
佐々木さん（体育学科4年―秋田・由利高校出身）
＝仙台大学第五体育館大会議室

4月23日（水）、本学第五体育館大会議室で、米国（カリフォルニア州・ハワイ州）・デンマーク・フィンランド・台湾に留学していた学生たちによる「海外留学研修報告会」（平成25年度後期実施分）が開催されました。報告会には、約100名の教職員や学生に加え、現在来学中のデンマーク・リレベルト大学社会教育学部のメテ・リヒター准教授とソーニャ・シュルツ准教授も参加されました。

報告会で学生たちはそれぞれ、「授業は全て英語。米国のアスレティックトレーナーは、テーピングやアイシングなど選手の身体のケアのみならず、栄養・食事面の指導も行なっている」（米国・ハワイ州立大学アスレティックトレーニング研修）、「教育大国のフィンランドの授業は、学生主体で行なわれている」（フィンランド・カヤーニ応用科学大学短期交換留学）、「ホームステイを経験。相手の英語が早口で、聞き取れずに苦労した。普段から英語に触れる重要性を痛感した」（米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校スポーツ栄養及びスポーツマネジメントセミナー）、「世界一幸福な国と評価されているデンマークの福祉政策は充実している。特に、障害者雇用への取り組みが素晴らしい」（デンマーク・ノアフュン国民大学福祉研修プログラム）、「アクティブな授業を通して様々な経験ができた。授業は教員の他、4年生が先生となって指導するなど、日本の大学との大きな違いを感じた」（台湾・台東大学短期交換留学）、「半年間、５人部屋の寮生活を経験。スキューバダイビングやロッククライミングなどのアウトドアスポーツにも挑戦。異文化に触れ、自分の世界を広げることができた。友達もたくさんできた」（台湾・台東大学正規交換留学）（＝写真）と留学を通して有意義な経験ができたことなどが報告されました。

最後に、高橋まゆみ国際交流センター長が「日本と留学先の国との懸け橋になってほしい。経験は専門家を育てる。人とのつながりを大切に、さらに成長してほしい」と締めくくられました。

全日本柔道連盟女子強化合宿in仙台大学を実施

柴田町のイメージキャラクター「はなみちゃん」のハンドタオルを手にする選手たち＝仙台大学柔道場

4月22日（火）～26日（土）までの期間、柔道女子日本代表の監督と本学柔道部の総監督を務める南條充寿准教授（写真後列：左から二番目）、ロサンゼルスオリンピック・ソウルオリンピック柔道競技男子95kg超級金メダリスト・斉藤仁氏（全日本柔道連盟強化委員長）（写真後列：左から二番目）、ロサンゼルスオリンピック・ソウルオリンピック柔道競技男子95kg超級金メダリスト・斉藤仁氏（全日本柔道連盟強化委員長）（写真後列：左から三番目）らの指導の下、仙台大学柔道場を中心に「全日本女子柔道強化合宿」が実施されました。

同合宿には、ロンドンオリンピック金メダリストの松本薫選手（フォーリーフジャパン）や同オリンピック7位の田知本遥選手（綜合警備保障）ら日本トップクラスの選手17名が参加。本学柔道場で技の稽古に汗を流し、近辺にある柴田町の船岡城址公園や山崎山では走り込みを行なうなど、基礎体力の強化を図りました。

なお、4月23日（水）、ロサンゼルスオリンピック柔道競技男子無差別級金メダリスト・山下泰裕氏（全日本柔道連盟副会長）が選手の激励に来校。山下氏は、南條准教授と共に挨拶のため学長室を訪れ、朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長と懇談を行ないました。

山下泰裕氏（写真中央）＝学長室

仙台藩志会公開歴史講座　伊達学塾「明治天皇と東北巡幸」—伊達宗弘客員教授

講演する伊達宗弘客員教授＝仙台市戦災復興記念館

4月26日（土）、仙台市青葉区の戦災復興記念館5階会議室で、仙台藩志会公開歴史講座伊達学塾が開催され、登米伊達家の十六代当主でもある本学の伊達宗弘客員教授（元宮城県図書館長）が「明治天皇と東北巡幸」について講演（仙台藩志会主催）しました。

講演には、藩祖伊達政宗公や歴史に関心のある約80名の方が参加。講演の中で伊達客員教授は、「明治9年（1876）、明治天皇は陸路で50日をかけて東北・北海道巡幸を行なった。県から県への引き渡し・宿泊・おもてなし・警備などがはじめて制度化された巡幸となった。明治9年の東北巡幸が皇室と国民のあり方を決めていくきっかけとなった。また、明治天皇の東北巡幸に同行した大久保利通が、地政学見地に立って「東北開発」を主導する計画を立案した」などの内容を話され、参加者の皆様方は、丁寧な解説に熱心に耳を傾けていました。

講演会終了後、仙台藩志会塾長の伊達宗行氏は「格調高い、優れた講演会だった。天皇をシンボルとした国家統合の試みや明治天皇御巡幸の歴史的意義などをわかりやすく話され、ご講演を拝聴でき、大変満足している」と話されました。

なお、伊達学塾は平成18年に発足。今年で9年目を迎え、今回は90回目の講座でした。

「JPTA GO with TENNIS スマイルとうほくプロジェクトIN仙台」
―本学学生が運営ボランティアとして参加

イベント終了後、松岡修造さん（中央）を囲んで記念撮影
＝シェルコムせんだい

4月29日（火・祝）、シェルコムせんだい（仙台市泉区）で、テニスを通して東北を元気にする被災地応援イベント「JPTA GO with TENNIS スマイルとうほくプロジェクトIN仙台」（主催：日本プロテニス協会、スマイルとうほくプロジェクト／後援：仙台市、河北新報社、岩手日報社、福島民報社、仙台大学）が行なわれ、本学体育学科スポーツマネジメント・コースに所属する学生46名が運営ボランティアとして参加しました。また、本学の阿部芳吉学長（写真：前列左から5番目）も開会式の際に挨拶され、終日イベントの様子を見学なされました。

このイベントの企画には、本学硬式テニス部OBの佐藤雅幸氏（専修大学教授・修造チャレンジスタッフ／昭和53年体育学科卒）、千野時晴氏（ニッケインドアテニス社長・日本プロテニス協会理事／昭和54年体育学科卒）が係り、また当日の地元コーチ陣のコーディネートを門脇章氏（日本プロテニス協会東北地区長／昭和55年体育学科卒）が担当されました。さらに、当日の地元コーチ陣として、数名の本学硬式テニス部OB･OGが熱心に指導されていました。

日本プロテニス協会理事長の佐藤直子さん（日本人初の女子プロテニス選手）や松岡修造さんら元プロテニス選手によるジュニア向けテニスレッスン会、ファミリーで楽しめるプレイ＆ステイ体験などが実施され、685名の親子らが参加。会場は、たくさんの笑顔で溢れました。

学生ボランティアを引率した体育学科長の仲野隆士教授（写真：前列右から5番目）は、「電通というプロのマネジメント会社の運営スタッフとして関われたことが良かった。大きなイベントの裏方を知り、実際に体験しながら学ぶ「実学の場」となった。」「学生たちはそれぞれの持ち場で、笑顔を絶やさず頑張っていた。大いに評価したい」。学生ボランティアとして参加した硬式野球部マネージャーの本名裕（ほんなゆたか）さん（体育学科スポーツマネジメント・コース4年―福島西高校出身）は、「何事も事前準備が大事であることを再認識させられた。子ども達が純粋にスポーツを楽しむ姿を見て、元気をもらった。この経験を就職活動と部活動に活かしていきたい」と感想を話していました。

学生支援センター主催「留学生歓迎お花見会」を開催

宮城県では2月4日正午から6日にかけて冬型の気圧配置となり、下層寒気については「１０年に１度」の強い寒波が日本列島に流れ込み全国的に寒い日が続きました。その積雪が嘘かのように見事に咲く桜の木々は、人々の心を魅了したことでしょう。

4月18日（金）肌寒い気候の中ではありましたが、留学生の歓迎会を兼ねたお花見会が船岡城址公園にて開催されました。

お花見会では、留学生たちが自慢の歌と踊りで雰囲気を盛り上げ、寒さを吹き飛ばしてくれました。留学生の意外な一面を見ることができ、交流の面白さを知ることができました。

＜留学生からのコメント＞

「みんなで一緒に話したり、食べたりしたことが楽しかった。」（台湾留学生）

「お酒が美味しかったです。先生の歌が素晴らしいと思いました。でも、寒かったです。」（中国留学生）

お花見会には多くの参加者が集まり、大いに賑わいました。このようなイベントを通して留学生たちとの親睦を深めていきたいと思います。

＜報告：学生支援室臨時職員　小林真衣＞

海を越えて輝く学生たち(2)―CSULB　短期研修報告
研修先:California State University , Long Beach

2月10日（日）から2月21日（木）の約2週間、カリフォルニア州立大学ロングビーチ校短期留学研修プログラムが実施されました。

参加学生、引率教職員は以下の通りです。

教職員	仲野隆士教授（体育学科長） 柴田恵里香助教 西川里美新助手 千葉慎太郎新助手
学　生	田中利樹さん（体育学科3年－仙台城南高校出身） 石川美香さん（体育学科3年－宮城･聖和学園高校出身） 霞　祐介さん（体育学科2年－青森戸山高校出身） 大久保理子さん （運動栄養学科2年－神奈川･岸根高校出身） 草野匡哉さん （ｽﾎﾟｰﾂ情報ﾏｽﾒﾃﾞｨｱ学科1年－福島･日大東北高校出身） 須藤拓也さん （ｽﾎﾟｰﾂ情報ﾏｽﾒﾃﾞｨｱ学科1年－福島･本宮高校出身）

プログラムはスポーツマネジメント、スポーツ栄養、スポーツメディアの三分野で構成されており、講義内でわからないことがあると、それぞれの分野を専攻している学生が補足したり、教えたりといった非常に良い雰囲気で学習することができていました。スポーツマネジメントの授業においては実際に日本で行うことを想定したイベントを企画し、運営方法を考えプレゼンテーションを行い、スポーツ栄養の講義ではアメリカのアスリートが食べている間食を試食するなど、実践的な学習が多かったです。

講義：ビジネスにおけるスポーツの役割

学生は日を重ねるごとに協調性が増していき、自分の専門分野以外の内容に対しても興味を持って取り組んでいました。

田中利樹（たなかとしき）さん（体育学科3年）は、「施設の規模の大きさに驚いた。アメリカにおいてネーミングライツ（命名権）は広く普及しているが日本ではまだ歴史が浅い。また、指定管理者制度ももっと有効活用していく必要がある。最終的に一般の人も利用しやすい環境づくりをするため今回学んだ事を活かしたい」と振り返りました。

昨年度とは違う試みとして今回、学生は二人一組でホームステイを行い、出発前から日常会話やホームステイ先で必要な会話を学んでいました。

現地の学生、教職員と交流する様子

現地ではホームステイ先でも英語に触れること、コミュニケーションを取ったことで、講義の中でも積極性が増したのではないかと感じます。講義のみならず、現地の学生や教職員との交流会もあり、スポーツ・テンカや人間知恵の輪などのレクリエーションを行い、絆を深めることもできました。最終日の修了式ではこの短期留学で学んだこと、思い出などを学生一人一人が英語でスピーチをし、それぞれの熱い気持ちを精一杯伝えていました。

今回の短期留学では様々な場面でアメリカの文化に触れることができ、また、一人一人が専門分野以外の知識も多く得ることができ、今後の大学生活や人生に活かせる大変貴重な経験を積むことができたのではないかと考えます。

＜報告：新助手　西川里美・千葉慎太郎＞

全体集合写真：修了式

海を越えて輝く学生たち(3)―
ハワイスクーリング・アスレティックトレーニング研修ビギナーコースを実施

平成26年2月23日（日）より3月2日（日）にかけて平成25年度ハワイスクーリング・アスレティックトレーニング研修ビギナーコースが実施されました。平成15年度より始まった同研修は、秋季に行われるアドバンスコースと合わせ、今回で19回目の実施となります。また、平成23年度より3期連続で日本学生支援機構の留学生支援制度に採択されている研修でもあります。今回の研修には、体育学科3年の阿部昌子さん、同2年の二瓶柚紀さん、伊藤政樹さん、千葉美保さん、渡辺由樹さん、岩﨑有希さん、國分尚樹さん、運動栄養学科2年の尾崎洋美さんと畠山莉加さん、体育学科1年の古山彩歌さん、会川勇太さん、柏崎祐太さん、菊池彩花さん、そして運動栄養学科1年の村上泰司さん、合計14名という多くの学生が参加しました。引率は、千葉勝彦大学運営コンサルタント、西塚良重学生支援室長、佐藤美保広報室長、小田桂吾講師、山口貴久講師、菅野恵子新助手が行いました。

現地に6日間滞在するこの研修では、ハワイ州立大学マノア校のキャンパスや体育施設の見学、留学生支援室（International Student Service）訪問、英会話の授業、アスレティックトレーニングに関する様々な実習や講義、現地アスレティックトレーナーとの交流などの専門分野の研修に加え、フラダンスショー見学やダイヤモンドヘッド登山などハワイ文化にも大いに触れる、とても内容に富んだ研修でした。参加した学生たちからは「英語への恐怖心が和らいだ」「たくさんのアスレティックトレーナーとの交流を通して様々なことを学んだ」「またハワイへ研修に来たい」「留学を現実的に考えてみたい」など好意的で意欲的な意見が多く聞かれました。

今年の9月には本研修のアドバンスコースが実施されます。この研修も先述した日本学生支援機構の留学生支援制度が適用されるプログラムです。本学とハワイ州立大学との交流は10年が過ぎ、9月の研修を機に新たな段階へ進む予定です。次回も多くの学生たちに参加していただき、歴史的な瞬間をともに迎えたいと思います。

＜報告：講師　山口貴久＞

仙台大学の先端機器を駆使した研究最前線―シリーズ(6)
「新型高速トレッドミル」

写真：新型高速トレッドミル
＝仙台大学専門研究棟(C棟)1階「スポーツ生理学実験室」

（1）「新型高速トレッドミル」の概要

トレッドミルとは、ベルトコンベア上の台の上を走行し、その場でランニングやウォーキングをしながら、運動負荷試験やトレーニングを行なうために用いる機器です。

本学に平成22年12月に設置された「新型高速（幅広）トレッドミル」は、早川公康准教授の恩師である小林寛道東京大学名誉教授（元日本体育学会会長）から仙台大学に寄贈されました。従来型のトレッドミルに比べ、幅が広くて走り（歩き）やすく、ダイナミックな動き（腕振り等）が可能であり、日本に数台しかない先端機器です。高速ランニングから極めて遅い歩行まで対応できるようになっており、速度は0－36km／h（100mを10秒0で走れる最高速度）、傾斜は－5.7～14度（下り坂ならではの実験やトレーニングが可能）。速度と傾斜ともに高性能システムにより制御され、目的に応じて、速度と傾斜設定を変えた作動が可能となっている。

（2）早川公康准教授に聞く、今後の展望
―仙台大学の場合

「新型高速（幅広）トレッドミル」を用いて、トップアスリートの高速ランニングから障がいのある方や高齢の方向けの超低速歩行まで、あらゆる身体能力レベルの人たちにとって有益な成果を生み出せるように活用・展開しております。

仙台大学の学生や教職員、さらには地域の子どもから高齢者、トップアスリートから障害者まで幅広く有効利用してもらえるように対応していきたいと考えています。

本学のPR看板広告―
JR仙台駅2階クイックビジョンのデザインリニューアルのお知らせ

北柱＝JR仙台駅2階

南柱＝JR仙台駅2階

4月1日（火）より、本学のPR看板広告も掲出されているＪＲ仙台駅２階の看板広告（クイックビジョン15秒看板／新幹線乗り場に上がる中央エスカレーター左右サイド）のデザインを一新しました。

今回は、仙台のプロスポーツで活躍中のベガルタ仙台・蜂須賀孝治選手（平成25年体育学科卒）、東北楽天ゴールデンエンジェル・上田亜樹さん（健康福祉学科卒）、仙台89ERS・佐藤文哉選手（平成25年体育学科卒）の本学卒業生を起用。リニューアルした看板広告をぜひご覧ください。

＜今回リニューアルした看板掲出期間及び掲出場所について＞

- 4月1日～4月13日まで―JR仙台駅2階の新幹線乗り場に上がる中央エスカレーター左右サイド（右サイドのみ無料掲載）
- 4月14日～9月30日まで―JR仙台駅2階の中央通路改修工事が行なわれるため、同左サイド（南柱）のみの掲出となります。

熊原健人投手（体育学科3年）が一試合19奪三振を記録―仙台六大学野球

一試合19奪三振を記録した熊原投手＝東北福祉大学野球場

4月20日（日）、東北福祉大学野球場で「仙台六大学野球春季リーグ第二節2回戦」が行なわれ、仙台大学は東北工業大学と対戦し、熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科3年―宮城・柴田高校出身）が10回まで毎回の19奪三振（9回までは18奪三振：リーグ2位タイの記録）を奪い、完投勝利を収めました。この日のストレートの最速は、147km／hを記録。一試合最多奪三振のリーグ記録は、平成18年の春季リーグで岸孝之投手（現埼玉西武ライオンズ―東北学院大学出身）が9回を投げて、リーグタイ記録の19奪三振を奪っています。

速球派右腕・熊原投手は「ストレートと変化球（スライダー・フォーク）のキレも良く、丁寧にコーナーを突くことができた。憧れの岸投手に近づくことができて嬉しい。チームが勝つための投球をするだけ。次も頑張りたい」と話し、森本吉謙監督は「熊原が投げれば大丈夫というどっしりとした雰囲気がチーム内に出てきた。これからもプライドを持ってマウンドに立ち、チームの勝利に貢献してほしい」と話しました。

試合はタイブレーク10回裏、一死満塁から4番・松本桃太郎（まつもとももたろう）選手（体育学科2年―北海道・北海高校出身）が右中間を破る二塁打を放ち、逆転サヨナラ勝ちを収め、「勝ち点１」を掴みました。

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.97／ 2014 MAY
（月1回発行）

仙台大学 広報室

Monthly Report

硬式野球部、1980年秋以来34年67季ぶり 3度目の優勝に輝く

表彰式で優勝旗を手にする奈良崎匡伸主将（体育学科4年―山形中央高校出身）
＝東北福祉大学野球場

5月29日（木）、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球春季リーグ優勝決定プレーオフ3日目の「仙台大学－東北学院大学」戦が行なわれ、仙台大学が東北学院大学を6－4で下し、1980年秋以来34年67季ぶり3度目の優勝（春季リーグは初優勝）に輝きました。

試合は、3回裏に仙台大学が先制しますが、4回表に先発・熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科3年－宮城・柴田高校出身）が相手打線につかまり、3失点する苦しい展開。しかし、4回裏、4番・松本桃太郎（まつもとももたろう）選手（体育学科2年－北海道・北海高校出身）が右中間にソロ本塁打を放ち、1点差。6回裏には、1死満塁の好機から8番・加藤大地（かとうだいち）選手（体育学科4年－千葉・東海大望洋高校出身）が左犠飛を放ち、3－3の同点に追いつきました。3－3の同点で迎えた8回裏1死1・3塁で7番・千葉俊（ちばしゅん）選手（体育学科2年－岩手・盛岡大学付属高校出身）が右犠飛を放ち、4－3と逆転に成功。2死1塁から8番・加藤大地選手（同）が右越え2点本塁打を放ち、6－3と一気に突き放しました。熊原投手は、9回に1点を失いますが、後続を抑え、仙台大学が6－4で勝利を収め、リーグ史上初のプレーオフを制しました。

本学硬式野球部は、6月10日（火）から神宮球場及び東京ドームで開催される「第63回全日本大学野球選手権大会」に初出場。本学は、6月11日（火）の2回戦（神宮）が初戦で、富士大学と福岡大学の勝者と対戦します。春季リーグ戦及び優勝決定プレーオフでは、柴田町の地域の皆さまをはじめたくさんの方々から温かいご声援を賜り、誠に有難うございました。

引き続き、仙台大学硬式野球部への熱い応援を宜しくお願い致します。

＜ 目 次 ＞

硬式野球部、1980年秋以来34年67季ぶりの優勝に輝く	1
学内TOEIC IPテストを実施	3
美里町仮設住宅中埣団地から感謝状を授与	4
デンマークリレベルト大学教員による授業並びに国際交流会議を開催	5
ドイツカール・フォン・オシエツキー大学オルデンブルクと国際交流協定調印式及びワークショップを開催	5
学生の競技結果	6

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

スポーツの力―ワンコリアフェスティバル2014

4月28日(月)～5月5日(祝・月)に31年ぶりに東京で卓球世界選手権が開催されましたが、これに先だち、東アジアの平和を含め韓国と北朝鮮の統一を願うことを主旨として、公益財団法人主催で応援の特別企画イベントが明治大学で開催されました。23年前に千葉市で開催された卓球世界選手権で韓国と北朝鮮がたった一度だけ統一チームとなって中国に勝って優勝し、その実話が2年前に映画化されました。

その大会でエースだった玄静和さん（現在は韓国卓球協会理事）と映画監督およびスタッフが、その特別企画イベントに参加するため来日し、私も元中国ダブルスチャンピオンの肩書で元日本卓球チャンピオン松下浩二氏と共にゲストとして招待され、「卓球イベント」の部で中国代表として玄さんとラリーを行ったり、映画監督ムンさんと親善試合を行ったりしました。会場には平和を願う500名の観客が来場し、卓球の観戦や玄さんからの大会当時のエピソードの紹介などで大いに盛り上がりました。

東アジアの国々の関係は依然として緊迫状態が続く中、卓球を愛好する人間として、かつてのピンポン外交を想い起こし、スポーツを通じた日中友好、また東アジアの平和希求は大変意義のあることであり、今後も政冷経熱の実態の克服のために、日・中・韓のスポーツによる相互理解・連帯に努めてまいりたいと考えております。

＜報告：講師 馬 佳濛＞

全国一斉「自転車月間」

今月（5月）は、全国一斉「自転車月間」が実施されることに伴い宮城県警でも「自転車安全利用等指導強化月間」と定め良好な自転車交通秩序の実現に向け大河原警察署として柴田町、関係機関・団体と合同で「自転車広報キャンペーン」を実施することになり、本学学生に参加依頼がありました。その呼びかけに応じて、当日は男子サッカー部員10名がボランティアとしてキャンペーンに参加しました。

朝7時50分から9時まで実施されJR船岡駅前等において駅利用者や、自転車利用者に対し「自転車の正しい乗り方」のチラシ交通安全グッズ、自転車盗難防止グッズ、ティッシュなどを配布しながら、交通安全等を声がけしました。

〈参加団体・人員数〉
柴田町、柴田地区交通安全協会、
地域交通安全活動推進委員、
自転車安全利用等指導員、
大河原警察署、仙台大学　計約60名

＜報告：学生課 平井孝秀＞

仙台89ERS 2013-2014シーズン　スポンサー感謝の集い

左からOB佐藤選手、朴澤理事長、OG鈴木さん、齊藤

5月14日(水)、仙台勝山館（仙台市青葉区）にて開催された「仙台89ERS 2013-2014シーズンスポンサー感謝の集い」に朴澤理事長・学事顧問と出席致しました。会場には（株）ボディプラスインターナショナル・（株）河北新報社・（株）カメイ・（株）七十七銀行などをはじめとした50社以上のオフィシャルスポンサー企業の方々約70名が地元のプロチームを支援しようと参加しました。

最初に仙台89ERS球団代表中村彰久氏より、シーズンが東地区8位で終了した報告、今シーズンにおける各企業からの協力への感謝と、来シーズンこそ東地区1位を狙うという目標について挨拶がありました。この「スポンサー感謝の集い」は、シーズン終了のご報告を兼ねて、スポンサー企業同士が交流する機会を作ることを目的に、今回初めて開催されたそうです。

早速会場では（株）グランスポールをはじめとする企業数社が朴澤理事長・学事顧問へご挨拶なさっていました。仙台大学としても（株）ボディプラスインターナショナル、（株）河北新報社、（株）ブレインと交流を持ことができました。

チアリーダーのパフォーマンス、選手との交流の時間もあり、朴澤理事長・学事顧問はOB佐藤文哉選手（平成25年体育学科卒―宮城･明成高校出身）に「お疲れ様だったね」とお声をかけ、佐藤選手は「シーズン後半はプレスが激しく、思うようにシュートが打てませんでした。」と無念の表情で報告していました。また、チアリーダーの鈴木保之香さん（体育学科卒―宮城広瀬高校出身）に「改めて卒業おめでとう」とおっしゃると「ありがとうございます」と答えられるなど、本学卒業生との会話を楽しんでいらっしゃいました。近シーズンは、佐藤選手がチームの起爆剤になれるよう更なる活躍に期待がかかります。

＜報告：新助手ＡＴ・川平：齊藤広子＞

4月1日（火）より、本学のPR看板広告も掲出されているＪＲ仙台駅２階の看板広告（クイックビジョン15秒看板／新幹線乗り場に上がる中央エスカレーター左右サイド）に仙台89ERS・佐藤文哉選手を起用。本学卒業生として紹介しています。

学内TOEIC　IPテストを実施

テスト前に注意事項を読み上げる笠原准教授
＝大学院研究棟Ｅ303教室

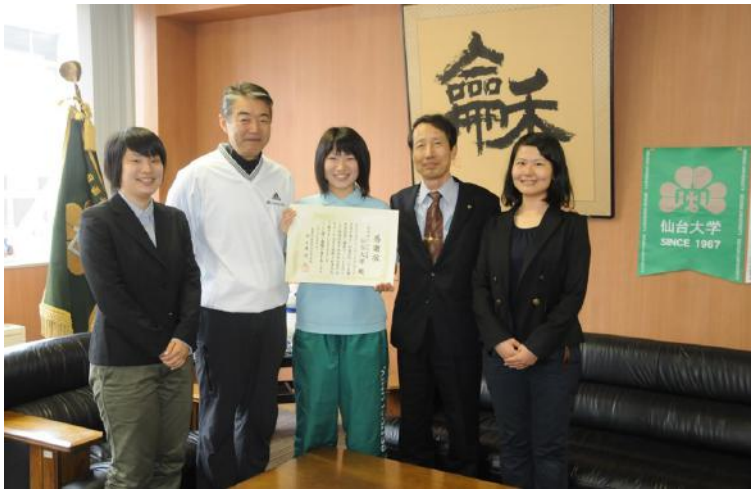
5月14日（水）16時～18時の間、本学大学院研究棟Ｅ303教室で「学内TOEIC IPテスト」が実施され、本学学生6名が同テストに臨みました。

国際コミュニケーション英語能力テスト（Test of English for International Communication）、通称TOEICは、英語を母国語としない者を対象とした英語によるコミュニケーション能力を検定するための試験です。TOEICの団体特別受験制度（IP）は、個人単位での受験ではなく、企業・団体・学校単位でTOEICの各テストを受験できる制度です。

本学では、海外留学・研修への参加を考えている学生や留学するかどうかを迷っている学生に対し、自己の英語能力を把握することを目的として、受験を促しています。

学内TOEIC IPテストの試験官を務めた笠原岳人准教授（国際交流センター企画委員）は、「学内でTOEICテストを受験できると費用が若干安くなり、受験しやすいというメリットがある」「自分の英語の力を試す大事な試験。海外留学・研修を考えている学生は、積極的にTOEIC IPテストを受けてほしい」と話しました。

美里町仮設住宅中埣団地から感謝状を授与



災害ボランティアを代表し感謝状を手にする佐々木さんと大学関係者
＝学長室

5月15日（木）、仙台大学健康づくり支援班の橋本実教授（左から2番目）・柳澤麻里子（右端）・松浦里紗（左端）の両助手及び災害ボランティアを代表して学生の佐々木里紗（ささきりさ）さん（中央／健康福祉学科4年―岩手・一関学院高校出身）が学長室を訪れ、美里町仮設住宅中埣（なかそね）団地班長から感謝状が贈呈されたことを阿部学長（右から2番目）に報告しました。阿部学長からは、災害ボランティア活動に対する感謝と労いの言葉がありました。

美里町には東日本大震災で東松島から南郷体育館に避難されていた方々と内陸にもかかわらず家が倒壊し避難された中埣地区の方々がおり、月一回健康づくりを支援してきました。避難所から仮設住宅に移り、昨年末から順次復興住宅に移られる方が増え、この5月末で仮設住宅が閉鎖されることになりました。この感謝状は、美里町中埣仮設住宅集会所で約2年間、「健康づくり茶話会＋楽しい運動」を行なってきた仙台大学の活動に対し、避難生活をされていた方々から授与されたものです。

橋本教授は「震災以来、中埣地区の方々との健康づくりのための運動指導と交流を行なってきました。感謝状を頂き、嬉しい限りです。これからも中埣地区はもちろんですが、我々の活動を心待ちにしてくださる被災地の方々の健康づくりのため、各地で活動を続けて参ります。また、多くの学生にもこの活動に参加して頂き、人に喜んでもらうことの嬉しさを知ってもらいたいと考えています。」と話されました。

留学生親睦・ベガルタ仙台試合観戦会

５月１８日（日）ユアテックスタジアム宮城で行われた、サンフレッチェ広島VSベガルタ仙台の試合を観戦してきました。

なかなか観る機会のないサッカーの試合観戦ということで、９名の留学生（タイ３名、台湾３名、中国２名、韓国１名）　は心を躍らせながら、スタジアムに向かったことと思います。試合は前半１６分ベガルタ仙台の赤嶺選手のゴールで先制！！スタジアムの熱気が最高潮に達したとき留学生もガッツポーズをして喜んでいました。その後もキーパーのナイスセーブなどがあり、先制点を守り切ったベガルタが勝利して４連勝を飾りました。それに加え、当日の観客動員数は今季最多の18,863人だったそうで、留学生もベガルタサポーターと共に応援で盛り上がっていました。今回の試合観戦を通して親睦を深められたと同時に、大観衆の中での躍動感あふれる試合に感動しました。

また、昨シーズン大活躍だった本学卒の蜂須賀選手（平成24年体育学科卒）は、昨年の12月に負った怪我の影響で出番がなく残念でしたが、怪我を治して復帰し活躍することを願っています。

＜報告：学生支援室　茗荷谷なつみ＞

デンマーク リレベルト大学教員による授業並びに国際交流会議を開催

柔道場にてSonja Schulte准教授による授業の様子

国際交流会議の様子

4月21日（月）から23日（水）まで、本学の国際交流協定校であるリレベルト大学（デンマーク）のMette Richter准教授とSonja Schulte准教授が本学との交流のために来学されました。滞在中にはSonja Schulte准教授が「介護福祉とレクレーション活動援助」および「介護概論Ⅰ」の授業内で「イメージ・シアター」について英語で講義をされ、授業に出席した学生たちは感情や物事を言葉ではなく、体で表現をすることに挑戦しました。授業後のアンケートには「介護士の仕事は必ずしも健康的な人だけを対象とするわけではなく、話せない人もいます。相手の意図をくみ取ってあげたい時に今回の授業は大変役立つと思います。」や「最初はとまどいもありましたが、グループで協力していくうちにどのように表現すれば上手く伝わるか真剣に考えて参加することができました。」などの感想が寄せられ、中には英語で回答されたものもありました。

また、国際交流会議も開催され、今後の両校間における交流発展の可能性を探る時間となりました。

今年9月にはリレベルト大学理学療法学科学生4名が本学を訪問し、学内施設並びに宮城県内の病院等施設を視察する予定です。

＜報告：事業戦略室　遠山知寿＞

ドイツカール・フォン・オシエツキー大学オルデンブルクと国際交流協定調印式及びワークショップを開催

協定書に調印後、 固く握手を交わすアルケマイヤー教授（左）と阿部学長＝仙台大学

平成26年5月29日（木）仙台大学は、ドイツカール・フォン・オシエツキー大学オルデンブルクと国際交流に関する協定書（更新）に調印しました。本学とドイツカール・フォン・オシエツキー大学オルデンブルクとは、平成22年2月22日に、国際交流協定を締結しましたが、有効期間満了に伴い、更新の調印式が行なわれました。

調印式には、本学の阿部芳吉学長・高橋まゆみ国際交流センター長やカール・フォン・オシエツキー大学のトーマス・アルケマイヤー教授ら10名が出席。阿部学長とアルケマイヤー教授がそれぞれ協定書に署名し、交流をさらに活性化させることを確認しました。

また、調印式終了後＜5月29日（木）＞とその翌日＜5月30日（金）＞には、「現代の系譜学」ワークショップが本学で開催されました。カール・フォン・オシエツキー大学オルデンブルクからは、アルケマイヤー教授とニコラウス・ブッシュマン、レア・コダレの両研究員が、本学からは小松恵一教授と藪耕太郎講師が日本とドイツの近代のあり方を発表。その諸相について両大学の研究者から闊達な討議がなされ、大変有意義な研修会となりました。

中国･長春市から仙台国際ハーフマラソン大会招待選手らが来校

5月12日（月）、柴田町日中友好協会の中島会長及び中国･長春市から第24回仙台国際ハーフマラソン大会に招待された選手らが朴澤理事長･学事顧問に挨拶に来られました。

タイのシーナカリンウィロート大学の教員らが来校

5月13日（火）、タイのシーナカリンウィロート大学の教員らが来校しました。現在、本学に留学中の3名の学生との面談を行ない、本学の関係各位と今後の国際交流推進に向けた打合せを行ないました。

仙台大学同窓会宮城中央支部総会を開催

親睦会の様子＝味吉祥

宮城県内で２番目の設立となりました宮城中央支部総会が５月１０日（土）１８時から仙台市内「味吉祥」で行われました。参加者は支部会員は４回生から３２回生までの同窓生１４名、大学からは朴澤理事長・学事顧問、阿部学長、若井副学長､鈴木同窓会長他４名の８名、計２２名でした。設立まではなかなか多難でしたが、世話人の狩野なぎささん（塩竈高校）のご尽力で、支部長に佐藤一拡さん（松陵中学校校長）､事務局長に佐藤かほるさん（しらかし台中学校）が満場一致で選任され発足いたしました。懇親会では､理事長・学事顧問、学長の挨拶のあと､参加者自己紹介があり、大学創立当時のエピソードから現在の状況などについて和やかに話し合い､旧交を温め合いました。次回には、更に多くの参加者で盛会を期待し総会を終わりました。

＜報告：仙台大学OB参与　大河原則夫＞

硬式野球部、東北福祉大学から1980年秋以来34年67季ぶりに勝ち点を挙げる

最後の打者を三振に打ち取り、喜びを表す馬場投手＝東北福祉大学野球場

5月12日（月）、仙台六大学野球春季リーグ第五節は、1勝1敗で迎えた「仙台大学―東北福祉大学」の3回戦が行なわれ、本学が東北福祉大学を7－4で下し、1980年秋季以来34年67季ぶりに東北福祉大学から勝ち点を挙げました。これで勝ち点を「4」に伸ばし、単独首位に立ちました。

試合は、本学が2回表無死、4番・松本桃太郎（まつもとももたろう）選手（体育学科2年－北海道・北海高校出身）の今季3号ソロ本塁打（通算7号）で先制。松本選手は2安打3打点と活躍しました。また、3番・大坂智哉（おおさかともや）選手（体育学科2年－青森山田高校出身）が逆転打を放つなど5打数2安打1打点。

投手陣は、熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科3年－宮城・柴田高校出身）―野口亮太（のぐちりょうた）投手（体育学科4年－群馬・前橋商業高校出身）―馬場皐輔（ばばこうすけ）投手＜ばばこうすけ＞（体育学科1年－仙台育英高校出身）の継投で踏ん張り、東北福祉大学の強力打線を9安打4失点に抑える粘り強い投球を見せました。

試合終了後、森本監督は「一人ひとりが粘り強く頑張ってくれた」と選手たちを労い、「東北福祉大学から勝ち点を取れたことは、自信と誇りにつながる。まだ優勝したわけではない。（次節）東北学院大学戦もしっかり戦いたい」と気を引き締めていました。

今季3号先制本塁打（通算7号）を放った松本選手がベンチ前で気合の入った表情を見せた

硬式野球部、東北学院大学から勝ち点を取れず―仙台六大学野球

6番・薄井新選手（体育学科3年－栃木・矢板中央高校出身）が逆転となる2点適時打を放つ。＜東北学院大学3回戦＞＝東北福祉大学野球場

5月19日（月）の仙台六大学野球春季リーグ第六節は、1勝1敗で迎えた「仙台大学―東北学院大学」の3回戦が行なわれました。

両校とも一歩も譲らない白熱した試合でしたが、本学は東北学院大学に3－8（タイブレーク延長10回）で惜敗しました。

本学硬式野球部の34年67季ぶり、悲願の春季リーグ初優勝の瞬間を一目みようと、5月17日（土）は300名以上、18日（日）には400名以上もの本学の学生・教職員・姉妹校である明成高校の関係者及び柴田町の地域の方々が駆け付け、選手たちに熱い声援を送り続けて下さいました。

東北学院大学から勝ち点を取れませんでしたが、最終節＜5月24日（土）・25日（日）＞の「東北福祉大学―東北学院大学」戦で東北福祉大学が2勝1敗で勝ち点を取った場合は、勝ち点・勝率とも仙台大学・東北学院大学・東北福祉大学が並ぶため、3校の総当たり戦によるプレーオフが行なわれます。本学硬式野球部は、プレーオフに最後の望みを託すことになりました。

硬式野球部、優勝決定プレーオフで東北福祉大学を下し、34年ぶりの優勝へ王手

粘り強さと気迫の投球を見せた熊原投手＝東北福祉大学野球場

5月27日（火）、東北福祉大学野球場で「勝ち点」と「勝率」で並ぶ仙台大学・東北福祉大学・東北学院大学の３校による仙台六大学野球優勝決定プレーオフ（リーグ史上初）1日目「仙台大学－東北福祉大学」戦が行なわれ、仙台大学が東北福祉大学を３－２で下し、34年ぶりの優勝に再び王手をかけました。

5月27日（火）、東北福祉大学野球場で「勝ち点」と「勝率」で並ぶ仙台大学・東北福祉大学・東北学院大学の３校による仙台六大学野球優勝決定プレーオフ（リーグ史上初）1日目「仙台大学－東北福祉大学」戦が行なわれ、仙台大学が東北福祉大学を３－２で下し、34年ぶりの優勝に再び王手をかけました。試合は、初回にソロ本塁打を浴びて先制点を許すも、6回表に1番・志田一茂（しだかずしげ）選手（体育学科4年－岩手・大船渡高校出身）、2番・奈良崎匡伸（ならさきまさのぶ）主将（体育学科4年－山形中央高校出身）、3番・大坂智哉（おおさかともや）選手（体育学科2年－青森山田高校出身）の3連続長短打で2点を奪い逆転。9回表は1死満塁から8番・加藤大地（かとうだいち）選手（体育学科4年－千葉・東海大望洋高校出身）の内野ゴロの間に1点を追加。先発・熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科3年－宮城・柴田高校出身）は、9回に1点差まで詰め寄られますが、粘り強さと気迫の投球で見事な完投勝利を収めました。

女子柔道部、東北学生柔道優勝大会で8連覇を達成

貫録の一本勝ちを収めた大将・中村選手＝宮城県武道館

5月25日（日）、宮城県武道館（仙台市太白区）で「平成26年度河北優勝旗争奪東北学生柔道優勝大会」が開かれ、仙台大学女子柔道部は富士大学を3—0、東日本国際大学を4—1で下し、8年連続8度目の優勝を果たしました。

先鋒・月野眞那（つきのまな）選手（現代武道学科2年—愛知・大成高校出身）と次鋒・工藤千佳（くどうちか）選手（現代武道学科3年—青森・五所川原農林高校出身）が2試合全てで一本勝ちを収め、大会優秀選手に選ばれました。

また、東日本国際大学戦に登場した全日本女子柔道選手権東北第１代表の大将・中村優（なかむらゆう）選手（現代武道学科3年—静岡・藤枝順心高校出身）【＝写真】も貫録の一本勝ちを収めました。

女子5人制で8連覇を達成した南條和恵監督は「8連覇は、毎日を必死で戦ってきた足跡。全国で勝つためには、勝ち切る“勝負強さ”と“したたかさ”を身に付ける必要がある。今年のチームは、全国でも十分に戦える力がある。今年こそはベスト８の壁を突破したい」と全国大会に向けて闘志を燃やしていました。

なお、本学女子柔道部は、6月28日（土）に東京・日本武道館で開催される「全日本学生柔道優勝大会」に出場します。引き続き、仙台大学女子柔道部への熱いご声援を宜しくお願い致します。

大会優秀選手に選ばれた月野選手

女子フロアボール部、2014年世界学生フロアボール選手権大会に本学から3名選出

（左から）佐藤・黒田（中央手前）・宇野澤の日本代表三選手
＝仙台大学第一体育館

2014年6月18日（水）～22日（日）の5日間に、シンガポールで開催される「2014年世界学生フロアボール選手権大会」の日本代表として、本学女子フロアボール部のDF宇野澤衣里（うのさわいり）選手／日本代表副主将（体育学科4年―宮城広瀬高校出身）・FW佐藤詩織（さとうしおり）選手（健康福祉学科4年―宮城･築館高校出身）・FW黒田こはる選手（体育学科2年―宮城広瀬高校出身）の3名が選出されました。

「体を張ったディフェンスと強烈なミドルシュートが持ち味。副主将として主将のサポートはもちろんのこと、チームを盛り上げ良い雰囲気を作っていきたい」（宇野澤選手）。「世界トップレベルの大会を楽しみたい。ゴールやアシストをしっかり決めて、チームの勝利に貢献したい」（佐藤選手）。「初の国際試合。自分らしいプレーを心がけたい。相手の裏を狙うパスとシュートを狙い、チームの流れを作りたい」（黒田選手）。とそれぞれ国際大会へ挑む意気込みを話しました。

同選手権大会への参加国は、日本・スイス・スウェーデン他計6ヶ国。日本はマレーシア・シンガポールの３チームによる総当たり戦を行ない、１位通過で決勝トーナメント進出となります。

世界の舞台へ挑戦する本学女子フロアボール部の日本代表三選手に、熱いご声援を宜しくお願い致します。

＜フロアボール＞

1チーム6人で、コートは縦40メートル、横20メートル。試合時間は1ピリオド20分間の3ピリオド制。スティックを使ってプラスチック製のボールを相手チームのゴールに入れて得点を競う、室内で行う団体球技。

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.98／ 2014 June
（月1回発行）

仙台大学 広報室 Monthly Report

硬式野球部、熊原健人投手（体育学科3年）が大学日本代表に選出される

全日本大学野球選手権･準々決勝の神奈川大学戦に先発し力投する熊原投手＝神宮球場

本学硬式野球部の熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科３年―宮城･柴田高校出身）が、「第２７回ハーレム国際野球大会」（オランダ・ハーレム、７月１１日から１０日間）に出場する日本代表の２４人に選出されました。本学からの大学日本代表の選出は、初の快挙。熊原投手の背番号は「１９」に決定しました。引き続き、熊原投手にご注目頂ければ幸いに存じます。

＜熊原健人投手のコメント＞

日本代表に選ばれたからには、日の丸を背負い、優勝を目指して頑張ります。多くのことを吸収して、自分の成長につなげたいです。

PROFILE

熊原　健人（くまばら　けんと）／大学野球日本代表

1993年（平成5年）10月19日生まれ。宮城県角田市出身。
175cm／70kg。右投げ右打ち。血液型Ｏ。
趣味は水泳。好きな食べ物はヨーグルト。
ニックネームはクマ。
宮城･柴田高校では１年秋から控え投手でベンチ入り、
３年春は背番号１。
仙台大学では２年春に初のベンチ入り。
３年春に最優秀選手とベストナインを受賞。

＜　目　次　＞

硬式野球部、熊原健人投手(体育学科3年)が大学日本代表に選出される	1
平成26年度みやぎ県民大学 仙台大学開放講座	2
日本レクリエーション協会 平成26年度 全国研究集会･総会	2
日本体育科教育学会第19回大会 in仙台大学を開催	3
2020年東京オリンピック･パラリンピック競技大会大学連携協定締結式･記念シンポジウム	4
学生の競技結果	5

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見･ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
渡辺誠司　271
土生佐多　200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成26年度みやぎ県民大学仙台大学開放講座

5月29日（木）から6月19日（木）までの毎週木曜日全4回にわたり、みやぎ県民大学仙台大学開放講座が開催されました。

今年のテーマは「いきいき健康ライフ」。講義や軽運動を通じていきいきとした生活を送るための講座を、粟木一博教授、山口貴久講師、横田由香里講師、河野未来助教がそれぞれ担当しました。

定員80名のところ122名からの応募があるなど大好評で、毎回講座を楽しみにして来学された受講者が、今後の生活に生かそうと熱心に耳を傾けていました。

最終回の6月19日（木）の講座終了後には閉講式が開催され、期間中3回以上出席した受講者99名に対して阿部学長より修了証が手渡されました。

受講者からは「受講したことを参考にして、今後に生かしていきたい」などの感想が寄せられ、地域の方々の健康ライフの一助となったようです。

この事業は平成4年度から宮城県教育委員会の主催行事で本学が主管として開講しているもので、これまでに延べ2200名以上の方々が本学で受講されています。

＜報告：事業戦略室　石森靖明＞

日本レクリエーション協会　公認指導者養成課程認定校研究連絡会主催 平成26年度　全国研究集会・総会

6月7日（土）～8日（日）の2日間、遠刈田地区公民館ホールで、日本レクリエーション協会公認指導者養成課程認定校研究連絡会主催の「平成26年全国研究集会・総会」が行われました。

本年度は、北海道東北ブロックを代表して、仙台大学が幹事校となり、企画運営を行いました。参加者総数は約80名で、北は北海道、南は九州・沖縄からレクリエーション担当の先生方にお集まりいただきました。

本研究会では「スポーツツーリズムと観光レクリエーション」をテーマに、観光庁により推進されているスポーツツーリズムの展望と観光地である蔵王町の取組事例について、議論が交わされました。当日（6月8日）は、残念ながら雨天のため、蔵王連峰の美しいシンボル「お釜」のトレッキングは中止となりましたが、世界的に有名なパフォーマーを集めた「大道芸フィスティバル」やマスコミ等でも話題の「遠刈田こけし作り」など、蔵王町の観光レクリエーションを楽しんでいただきました。

本学の阿部芳吉学長にはご挨拶を頂戴し、弓田恵理香助教にはパネリストとして、教務課の伊勢裕介職員には大会事務局業務を、また今回参加していただいた本学卒業生12名（他校教員）の協力を得て成功裏に全国研究集会・総会を終えました。

＜報　告：准教授　高崎義輝＞

大学生健全育成ボランティア「ポラリスみやぎ☆」結団式

去る6月25日（水）、宮城県警察本部で行われた「ポラリスみやぎ☆」結団式に本学の学生3名および担当職員2名にて出席しました。

大学生健全育成ボランティア「ポラリスみやぎ☆」は、少年と年齢が近く、また少年の非行防止及び健全育成活動に意欲と熱意のある宮城県内の大学生をボランティアとして登録し、社会参加活動の支援や街頭補導活動を通じて、少年の健全育成に寄与することを目的とし、平成16年から活動しています。

今年度仙台大学からは5名の学生がボランティアとして登録しており、大河原署の管轄として今後活動に励むことになります。今回の結団式では全体の顔合わせと大河原署の方との今後の活動についてのグループ討議を行ないました。

学生たちの中には将来警察への就職を志望している者が多く、当たり前のことではありますが、県警の方々への挨拶はもちろん、終始活動に意欲的な態度をみせ、感心する場面が多々みられました。グループ討議では積極的に発言し、それぞれが出し合ったアイディアを基に討論を行ないました。全体としてとても有意義な内容となり、今後の活躍に期待したいです。

＜報　告：学生支援室　野村早紀
我妻晃旗＞

日本体育科教育学会第19回大会in仙台大学を開催

日本体育科教育学会（会長：池田延行＜国士舘大学＞）主催の学会大会（第19回）が、6月21日（土）・22日（日）に、仙台大学において開催されました。大会1日目は、「21世紀型能力」とこれからの学校体育」をテーマとするシンポジウムと、「現行学習指導要領の成果と課題－体育授業実践を踏まえて」をテーマとする意見交換が行われました。

シンポジウムでは宮城県開催ということで、シンポジストとして、仙台市教育センター指導主事の高橋清氏にご登壇頂きました。また、意見交換では、運動領域別に分科会が行われ、上記テーマに基づいて様々な意見が出されました。ここでの意見は、学会として整理した上で、次期学習指導要領改訂に向けての提言として文部科学省に提出する予定となっています。大会2日目は、学会員が話題を提供し、参加者と双方向で議論する「ラウンドテーブル」が行われました。ラウンドテーブル数は８つと例年と比べて多く、それぞれの会場で活発な議論が展開されました。大会参加者（一般）は195名であり、宮城県及び仙台市教育委員会から後援を頂いたことにより、宮城県から多くの学校関係者も参加していました。また、一般参加者とは別に、本学からも教職員および約60名の学生も参加しました。このことは、本大会が学会として成功しただけでなく、本学にとっても大変有意義なものであったと思われます。本大会を開催するにあたり、会場をご提供頂いた仙台大学および関係者の方に感謝申し上げます。来年度の大会は、6月に横浜国立大学を会場にして開催することになっています。

＜報　告：大会実行委員長（仙台大学教授）
長見　真＞

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会大学連携協定締結式・記念シンポジウム

2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会のための大学連携協定締結式および記念シンポジウムが、2014年6月23日（月）早稲田大学の大隈記念講堂にて開催されました。これは、一般財団法人東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が主催し、早稲田大学・筑波大学が共催して行われたものです。

今回締結式とシンポジウムには、森喜朗組織委員会会長、川淵三郎組織委員会評議員、そのほか組織委員会関係者や協定を締結した全国552の大学・短期大学のうち267校からの代表が出席しました。本学では、阿部芳吉学長（写真上段右から6番目）とソチ冬季五輪にボブスレー日本代表として出場した黒岩俊喜選手（運動栄養学科3年―神奈川･橘高校出身）が仙台大学の代表として参加しました。

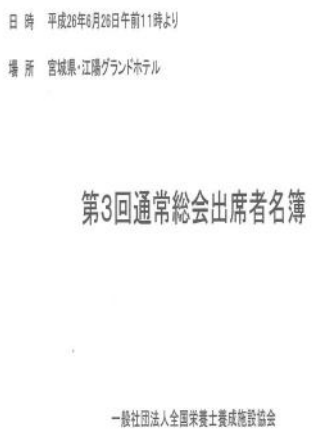
「第１部」の連携協定締結式では、主催者を代表として大会組織委員会会長の森喜朗氏が挨拶し、次いで、4人の代表者 鎌田薫氏（早稲田大学総長）、川淵三郎氏（首都大学東京理事長）、土井杏南氏（大東文化大学1年）、山崎福太郎氏（信州大学4年）が挨拶しました。

続いて、AISTS 会長ジャン・アンダー・マンソン氏がお祝いの言葉を述べ、「第１部」の最後には、各大学代表者およびアスリートが2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の成功に向けて記念撮影を行ないました。

「第２部」の記念シンポジウムでは、武藤敏郎氏（組織委員会事務総長）が基調講演を行ない、続いて、真田久氏（筑波大学教授・組織委員会参与）、布村辛彦氏（組織委員会副事務総長）、クラウド・ストリッカー氏（AISTS事務局長）、田中利恵氏（組織委員会理事）、永富良一氏（東北大学大学院教授）によるシンポジウムが行なわれました。その後、会場との意見交換を通じて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を向けて「大学ができることや役割」について活発な議論が行なわれました。

＜報　告：仙台大学東京事務所
研究員　金　賢植＞

一般社団法人栄養士養成施設協会第3回通常総会


日 時　平成26年6月26日午前11時より

場 所　宮城県･江陽グランドホテル

第3回通常総会出席者名簿

一般社団法人全国栄養士養成施設協会

社団法人から一般社団法人へ移行してから初めての総会が開催され、収支決算の報告や事業計画の他、今後の協会運営を円滑にするために多くの活発な意見が挙げられた。現在、栄養士養成施設協会に入会している管理栄養士・栄養士養成施設校は98.1%（257施設）である。

これだけ多くの栄養士養成施設があるのは世界でも日本だけであり、栄養・食について関心が高いことがうかがえる。

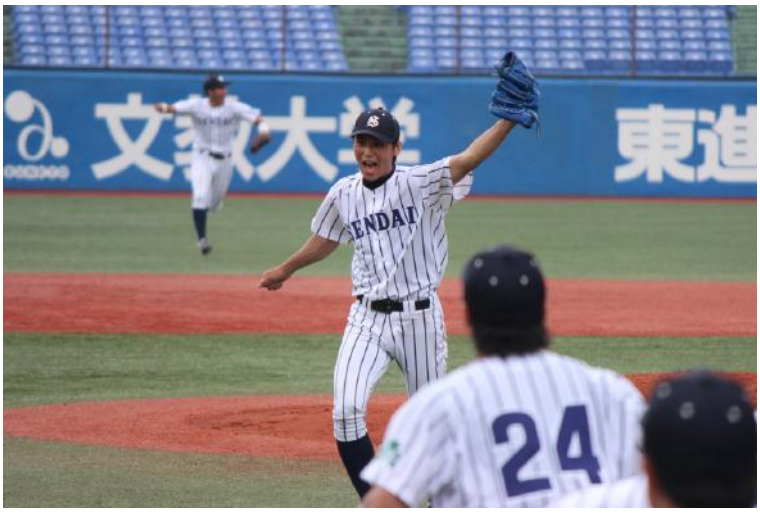
栄養士実力認定試験の受験割合は、栄養士養成課程で70%、管理栄養士養成課程で30%であり、今後全校参加を目標とする。また将来の国家試験化に向けてガイドライン及びコアカリキュラムを作成中である。

最後に、栄養士の就職率の向上に向け、今後の新規職域開拓先として教育、介護福祉方面へのアプローチが進むとのことであった。そこで運動栄養学科においても本学の強みである教育、健康福祉分野と協力をしながら、今後の学生指導をすることが有益であると思われる。

栄養士養成に関する流れを知ることが、今後の運動栄養学科の教育方針を考える大変貴重な機会をいただきました。心より感謝申し上げます。

＜報　告：講師　横田由香里＞

硬式野球部、接戦を制して全国初出場初勝利－準々決勝へ



勝利の瞬間、喜びを表す熊原投手＝明治神宮野球場

6月11日（水）、神宮球場（東京都新宿区）で「第63回全日本大学野球選手権大会」の2回戦（本学はシード校で2回戦から登場）が行なわれ、仙台大学（仙台六大学野球連盟）が福岡大学（九州六大学野球連盟）を延長10回タイブレークの接戦の末に3－1で下し、見事、全国大会初出場を初勝利で飾りました。

試合は、息詰まる投手戦。先発・熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科4年－宮城・柴田高校出身）は、5回裏1死2塁のピンチで相手に2塁打を打たれ1点を失います。さらに、次打者にも右前に運ばれますが、右翼手・鶴田剛也（つるたごうや）選手（体育学科2年－栃木・作新学院高校出身）の好返球で追加点を与えませんでした。相手投手に完全に抑え込まれていた仙台大学打線でしたが、7回表、代打・渡邉優佑（わたなべゆうすけ）選手（体育学科4年－東京・帝京高校出身）がようやくチーム初安打を放ちました。八回表、この回先頭の5番・薄井新（うすいしん）選手（体育学科3年－栃木・矢板中央高校出身）が左越えソロ本塁打を放ち、遂に同点に追いつきます。そして試合は、1死満塁から始まるタイブレーク方式の延長戦へ突入。4番・松本桃太郎（まつもとももたろう）選手（体育学科2年－北海道・北海高校出身）の鋭い打球が敵失を誘い勝ち越しに成功。さらに相手の捕逸で2点目を奪い3－1。最後は、福岡大学の攻撃を熊原投手が抑え、全日本大学野球選手権大会初勝利し、準々決勝にコマを進めました。

仙台大学の1塁側スタンドには、本学硬式野球部OBや同窓生、姉妹校である明成高校の吹奏楽部の生徒、選手の父母らに加え、柴田町の地域の方々も応援に駆け付け、計約450名の皆様が選手に大声援を送り続けて下さいました。誠に有難うございました。

硬式野球部、全日本選手権ベスト4ならず―準優勝校の神奈川大学に1－3

7回途中から登板し好投する野口投手＝神宮球場

6月13日（金）、神宮球場（東京都新宿区）で「第63回全日本大学野球選手権大会」の準々決勝が行なわれ、仙台大学（仙台六大学野球連盟）は神奈川大学（神奈川大学野球連盟）に1－3で敗れ、ベスト４進出は果たせませんでした。

仙台大学は0-1の2回表、1死2・3塁から8番・加藤大地（かとうだいち）選手（体育学科4年－千葉・東海大望洋高校出身）の内野ゴロの間に同点に追いつきます。しかし、1－1で迎えた6回裏、先発・熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科3年－宮城・柴田高校出身）が粘投するも連打を許し、勝ち越されました。その後、7回裏に適時2塁打を打たれ、3点目を奪われたところで降板。救援した野口亮太（のぐちりょうた）投手（体育学科4年－群馬・前橋商業高校出身）が踏ん張り、1回2/3を無安打無失点3奪三振に抑える見事な投球を見せました。9回表、1死2・3塁の同点機にあと一本が出ず、1-3で惜敗しました。

この日も仙台大学の1塁側スタンドには、本学硬式野球部OBや本学応援団・チアリーダーのOB・OG、同窓生、選手の父母、地元柴田町の地域の皆様など約200名が応援に駆け付け、選手に大声援を送って下さいました。準々決勝で敗れはしましたが、仙台大学ナインの戦いぶりにスタンドは立ち上がり、大きな拍手で健闘を称えて下さいました。

仙台六大学野球春季リーグ戦及びリーグ史上初のプレーオフ、第63回全日本大学野球選手権大会では、皆様方からたくさんの応援やご支援を頂き、関係者一同心から感謝申し上げます。

男子サッカー部、天皇杯県予選―準決勝敗退

得点を決め喜ぶMF高橋選手(8)＝仙台大学サッカー･ラグビー場

6月8日（日）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「天皇杯全日本サッカー選手権　宮城県予選」の4回戦が行なわれ、仙台大学男子サッカー部は東北学院大学と対戦し、3－0（前半1－0、後半2－0）で勝利しました。5月25日（日）の総理大臣杯全日本サッカートーナメント東北地区予選の準決勝で、1－2で敗れた東北学院大学にリベンジした形となりました。得点は、前半にMF熊谷達也（くまがいたつや）主将（体育学科4年―柏レイソルユース出身）、後半にMF高橋晃司（たかはしこうじ）選手（体育学科3年―青森山田高校出身）とMF吉田優哉（よしだゆうや）選手（スポーツ情報マスメディア学科2年―岡山学芸館高校出身）が挙げました。

6月22日（日）、宮城県サッカー場で同予選の準決勝が行なわれ、本学は東北社会人リーグ1部の強豪コバルト―レ女川と対戦。自力に勝る相手に1－3で敗れ、惜しくもソニー仙台FCとの代表決定戦に進めませんでした。得点は、前半に同点のフリーキックをMF高橋惇選手（たかはしあつし）（スポーツ情報マスメディア学科4年―ベガルタ仙台ユース出身）が決めました。

引き続き、仙台大学男子サッカー部への熱い応援をよろしくお願い致します。

ヘディングで激しく競り合うMF吉田優哉選手(27)。相手DFは、木内瑛選手(4)（平成25年体育学科卒―秋田・西目高校出身）＝宮城県サッカー場

空手道部、個人形･加藤まな選手（現代武道学科3年）が3年連続優勝／東北地区大学体育大会

3年連続優勝を果たし、Vサインする加藤選手（前列中央）＝岩手県営武道館

6月29日（日）、岩手県営武道館で「第65回東北地区大学体育大会 空手道の部 女子個人形」が行われ、本学の加藤（かとう）まな選手（現代武道学科3年－宮城･聖ウルスラ学院英智高校出身）が見事3年連続優勝を果たしました。

加藤選手は、7月6日（日）に大阪市中央体育館で開催される「第58回全日本学生空手道選手権大会」に出場します。「もう一度、筋力トレーニングと体幹トレーニングで身体の芯を鍛え、全国大会に臨みたい。昨年は予選敗退という結果に終わったが、今年こそ予選突破を果たしたい」と話しました。

＜空手の形（型）＞

一人で演武する競技です。技を決まった順序で演武し、その練度・正確さ・緩急・その他の諸要素を総合的に競うものです。演武時間は形によって数十秒から数分間続きます。

女子柔道部―代表戦の末、東海大学に惜敗／全国ベスト8逃す

東海大学に代表戦で敗れた中村選手は悔し涙を流した＝日本武道館

6月28日（土）、団体戦(5人制)で争う「全日本学生柔道優勝大会（女子23回）」が日本武道館（東京都千代田区）で開催されました。本学女子柔道部は2回戦で近畿大学に2－1で勝利し、3回戦に進出しましたが、強豪・東海大学に代表戦の末に敗れ惜しくもベスト８を逃しました。

近畿大学戦では、先鋒･伊藤美麗（いとうみらい）主将（現代武道学科4年―静岡･藤枝順心高校出身）と次鋒･工藤千佳（くどうちか）選手（現代武道学科3年―青森･五所川原農林高校出身）が一本勝ちを収め、チームの勝利に貢献。

ベスト８をかけた東海大学戦は、激闘となりました。先鋒･伊藤美麗主将（同）が2試合連続となる一本勝ちを収め、チームに勢いをつけ、次鋒･工藤千佳選手（同）と中堅･下沢由季選手（現代武道学科1年―埼玉･桶川高校出身）が引き分けに持ち込みましたが、副将･鈴木真佑（すずきまゆ）選手（体育学科4年―京都文教高校出身）が敗れ、1―1で勝負は大将戦へともつれ込みました。大将･中村優（なかむらゆう）選手（現代武道学科3年―静岡･藤枝順心高校出身）は相手選手と激しく攻め合うも両者決め手のないまま引き分け。試合は引き分けた階級の中から1 組が抽選され、大将の代表戦が行なわれることになりました。代表戦でも大将･中村選手（同）は果敢に攻めましたが、試合中盤に一本を取られ、本学は3回戦敗退も16強入りを果たしました。

引き続き、本学女子柔道部への温かいご声援を宜しくお願い致します。

2試合連続となる一本勝ちを収めた伊藤主将（左）

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.99／ 2014 July
（月1回発行）

仙台大学 広報室

Monthly Report

本学OB亀山耕平選手―2014年世界体操競技選手権日本代表に決定

「あん馬」で優勝し、表彰式で笑顔の本学OB亀山選手（中央）。右は３位の古谷選手

７月６日（日）、千葉ポートアリーナで開催された「第68回全日本体操種目別選手権」の「あん馬」で、世界王者の本学OB亀山耕平（かめやまこうへい）選手（徳洲会体操クラブ／平成22年体育学科卒―埼玉栄高校出身）が15．900点を記録し、２連覇を飾りました。王者の貫録を見せ、2014世界体操競技選手権（10月・中国）への派遣照準得点をクリアし、昨年に続いて代表入りを果たしました。引き続き、亀山選手にご注目頂ければ幸いに存じます。

なお、「あん馬」の３位には、古谷嘉章（ふるたによしあき）選手（体育学科3年―大阪・清風高校出身）が入りました。

PROFILE

亀山　耕平（かめやま　こうへい）／2014世界体操日本代表

1988年12月28日生まれ。仙台市出身。
170cm／62kg。血液型Ｂ。
仙台スピン体操クラブで体操を始める。
仙台市立幸町南小学校―東北学院中学校―埼玉栄高校―仙台大学―徳洲会体操クラブに所属。
2013年世界体操競技選手権「あん馬」優勝。

＜　目　次　＞

本学OB亀山耕平選手―2014年世界体操競技選手権日本代表に決定	1
平成26年度海外武道実習	2
規律と楽しさと充実感―平成26年度仙台大学海浜実習	5
カリフォルニア州立大学ロングビーチ校からの留学生が亘理・仮設住宅の住民と交流	6
「未来(あした)への道1000km縦断リレー2014」ふれあいランニングに本学学生も参加	7
学生の競技結果	9

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。。

広報室
直通　0224-55-1802
内線　佐藤美保　256
渡辺誠司　271
土生佐多　200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

平成26年度海外武道実習

平成２６年度の海外武道実習が平成２６年６月３０日（月）～７月４日（金）までの日程で実施された。参加者は学生１５名および引率教職員４名の計１９名が龍仁大学（韓国）において実習を行った。この実習は、海外における武道教育に関

する学習体験の場として、本学と提携している韓国・中国の大学を中心に日本の武道、韓国伝統武道を通じて警護・警備について学習することを目的としている。今回、初めて女子学生３名の参加があったが、寮の受け入れ態勢や生活して行く上での問題等は特段見られなかった。龍仁大学の国際交流センター長からは、次年度以降のプログラムを実施するにあたり、更に学生間の交流を促進するために、期間を前倒しにし、龍仁大学の授業実施期間に実施してはどうかとの提案があった。また、同時に授業実施期間中に寮が利用できるかどうか等の問題が挙げられた。（韓国では、６月３０日の時点で既に学生は夏季休業中である。）今回は、実習を実施するにあたり、フェリー事故や地下鉄の事故等が重なり、韓国においての実習の実施が非しかしながら、東京事務所の金賢植研究員に同行して戴いたことで、全てにおいてスムーズに実施され、全員が無事に帰国できたことを感謝したい。

来年度に向けての課題としては、上述した学生間の交流を実施するための日程調整、渡航準備のための事前指導の徹底があげられる。また、警護・警備に関する授業が多いため、参加する学生も将来この方面へ就職を希望している学生に受講を勧めていきたい。

＜報 告：現代武道学科事務担当 中鉢　芳尚＞

○海外武道実習に参加

熊谷直明（くまがいなおあき）さん（現代武道学科2年―仙台西高校出身）

今回、海外武道実習に参加したことでこれまで私が抱いていた世界観は一変しました。なぜなら、射撃やテロリズムについてなど日本では想像もつかないような授業を受けることができたからです。また、韓国での犯罪対策、警備警護の内容は私の頭の中で考えていたものとは異なり、ＳＦ映画のような技術を用いていることに驚きました。この実習で学んだ授業の内容や、韓国の方々と交流を深めたことは、今後の人生の糧になると思います。

日本とは全く違う言語、文化に触れることは、貴重な体験であり、今の日本に求められるグローバル社会に適応できる人材に成長するために、現代武道学科の後輩たちにも是非この実習に参加してもらいたいです。

平成26年度仙台大学同窓会総会を開催

7月5日（土）、ＫＫＲホテル仙台（仙台市青葉区）で「平成26年度仙台大学同窓会総会」が開催されました。北は北海道から南は沖縄まで、19支部の支部長または事務長がご出席下さいました。

本学同窓会本部からも鈴木会長、小関・半澤・橋本の三副会長などが出席。総勢31名が参加し、活発な議論が繰り広げられました。

総会では、大河原事務次長の司会のもと、鈴木会長の挨拶に続き、平成25年度事業報告並びに平成26年度事業計画（案）について協議がなされました。「第63回全国大学野球選手権大会」に初出場した硬式野球部への支援金については、同窓会が一部負担することで了承。また、同窓会の法人化に向けては、引き続き検討する旨了承されました。最後に半澤副会長より、今後の仙台大学同窓会の発展を祈念する挨拶があり、無事に閉会されました。引き続き行われた懇親会では、朴澤理事長・学事顧問、阿部学長、若井副学長、吉田事務局長も出席。和やかな雰囲気の中、同窓生相互との交流が深められ、盛況のうちに閉会となりました。

2014NATA年次総会参加報告

（写真1）

（写真2）

平成26年6月26日（木）から28日（土）（現地時間）にアメリカ合衆国インディアナ州インディアナポリスにて、第65回National Athletic Trainers' Association（以下、NATA）年次総会が開催され、朴澤泰治理事長・学事顧問、村上憲治准教授、小田桂吾講師、 髙橋陽介助教、齊藤広子新助手の５名が参加した。

NATA年次総会は、年に１度公認アスレティックトレーナーや全米の学生アスレティックトレーナーが一同に集う場となっており、スポーツ医科学に関わる最新の研究情報を聴講することができるだけでなく、最新のアスレティックトレーニング用品を入手することができる展示場も設けられている大規模な集会である。写真１は，多くのアスレティックトレーナーで賑う展示場の様子である。

またインディアナ州には、髙橋陽介助教の母校であるインディアナ州立大学（以下，ISU）があることから、参加者全員でISUの施設視察も滞在中に実施した。視察は主にアスレティックトレーニング施設を中心に行なったが、３年程前にアスレティックトレーニングルームを新設拡大したようで、献体解剖室など多くの最新設備を取り揃えていた。その背景には、アスレティックトレーニング学科の他に理学療法学科や作業療法学科などの医療関連学科新設があったようである。写真２は、新設されたアスレティックトレーニングルーム活動の様子である。

総会へ参加することで，スポーツ医科学に関わる多くの最新情報を入手することができた。今回の経験を，個人の知識向上目的だけでなく、今後の仙台大学アスレティックトレーニングの発展に活かしていければと考えている。

＜報　告：体育学科
スポーツトレーナーコース
助教　髙橋　陽介＞

学科一日体験会を実施

スポーツ情報マスメディア学科一日体験会の様子

毎年、仙台大学では、本学の「中身」をもっと知り、納得のいく大学選びをしてもらうために「学科一日体験会」を実施しています。

今年度は、7月12日（土）に体育学科＆スポーツ情報マスメディア学科、7月13日（日）に健康福祉学科、7月19日（土）に現代武道学科、7月20日（日）に運動栄養学科の「学科一日体験会」を実施し、多数の生徒や保護者の方々がご来場下さいました。各学科の特色ある授業を受講され、仙台大学についてより理解を深めて頂けたなら幸いです。

お越し下さいました皆様、誠に有難うございました。

○スポーツ情報マスメディア学科一日体験会に補助学生として参加

きむらはるか
木村春香さん（スポーツ情報マスメディア学科1年―宮城・明成高校出身：女子サッカー部所属）

高校生たちが楽しみながら参加できるよう心がけました。大学の授業で受けた「レクリエーション実技」のゲームをして、高校生たちとコミュニケーションを図りました。笑顔が見られた時は、嬉しく、経験が生かせたと思いました。「すごく楽しかったです」「オープンキャンパスも来たいです」と言われた時は、疲れも吹っ飛びました。本当に勉強になりました。

大和町立鶴巣小学校スポーツ指導・特別スポーツプログラム報告

大学バスで移動

アイスブレイクゲーム

スポーツ玉入れ

タグラグビー

ミニテニス（プレイ＆ステイ）

プラズマカーレース

教頭先生の終わりのお話し

学生達の自己紹介カード

昨年の前期から、仲野ゼミではゼミ活動の一環として毎月１回、鶴巣小学校でスポーツ活動指導を継続して実施してきました。これは、本学が大和町からの要請を受け、機構業務の一領域として大和町の保健福祉課と連携をとり、健康づくり事業で町民の健康増進や食事や栄養指導、体力アップなどを向上させるプロジェクトを展開するというものです。

最初に児童たちにゼミ生の名前を覚え興味関心を持ってもらうための戦略として行ったのが、各自の自己紹介カードの作成でした。学校側にお願いし、写真の通り職員室の前の廊下に20枚張っていただいたことが功を奏し、ゼミ生と児童たちが打ち解けるまでに時間はかかりませんでした。月１回のスポーツ支援活動は実質35分間しかないので、ルールや技術などを紹介したニュースポーツの道具をそのまま置いて帰り、翌月までの休み時間で自由に実施できる環境を作り、最低１種目を２ヶ月間継続して実施してもらいました。しかしながら、学校訪問の１回当たり35分間でできることは限られてしまうため、せめて２時間程度の時間を確保し、幾つかの種目を連続で体験してもらうプログラムを実施したいと学校側に交渉した結果、今回の特別スポーツプログラムが実現しました。

１学期終了後にスタートするサマースクールの初日を提供してくださり、以下の時間帯で全体でのアイスブレイクの後、各学年に４種目を体験してもらいました。

8:30-9:00　開会のお話の後、　３～６年生全員でアイスブレイクのレクリエーションゲーム（体育館）

9:10-9:50　　１・２校時

⇒　５・６年生は体育館でスポーツ玉入れとプラズマカーレースを体験

３・４年生はグラウンドでミニテニスとフラッグフットボールを体験

＊後半グランドが高温になることが予想されたので、高学年は前半を体育館、後半をグラウンドとしました。

9:55-10:35　３・４校時

⇒　３・４年生は体育館でスポーツ玉入れとプラズマカーレースを体験

５・６年生はグラウンドでミニテニスとフラッグフットボールを体験

10:40　閉会のお話・解散

当日は、大学に6:50分・集合出発として集合し備品を積み込んで出発、帰りは12時に大学に到着し解散というスケジュールで実施しました。何よりも感心したのは、ゼミ生たちが子どもたちをリードするのが上手くなっているということです。守らせることは守らせ、自由に遊ばせるところは遊ばせるなど、メリハリを付けた指導ができるようになりました。児童もすっかり名前を覚えてくれており、とてもいい雰囲気が形成されています。

２学期の毎月の指導は、10月から再開となりました。外遊びや運動に対する興味関心の高まりや行動変容にどこまで踏み込めるかは分かりませんが、ゼミ生たちと一緒に最後の半年を楽しみながら指導していくことにします。最終的に何らかのエビデンスとして効果が検証できればと期待しています。

＜報　告：大和町支援・実行委員長
仲野　隆士（体育学科長）＞

規律と楽しさと充実感―平成26年度仙台大学海浜実習

平成26年度海浜実習が、例年通り山形県鶴岡市由良浜海水浴場で7月１９日（土）から21日（祝・月）まで開催された。三日間を通じて梅雨明け前とは思えない晴天が続き、ひとりの落伍者も出ず、成功裏に終わった。参加学生は1年生を中心に82名、指導スタッフは、補助学生を含め23名だった。

18日に先発隊が現地で、テント、ボート、備品等を準備し、19日昼、19日朝大学をバスで出発した実習生を迎えてくれた。船岡は小雨交じりの曇天であったが、日本海は晴れていた。北を見れば、海越しに鳥海山の雄大でなだらかな稜線が見える。頂上は雲に隠れていたが、その背後の空の深い青と対照が際立つ。浜辺に寄り添う民家の背後の丘は、深い緑に覆われている。浜辺の白砂に続き白山島が港を守るかのように海から屹立している。由良は相変わらず美しい（筆者は、15年ぶりに参加した）。

各民宿で昼食の後、午後2時から実習開始である。浜辺に整列した学生は、その整列もまだままならない。整列、点呼、入退水の練習が続く。その後級に別れての訓練である。A級宮城、B級菊地、C・D級永田の各主任のもとで、それぞれの泳力に応じ練習が続く。日が西に傾くころ、風景の全体は黄色い光に満たされ始める。他の海水浴客も帰りだす。この日の最後の点呼のときは、白、青、黄、赤の仙台大学の旗の下、整列した学生のみが浜辺に残っていた。

２日目20日は日曜日で、前日よりも海水浴客は多かったが、地元の人によれば、かつてよりも大分減ったとのことだった。A級は泳いでの海洞探検、スキンダイビング、白山港からの飛び込みなど多くのメニューをこなしたが、余裕が見られた。B、C級は、白山島巡り、カヌー、スキンダイビングなどをこなし、それぞれ楽しんでいたようである。特筆すべきは、この日D級が白山港から沖にまで出て浜辺の本部にまで向かい、60分以上の小遠泳をみな泳ぎきったことである。これは、明日の大遠泳への光明であった。

21日は海の日であった。午前に全員で編隊を組み、大遠泳に臨む。例年この編隊編成は実習長宮城先生の創意にかかる。全員がまとまって泳ぎきれるかどうか、その編成によるところも大きいからである。その際、各級各学生の泳力を考慮し編成を組まねばならない。前列と中心軸にA級学生、中心軸の外側にB、C、D級学生、後尾にはD級学生を配し、最後尾から泳力の優れた補助学生が落伍者を出さぬよう追尾する。入水地点は、由良浜を一岬隔てた麹ヶ浜である。そこから由良の本部まで、予定を30分超えた90分の大遠泳となった。途中、潮の流れによって、沖に出ようとする編隊が浜側に押し流された。多少遅れる学生も出たが、最後はきれいな編隊を組んで本部前に上陸できた。いかにも体育（系）大学学生の雄姿であった。よき指導を得て、一致協力してある目標を達成する姿は美しい。今回もそれを目の当たりにすることが出来た。

＜報　告：教授　小松　恵一＞

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の短期留学生が来訪

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の皆様と一緒に＝仙台大学

7月22日（火）～8月3日（日）の日程で、国際交流関係にある米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校から、スポーツマネジメント専攻の大学院生10名及びテリー・ヤマダ先生（写真前列左から3番目）が本学を訪れ、7月23日（水）には、阿部芳吉学長（写真前列右から3番目）を表敬訪問されました。

阿部学長からは「短い期間ではありますが、日本の習慣や歴史・文化などに触れ、有意義な体験をしてほしい」と歓迎の挨拶があり、その後、留学生全員が日本語で自己紹介を行ないました。

本学で同大の留学生を受け入れるのは、昨年に引き続き2回目で、今年度の留学テーマは「米国スポーツとの比較を通じて日本のスポーツにおける歴史と文化を探る」です。

滞在期間中には、本学教員による日本語教室や英語による講義が開講され、被災地の仮設住宅でのボランティア活動など、充実したプログラムとなりました。

カリフォルニア州立大学ロングビーチ校からの留学生が亘理･仮設住宅の住民と交流

仮設住宅の住民に歌とダンスを披露する留学生たち
＝亘理町公共ゾーン仮設住宅

7月25日（金）、本学に短期留学中の米国・カリフォルニア州立大学ロングビーチ校の大学院生10名が、ボランティア体験学習の一環として、東日本大震災で甚大な被害を受けた亘理町を訪れました。仮設住宅に暮らす住民との交流を通じ、被災地の実情を確かめました。

留学生たちは、仮設住宅の住民約30名と一緒に歌やゲーム、運動不足解消のための体操・ストレッチを行ない、交流を深めました。また、仮設住宅の住民に歌とダンスを披露し、会場を盛り上げました。

本学では震災直後より亘理町公共ゾーン仮設住宅で「エコノミークラス症候群予防のための運動指導」を実施しており、今も活動を継続しています。

「未来(あした)への道1000km縦断リレー2014」ふれあいランニングに本学学生も参加

ふれあいランニングの様子＝平成の森しおかぜ球場（宮城県南三陸町）

7月26日（月）、平成の森しおかぜ球場（宮城県南三陸町）で「未来(あした)への道1000km縦断リレー2014」ふれあいランニング（主催：東京都及び東京都スポーツ文化財団）が行なわれ、本学学生も参加しました。本学からは、硬式野球部・男子サッカー部・教職員の計25名が参加し、約1.2kmをゆっくりとしたペースで、一般参加ランナーと共に走りました。また、阿部芳吉学長も一緒に走りました。

1000km縦断リレーは、東日本大震災からの復興をスポーツの力で支援することを目的に行われており、昨年に続いて2回目の開催。青森から東京までの約1,200km・全164区間を15日間かけて襷をつないでいくリレー形式で行なわれ、ランニングまたは自転車で走行します。

今回からは新たに、公園等を会場とする「ふれあいランニング」という区間が全10区間（会場）に設けられました。約500m～1.8kmの区間を参加ランナーたちがゆっくりとしたペースで一緒に走って、区間の代表者が次の区間走者に襷をつなぐというものです。

東運動公園（青森県八戸市）から受けた襷（たすき）は、無事に平成の森しおかぜ球場（宮城県南三陸町）の代表走者に引き継がれ、次の区間である石巻市総合運動公園（宮城県石巻市）へと向かいました。その後、襷は榴岡公園（宮城県仙台市）―雲雀ヶ原陸上競技場（福島県南相馬市）―郡山総合運動場（同郡山市）―アクアマリンパーク（同いわき市）―カシマサッカースタジアム（茨城県鹿嶋市）―旭スポーツの森公園（千葉県旭市）へと向かい、8月7日（木）、シンボルプロムナード公園（東京都江東区・青海）にゴールする予定です。

手を振りながら笑顔で走る阿部学長

東北楽天イーグルス野球観戦―留学生

7月11日（金）東北楽天ゴールデンイーグルスVS千葉ロッテマリーンズの試合を観戦してきました。台風8号は11日午前、関東の東の海上で温帯低気圧に変わり、愚図ついた天候ではありましたが、幸い試合は開催されました。

楽天の試合も台風のように勢いのある試合となり、とても面白い試合となりました。楽天は6－6で迎えた6回裏、松井稼頭央選手の二塁打で勝ち越しに成功しました。その後、同点を許しますが8回、聖澤諒選手の三塁打で勝ち越し。結果は8－7で楽天がシーソーゲームを制しました。

留学生の中には初めて野球観戦をした者もおり、大変盛り上がりました。この場をお借りして、留学生に貴重な体験の場を提供して下さいました鹿島建設株式会社の方々に感謝申し上げます。

＜報　告：学生支援室　小林真衣＞

本学のPR看板広告―JR船岡駅舎内のデザインがリニューアル

7月31日（木）、本学のPR看板広告が掲載されているJR船岡駅舎内の看板広告のデザインを、老朽化に伴い一新しました。

今回は、2014世界大学野球日本代表に選ばれた硬式野球部の熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科3年―宮城･柴田高校出身）を起用。リニューアルした看板をぜひご覧ください。

日本学校教育学会第29回大会in仙台大学―8月8日･9日･10日に開催

８月８日（金）・９日（土）・１０日（日）の三日間「日本学校教育学会第２９回研究大会」が本学で開催されます。日本学校教育学会は、大学・研究機関等の研究者だけでなく、小・中・高の多くの現職教員の方々が会員として活躍している学会です。

同研究大会は、公開シンポジウムのテーマを「東日本大震災後の復興への取組と学校教育の実践課題」、課題研究のテーマを「教育研究と教育実践の融合はどこまで進んだか―教職大学院における研究者の[当事者性]の地平と課題―」、多文化系学会連携協議会企画のテーマを「地域と学校の連携―多文化共生を担う人づくり、その可能性と課題―」として開催されます。

ビーチバレーボール部、男女共にインカレ出場

狩野・小山ペア（左）と高橋・近藤ペア＝仙台大学ビーチバレーコート

7月6日（日）、仙台大学ビーチバレーコートで「第26回全日本ビーチバレー大学男女選手権大会」東北ブロック予選会（主催：東北大学バレーボール連盟）が行なわれました。男子は、本学の狩野（かのりょう）僚太（たた）選手（体育学科4年―宮城・東北工業大学高校出身）［写真左から2番目］・小山（おやま）優（ゆう）選手（体育学科4年―静岡・稲取高校出身）［写真左端］ペアが3年連続優勝。

女子は、本学の高橋（たかはし）あゆみ選手（健康福祉学科4年―宮城・明成高校出身）［写真右から2番目］・近藤まなみ選手（体育学科2年―福島・南会津高校出身）［写真右端］ペアが初優勝を飾り、8月8日（金）～川崎マリエンビーチバレーコート（神奈川県川崎市）で開催されるインカレの出場権を男女で獲得しました。

狩野僚太選手

小山とはペアを組んで４年目。昨年はベスト１６で敗れ、悔しい結果でした。今年こそは、３位以上を目指し、有終の美を飾りたいです。レシーブ力を高め、相手より拾い負けせず、攻めて勝利を掴み取りたいです。

高橋あゆみ選手

近藤とペアを組んでまだ日が浅いですが、心を一つにして頑張りたいです。ビーチバレーは心理戦や頭脳プレイが魅力のスポーツです。後悔しないよう１戦１戦一生懸命楽しみたいと思います。

軟式野球部、３年ぶりに全国へ―初戦は明治大学

全国大会に向け、打撃練習に取り組む安部主将
＝並松運動場（柴田町船岡）

全日本大学軟式野球東北地区代表決定戦が6月4日（水）仙台市民球場（仙台市宮城野区）で行なわれ、本学が７－４で東北学院大学に逆転勝ちし、３年ぶり３度目の優勝を飾りました。本学は、「第37回全日本大学軟式野球選手権大会」（23チーム出場）＜8月15日（金）～20日（水）：長野オリンピックスタジアム他＞出場を決め、初戦は明治大学と対戦＜8月16日（土）11時30分～長野県営上田野球場＞することになりました。

監督兼任の安部渉（あべわたる）主将（体育学科3年―山形・米沢工業高校出身）は、「絶対的なエースはいない投手陣。継投で乗り切りたい。攻撃面は走れる選手が多い。機動力野球で得点を重ねたい」「目の前の試合を一戦必勝で戦いたい。チーム一丸となって、まずは初戦突破を目指し、一つでも上に行けるように頑張りたい」と力強く意気込みを語り、全国大会での活躍を誓いました。

本学軟式野球部への熱い応援をよろしくお願い致します。

第30回全国選抜フットサル大会東北大会で宮城県選抜チームが優勝
―仙台大学の3選手も全国へ

左から菅原選手･石川選手･笹生講師

7月26日（土）・27日（日）の2日間、マエダアリーナ（青森市）で「第30回全国選抜フットサル大会東北大会」が行なわれ、宮城県選抜チームが優勝しました。同大会には、本学フットサル部の石川大暉（いしかわだいき）選手（体育学科2年―宮城･利府高校出身）とGK菅原瑞生（すがわらみずき）選手（健康福祉学科3年―岩手･不来方高校出身）、本学フットサル部監督の笹生心太講師が宮城県選抜の一員として出場。宮城県選抜チームは、青森県選抜に8－4、山形県選抜に6－3、福島県選抜に5－3で勝利し、仙台大学から出場した三選手も、優勝に大きく貢献しました。

宮城県選抜チームは9月13日（土）～15日（祝・月）に、きびじアリーナ（岡山県総社市）で開催される全国大会へ出場します。

菅原瑞生選手

大舞台で緊張すると思いますが、平常心で自分のプレーが出来るようにしたいです。自分の持ち味は、正確なスロー。フットサルでは、GKのスローがそのまま攻撃の起点となることも多いので、得点をアシストするスローを意識し、チームの勝利に貢献したいです。

石川大暉選手

宮城県の代表として、誇りを持って戦い、全国の舞台を楽しみたいと思います。自分の持ち味は、裏への抜け出しからの得点。課題内容は、簡単に抜かれてしまうことです。全国大会まで残り約１か月ですが、自信を持って本番に臨めるよう練習に励み、全国大会で得点を決めたいです。

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.100／ 2014 August
（月1回発行）

仙台大学 広報室

Monthly Report

~Special thanks to everyone ~
This month August marks the 100th Anniversary of publication of the Monthly Report.

Monthly Reportは おかげさまで100号を迎えました。

仙台大学に広報室が設置されたのは、平成19年4月のことです。当初は、毎週「広報室業務レポート」を発刊し、学内情報の共有・連携を図ってきました。その後、毎月発刊する「Monthly Report」に名称を変え、できるだけタイムリーに、仙台大学の「今」を伝えられるよう努めて参りました。

「Monthly Report」は、今月号をもって100号を迎えることができました。これも偏に、本学関係者のご支援・ご協力のお陰と心よりお礼申し上げます。

今後も「Monthly Report」は、皆様に親しまれる紙面づくりを心がけたいと思います。

皆様からのたくさんのご意見・ご感想をお待ちしております。

＜ 目 次 ＞

Monthly Reportは おかげさまで100号を迎えました。	1
海外における安全・危機管理対応 研修会を開催	2
伊スポーツ教育協会（AISE）で イタリア柔道研修	5
第2回仙台大学心池会練成会を開催	6
第1回NPO法人日本スポーツ栄養 学会・集会	7
学生の競技結果	11

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。

Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

オープンキャンパス2014を開催

8月2日（土）、「仙台大学オープンキャンパス2014」を開催しました。多くの高校生・保護者の方にご来場頂き、誠に有難うございました。

オープニングセレモニーでは、在学生を代表し、ソチ冬季五輪ボブスレー日本代表の黒岩俊喜（くろいわとしき）さん（運動栄養学科3年―神奈川･橘高校出身）、2014大学野球日本代表の熊原健人（くまばらけんと）さん（体育学科3年―宮城･柴田高校出身）、災害ボランティアやデンマークに1年間留学した経験を持つ四釜千尋（しかまちひろ）さん（健康福祉学科4年―宮城･村田高校出身）の3名が高校生に激励の言葉を送りました。また、５学科の体験･紹介コーナーの他に、ミニ講座「保健体育の先生の仕事」、進路紹介「スポーツ選手を支える仕事―体育大学からの進路」、仙台大学とオリンピック･プロスポーツに関する展示などを行ない、本学についてより興味関心を持って頂けるよう努めました。

海外における安全･危機管理対応研修会を開催

海外での注意事項や心構えを説明する小松教授
＝管理研究棟2階大会議室

8月6日（水）、本学管理研究棟2階大会議室で「海外における安全･危機管理対応研修会」（国際交流センター主催）が開催されました。宮城県大河原警察署から講師をお招きし、「海外留学における盗難、薬物、銃刀等に関する注意事項について―その心得と対策―」と題して、近日、留学予定の学生11名に対し、具体的な事例を交えながら「薬物に関すること」・「窃盗に関すること」・「銃刀・強盗に関すること」について注意事項をお話し頂きました。「薬物に関する注意事項」では、「パーティー等で友人から薬物を勧められても毅然と断ること」。「窃盗に関する注意事項」では、「パスポートは自分の身分を証明するもの。偽造され、犯罪に使用される可能性があるので厳重な管理を行なうこと」。「銃刀・強盗に関する注意事項」では、「1992年ルイジアナ州での日本人留学生射殺事件（ハロウィン事件）を教訓に、言語の違いを十分認識しておくこと。語学力（特に聞く力）は大切であること」等が話され、これから留学する学生たちは、メモを取りながら真剣に話を聞いていました。

また、その他の注意事項として、小松恵一教授（国際交流センター企画委員）より「空港では様々な国の人が行き交うので十分注意すること。若い男性の集団は、互いに高揚し合う傾向があるので、警戒が必要であること」が話され、国際交流センター長の高橋まゆみ教授より「どこの国にも“光と影”があることを認識したうえで、事前に情報収集すること。言葉の壁があることを認識し、良い言葉・悪い言葉にはどのようなものがあるか、事前に調べておいた方が良いこと」等きめ細やかな話がなされ、充実した留学生活が送れるよう期待も込められました。

研修会に参加した
野澤照平（のざわしょうへい）さん（体育学科3年―栃木･大田原高校出身）

フィンランドのカヤーニ応用科学大学に１年間留学する予定です。自分の言動・行動に注意してトラブルに巻き込まれないようにしたいです。英語力を向上させ、実りある留学にするため、精一杯努力します。

フィンランド・カヤーニ応用科学大学との共同研究を実施

レストレイターバイクを用いた体験の様子＝仙台大学

8月20日（水）、本学でフィンランド・カヤーニ応用科学大学との共同研究「高齢者等への無理のない健康運動を推進するハード・ソフト両面のノウハウ開発」を実施しました。本学からは、遠藤教授、内野・後藤の両講師が、カヤーニ応用科学大学からは、Veli-Matti、Jonna Kalermoの両研究員が本学近隣の64歳から86歳までの高齢者12名にレストレイターバイク（足こぎ自転車）での運動体験をして頂き、データ収集を行ないました。

この体験では、前面のスクリーンの画面に映し出されたフィンランドの地方都市カヤーニ市内の街並み（仮想空間）を見つつ散策気分を味わいながら、ゲーム感覚でレストレイターバイクを使って体を動かし、楽しく運動しました。

今回の共同研究のねらいは、高齢者の健康や運動機能の維持のために、健康運動等の身体活動を負担に感じることなくゲーム感覚で行なうことができるよう、そのためのソフト（映像開発）とハード（運動マシンシステム）の開発を共同で行ない、これらを活用して、高齢者のリハビリ運動を促し、その運動機能や健康改善効果を両大学で検証するというものです。

今回参加された柴田町槻木在住の男性(81歳)は、「フィンランドの風景を見ながら楽しく運動ができ、今まで感じたことのない新鮮な気持ちになれました。機会があればまた参加してみたいです」と意欲的にお話し下さいました。

カヤーニ共同研究実行委員長の遠藤教授は、「カヤーニ応用科学大学との連携を強めつつ、バーチャルな映像の世界と一体化して楽しく運動を展開し得るプログラム作りに力を入れていきたい」と今後の展望を話しました。

平成26年度学校法人朴沢学園事務職員研修会

仙台発そなえゲームに取り組んでいる様子＝蘭亭

8月11日（月）・12日（火）の1泊2日、秋保温泉・蘭亭（仙台市太白区）で平成26年学校法人朴沢学園「事務職員研修会」が開催され、法人事務局10名・明成高校13名・仙台大学85名の計108名の理事及び事務職員が参加しました。

朴澤泰治理事長・学事顧問より、研修会の冒頭に、「教員と事務職員は車の両輪である。視野を広く、発想を柔軟にするという趣旨を念頭に置きながら、積極的に参加され、実り多い研修会にしてほしい」と挨拶がありました。

次に、市民協働による地域防災推進実行委員会の庄子健一氏から「仙台発そなえゲーム」（プレーヤーが架空の住民になって、「災害に備えるために、自分や地域に何が必要か・何ができるか」について考えながら実践的に学べる参加型ボードゲーム）が紹介され、各グループに分かれて体験活動を行ない、①モノの備え・②行動の備え・③心の備えの三つの備えについて認識を深めました。

翌日には、長年にわたって我が国の文教行政に携わってこられた経験を持つ菅原正弘事務顧問から「大学を取り巻く諸情勢」等についての講話があり、大学人として必要な知識や心構え等を学びました。また、本学の齋藤まり・柳澤麻里子・松浦里紗の各新助手が、仮設住宅での訪問活動の内容を紹介し、「ながら体操」などのストレッチ体操を行ないました。

二日間にわたり、大変有意義な研修会となりました。

美里町社会福祉協議会々長より表彰状を授与

8月10日（日）に「第2回美里町社会福祉大会」が開催され、「社会福祉協力団体」として本学が美里町社会福祉協議会々長より表彰状を授与いただきました。これは、平成23年度から継続してきた被災者への健康支援活動（災害ボランティア）に対して、功績が認められたものです。当日は橋本教授が表彰状を受け取り、齋藤まり・柳澤麻里子・松浦里紗の新助手3名が「気軽にできる健康体操」と題して、来場されていた皆さんと楽しく身体を動かしました。

本学は、平成23年3月11日の東日本大震災の発生直後より、被災地に足を運び、美里町では避難所となった南郷体育館にて、エコノミークラス症候群予防のための運動指導や、中埣仮設住宅集会所にて廃用症候群予防及びコミュニティの再構築を目的とした「健康づくり茶話会＋楽しい運動」の開催など、健康支援活動を行ってきました。中埣仮設住宅は今年5月で閉鎖され、現在は、近くに建設された災害公営住宅中埣上戸団地にて、被災者と地域住民をつなぐ「お茶のみサロン」の支援を行っています。

震災からもうすぐ3年半が経過しようとしていますが、被災地には多くの課題があります。身体面のケアをしていくのが、被災地に立地する体育大学の使命だと考えています。これからもニーズに合わせた活動を続けていきたいです。

＜報　告：新助手　齋藤まり＞

伊スポーツ教育協会(AISE)でイタリア柔道研修　柔道部平塚礼奈さん

～　嘉納治五郎先生の「自他共栄」の教えがつなぐ　イタリアと日本　柔道の絆　～

7月17日～7月30日の期間、本学柔道部の平塚礼奈さん（体育学科2年―宮城・石巻商業高校出身）がイタリアスポーツ協会（AISE）（以下AISE）から招待を受け柔道研修に参加しました。

この研修のきっかけは、AISE創設者チェザーレ・バリオーリ氏が東日本大震災で被災した若い世代の柔道家をイタリアへ招きたいと女子柔道オリンピック金メダリスト谷本歩実さんを通じ打診があったことにあります。谷本さんと親交の深い本学の南條和恵監督に声がかかったご縁と、被災地唯一の体育大学であることから本学学生が参加させていただき、今年で4年目となります。高齢だったバリオーリ氏は2012年に亡くなりましたがそれ以後も途切れることなく氏の遺志を引き継ぐ形で研修は継続されています。

平塚さんは国内外を問わず飛行機に乗ったことがなく、初フライトでの海外研修とすべてが貴重な経験になりました。イタリア到着後、バリオーリ氏の奥様の自宅に招かれ、ウェルカムパーティでAISEの皆さんからの歓迎を受け、その後もミラノ市内などのイタリア観光もさせていただきました。合宿所に移動し練習が始まってからは、一日のスケジュールがびっしりと組まれ、柔道の立技研究、棒剣道、ランニングなどが行われました。

平塚さんは海外選手と練習するのは初めての経験だったそうで、肩部分をつかんで組む独特のスタイルに戸惑いつつも、とても新鮮に感じたと言います。

平塚さんの石巻にある実家は、印刷業を営む自営業でしたが、印刷所兼自宅は震災後の津波ですべて流失してしまいました。現在は仮設住宅に両親と弟が住んでおり、震災の翌年2012年1月に営業を再開し石巻の地で復興のために頑張っているそうです。研修には両親をはじめ、高校2年の弟も喜んで送り出してくれたそうです。

練習後のミーティングでは震災や家族の話をする場面があり、イタリアの方々は皆、彼女の話に耳を傾け、石巻に住む家族が無事だったこと、そして現在も暮らしに不自由をしてないかなど、労りの言葉をかけて下さったそうです。イタリアの柔道家の方々からの優しさに触れた研修となりました。

ひらつか　れな
平塚　礼奈さん
（体育学科2年―宮城・石巻商業高校出身）

なにより柔道を真剣に向き合い、「楽しむ」姿勢が印象的でした。合宿中は、毎日必ず柔道研究の時間が設けられ、例えば、跳腰（はねごし）や小内刈（こうちがり）など日本では敢えて練習しない技もじっくり研究していました。研修は一日一日が楽しく、内容の濃い時間を過ごすことができました。英語やイタリア語が話せたらもっと交流が深まったと思うので語学の重要性をあらためて感じる体験でもありました。

イタリア研修を通じ、震災のことを話す機会をつくり、全ての行程において私が淋しくないよう配慮してくださった心遣いにとても感謝しています。

震災を経験した人間として、AISEの皆さんに恩返しができるようもっと成長していけたらと思っています。

しんちかい

第2回　仙台大学心池会練成会を開催

仙台大学剣道部心池会（ＯＢ会）が主催する、中学生を対象とした練成会を昨年度から行っています。心池会は、剣道部監督の齋藤浩二先生が一昨年５月２日に、京都で合格率１％の超難関とされる剣道八段審査で見事、昇段されたことを機に設立されました。心池会が設立し、ＯＢとしての活動を積極的に行っていこうということで、まずはＯＢ、ＯＧが監督を務める学校に声をかけ、練成会をしてみようというのが始まりでした。

昨年度の練成会では、埼玉県から２校、県内から４校が参加し、２日間に渡る熱戦を繰り広げました。今年度は県内から７校が参加し、昨年度にも勝る戦いが見られました。錬成会後は学生と中学生に稽古をつけたり、学生とＯＢや、ＯＢ同士が稽古をしたりと、昔を思い出しながら良い時間を過ごすことができました。この練成会を通し、ＯＢが何十年ぶりかに顔を合わせたり、十も二十も年上の先輩と共に汗を流し語り合うことができ、ＯＢ会の良さを感じました。中学生も県内はもちろん、県外にも剣友ができる良い機会になったと思います。

練成会を運営するにあたり、在学生にもご協力をいただきました。朝早くからの駐車場係りや、案内係り、審判や記録掲示など、積極的に関わってくれたことに感謝しています。剣道界でＯＢと在学生がこうして運営する練成会は、県内の大学では仙台大学だけです。世代を超えた仙台大学剣道部の「和」を感じました。本当にありがとうございました。

今後の心池会の活動としては、９月２７日（土）に行われる東北学連剣友剣道大会に参加。昨年度は５０歳以下の部で心池会Ｂチームが優勝、Ａチームが３位でした。女子団体でも心池会Ｂチームが優勝、Ａチームが準優勝という成績を収めました。３月には２年に一度行われる全日本学連剣道大会（岡山県開催）に参加予定。前回大会では、女子団体で並居る強豪を破りベスト８という成績を収めました。

この他にも、在学生のこれからの健闘を称え、全日本学生剣道大会に出場が決まった際には、更なる支援なども予定されています。ぜひ東北大会を制し、全日本学生剣道大会でも優勝を目指し頑張ってくれること期待しています。

最後に、ＯＢと在学生が協力し合い、仙台大学剣道部をさらに盛り上げていきましょう！今後とも在学生及び心池会へのご協力とご支援をよろしくお願いいたします。

＜寄　稿：仙台大学剣道部心池会
事務局　　三浦　昇
（平成10年体育学科卒）＞

第1回　NPO法人日本スポーツ栄養学会･集会

岩田講師の発表の様子

テーマ：栄養士養成課程の学生が行うスポーツ選手の栄養サポート活動に関する研究（第3報）～栄養サポート活動を行う学生に対する指導体制～

連日30度に迫る暑さの中、東京都の早稲田大学早稲田キャンパス並びに東伏見キャンパスにおいてNPO法人日本スポーツ栄養学会総会・学術集会が開催されました。

今大会は『エビデンスに基づくスポーツ栄養学の発展を目指して』をテーマとして開催され、国立スポーツ科学センター（JISS）を始め、早稲田大学スポーツ科学学術院を筆頭に他大学からも多くの研究発表がされました。本大学からは、早川公康准教授、岩田純講師が口頭発表を行いました。

3日間を通して、求められるエビデンスとは何かを見出す「スポーツ選手の栄養アセスメント」、2020年に開催される東京オリンピックを見据えた「学校における食育の推進」、米国スポーツ栄養士による「スポーツ栄養プログラム」など多種多様な観点から報告・発表がされました。そのほか、各企業の展示ブースが設けられ、活気溢れる大会となりました。

本学の、運動栄養学科に設立された運動栄養サポート研究会は今年で12年目を迎えました。今年度より、運動栄養サポート研究会の新制度が始動しており、スポーツ栄養学を取り入れた実践力を養うために必要不可欠な知識・技術向上を図るカリキュラムが新たに組み込まれています。今大会で報告された内容には、運動栄養サポート研究会の発展に必要となる情報が数多く報告されていました。

岩田純講師により運動栄養サポート研究会の活動について、前述したように今年度から始動した新制度に関する報告がされ、一研究会として到達目標を確立する重要性を感じました。近い将来のスポーツ界を担う学生アスリートに対して、スポーツ栄養を用いた栄養指導を実践することが出来る研究会としての知識・技術の質が問われてくると感じました。

また、到達目標を設定することで、運動栄養サポート研究会としての目的である「選手の競技力向上に貢献する」そして「将来、栄養士としてスポーツや健康増進の現場で活躍するために役立つ実践経験を積むこと」について追及し、更なる飛躍が求められていると感じました。

今大会は、日本スポーツ栄養学会の最初の大会であり、国外におけるスポーツ栄養について国際シンポジウムとしての研究発表も数多くされました。2020年に東京オリンピック・パラリンピックが開催されることが決定したこともあり、日本の「スポーツ栄養」という分野において、大きな一歩となる大会であったと感じています。

本学からも数名の学生が参加し、他大学や研究機関等で行われている研究についてや日本のスポーツ栄養における課題に理解を深め、多くの刺激を受けていました。

学生の学びの場が学内に留まることなく将来の「スポーツ栄養」を先導する人材となっていくことができるよう、私たち教職員も尽力していく必要があると感じました。

そのためにも、多方面にご活躍されている先生方のお力を借りながら、柔軟な発想や創意工夫が出来るよう精進していきたいと考えています。そして、運動栄養学科のみならず、大学発展に貢献できるよう努めて参ります。

＜報　告：運動栄養学科 新助手 三品朋子＞

NSCAジャパン南関東地域ディレクターセミナー

7月27日（日）に墨田区の合同会社Universal Strength S&Cフィールド錦糸町において南関東地域ディレクターセミナーを開催いたしました。

今回は、仙台大学ヘッドS&Cコーチ加賀洋平氏を講師に招き「爆発的エクササイズ指導の理論と技術」をテーマに講義ならびに実技講習を実施いたしました。

午前の部では、「ストレングス＆コンディショニング」「ウエイトトレーニング」「パワートレーニング」に関して、加賀氏が仙台大学で実施しているトレーニング指導内容の紹介を含めた講義をして頂きました。

近年、日本においてもストレングス＆コンディショニングに関する理解が深まりつつありますが、実際には、その歴史や背景を含め真のストレングス＆コンディショニングについて十分に理解をしていることは少なく、今回の講義においてストレングス＆コンディショニングとは何か？を解説して頂いたことは今後の日本におけるストレングス＆コンディショニングの普及に意義深いものになったのではないかと思います。

また、今回のテーマである爆発的エクササイズ、パワートレーニングについては、ウエイトリフティングとプライオメトリクストレーニングの利点、欠点を解説して頂き、プラットフォームの設置環境に乏しい日本の現状と、ほぼ全てのアスリートの競技動作はプライオメトリクストレーニングそのものであることを踏まえた上で、安全かつ効率的、効果的にアスリートのパワーを向上させるために何をすべきかお話し下さいました。

特に、安全かつ効果的にプライオメトリクストレーニングを実施するためには、十分な筋力、柔軟性を有してなければならないことが強調され、基本的なウエイトトレーニングの重要性を再認識する機会となりました。

午後の部では、爆発的エクササイズを安全かつ効果的に実施するために重要となるのは筋力と柔軟性を向上させることであるという点を踏まえた上で、加賀氏が仙台大学で実施している導入エクササイズであるリバースランジとRDL（ルーマニアンデッドリフト）ならびに上肢エクササイズ、スクワットのエクササイズテクニックの実技講習、各種プライオメトリクストレーニングの解説をして頂きました。

実技講習は、2人ないし3人1組のグループに分かれ、お互いに各エクササイズのエラーテクニックを修正し合うという形で進められましたが、指導対象者のエラーテクニックを的確に見極め、適切なキューイング、フィードバックによって修正させる重要性について理解を深める機会となりました。

今回のセミナーを通して加賀氏からは、我々トレーニング指導者が指導対象者に提供するトレーニングプログラムやエクササイズ指導には、全て理由が存在し「なぜ、そのスタンスなのか」「なぜ、そのフォームなのか」「なぜ、そのトレーニングプログラムなのか」等、「なぜ」なのかを指導対象者に説明出来ることが重要であり、そのために我々トレーニング指導者は、常に知識を深めると共に適切なエクササイズテクニックを身に付けることが重要であると伝えられました。

こうした加賀氏のコメントは、多くの参加者の心に響く言葉になったのではないでしょうか。

今回のセミナーにご参加頂いた皆様も、ご参加出来なかった皆様も、「なぜ」なのかを説明出来るトレーニング指導者として成長すべく、レベルⅠ検定ならびにレベルアッププログラムを活用し、知識を深め適切なエクササイズテクニックを身に付けるべく研鑽を積んで頂けたらと思います。

＜寄　稿：NSCAジャパン南関東
アシスタント地域ディレクター　野口克彦＞

スリランカ、コロンボから報告―横川和幸元仙台大学教授

先生も生徒も普段着です。

リレーの練習、裸足です。

教室です。
（ガラス窓がありません。）

体育の用具入れです。

テーマは「スプリンターの
トレーニングについて」

ストレッチング

表彰台を使用してのボックス
トレーニング

腿上げのタイムトライアル

全体集合

スリランカ教育省の体育･スポーツ課
スリヤーニさん（元オリンピック選手）

皆様こんにちは。７月３日にコロンボへ無事到着し１ヶ月が経ちました。（フライト時間は８時間３０分、時差は３時間３０分です）早速、翌日からJICAの本部で任地派遣前の研修が始まりました。内容は、スリランカの政治・経済状況、社会習慣、社会的階層（カースト制度）、教育制度、宗教と民族対立、占星術（ホロスコープ）に基づく生活、治安対策など多岐に亘るものでした。

その間、教育省（大臣、次官）や日本大使館への表敬訪問、またプライマリースクールの訪問・授業見学も行いました。

未だ見学の段階でコメントするのは控えますが、その印象は日本の体育授業の展開と比較すると驚くことが多々ありました。（映像をご覧ください）また、研修中にカルタラ（コロンボから南へ４０km）で陸上競技顧問の先生方を対象にした講習会があり、その中で講義と実技各１時間担当する機会がありました。大学の授業で使用した資料（パワーポイント）を英語に直して何とか伝わったと思います。（参加者も専門用語は理解できる）実技はジャンプトレーニング（プライオメトリックス・トレーニング）をたくさん紹介しました。しかし、ボックスを使用してのトレーニングは用具がなく表彰台を代用してのトレーニングでした。来週は４日間、スリランカの陸上選抜チーム強化合宿が行われ、コーチングスタッフとして参加します。任地（アヌラーダプラ：コロンボから北へ２００km）の学校は９月から始まります。活動が始まってから、実際の教育現場でどのようなことが行われているのかご報告したいと思います。

＜寄　稿：スリランカ教育省
体育・スポーツ課　横川和幸＞

仙台大学バレーボール　樅の木杯

第33回　仙台大学バレーボール「樅の木杯」大会が、8月23日（土）、24日（日）の両日にわたり、仙台大学第二及び第五体育館において開催された。

この大会は、仙台大学の卒業生が中学校・高等学校において、バレーボール部の卒業生に関わらず、バレーボール部の指導に関わっている方々のチームに声掛けをし、年に一度開催しており、既に33回目という歴史を持っている大会でもある。

33年前のスタート時は高校女子チームがメインであったが、以前本学の女子バレーボール部の指導を行っていた、松本昌三先生が退職された時から新たに中学生女子の部門を設け今回で第16回目の大会となった。また、宍戸勇先生が退職の際に中学生男子の部を設立し今回で第4回目の大会となった。

両日とも気温30度を超える状況の中、体育館の熱気も吹き飛ばすような熱い戦いが各コートで繰り広げられた。

また、仙台大学男子バレーボール部および女子バレーボール部の部員たち大会運営をおこない、準備段階から宿泊の世話や学食での昼食会の世話などを通し多くの事を学ぶ絶好の機会となっている。

男子高校チームの指導者が少ないため、大会は実施されなかったが明成高校男子バレーボール部の生徒たちは、中学男子の大会の補助を手伝ったり、練習の相手をおこなうなどし、明成高校・仙台大学にとっては、生徒・学生募集に関しても有効な大会になっている。

＜報　告：樅の木会　事務局　川村昭宏＞

参加チームならびに試合結果は以下のとおりである。

〇樅の木会長杯（高校女子の部）12チーム

・明成高校・東北生活文化大学高校
・石巻好文館高校　　・宮城第一高校
・聖ドミニコ学院高校　・仙台西高校
・名取北高校・村田高校・石巻高校
・仙台三桜高校
・桜の聖母高校（福島県）
・磐城第一高校（福島県）

優 勝　　東北生活文化大学高校
第2位　　磐城第一高校
第3位　　仙台三桜高校

高校女子の部優勝の東北生活文化大学高校

〇松本昌三　杯（中学女子の部）８チーム

・名取一中・みどり台中・三条中・七北田中
・高崎中　・仙台二中　・七郷中・鶴ケ丘中

優 勝　　七北田中学校
第2位　　みどり台中学校
第3位　　鶴ケ丘中、名取一中

〇宍戸　勇　杯（中学男子の部）７チーム

・名取一中・みどり台中・南小泉中
・大衡中　・高崎中　・志津川中
・円田中

優 勝　　名取第一中学校
第2位　　南小泉中学校
第3位　　高崎中学校

プロ・大学野球交流戦―楽天二軍と引き分け

仙台大学硬式野球部と楽天二軍との交流戦の様子
＝楽天イーグルス泉練習場

本学硬式野球部は、8月17日（日）「楽天イーグルス泉練習場」（仙台市泉区）で、東北楽天ゴールデンイーグルスの二軍と交流戦を行ない、３－３で引き分けました。

本学の先発投手は、2014大学野球日本代表の熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科3年－宮城・柴田高校出身）。

熊原投手は３回１失点。2番手の影浦雅人（かげうらまさと）投手（体育学科3年－北海道・旭川実業高校出身）が２回無失点と好投。3番手の馬場皐輔（ばばこうすけ）投手（体育学科1年－仙台育英学園高校出身）は２回１失点。４番手の野口亮太（のぐちりょうた）投手（体育学科4年－群馬・前橋商業高校出身）が２回１失点。４投手がプロ選手を相手に素晴らしい投球を見せました。

本学の得点は、１回表二死１・２塁で5番・薄井新選手（体育学科3年－栃木・矢板中央高校出身）が２点適時２塁打を放ち先制。２－１で迎えた７回表一死２塁で途中出場の7番・千葉俊選手（体育学科2年－岩手・盛岡大学付属高校出身）が中越えタイムリー３塁打を放ち、３点を挙げました。

本学硬式野球部への熱い応援をよろしくお願い致します。

第41回全日本大学ボート選手権大会―仙台大学が5種目で入賞を果たす

男子舵手なしフォアで３位に入り、表彰式で笑顔を見せる仙台大学の選手たち
＝戸田ボートコース

8月24日（日）、戸田ボートコース（埼玉県戸田市）で「第41回全日本大学ボート選手権大会」が行なわれ、本学漕艇部が５種目で入賞を果たす活躍を見せました。

男子エイトの順位決定戦は、仙台大学エイトが中央大学、東北大学、富山国際大学を破り5位入賞。男子舵手なしペア決勝では、本学の一瀬瑞樹（いちのせみずき）選手（体育学科4年―長崎明誠高校出身）・武田圭司（たけだけいじ）選手（体育学科4年―福井・敦賀工業高校出身）ペアが一橋大学に競り負け、惜しくも２位。

女子シングルスカル決勝は、2013ユニバーシアード女子軽量級ダブルスカル日本代表の中川（なかがわ）ひかり選手（体育学科4年―愛媛・宇和島水産高校出身）が力漕するも、惜しくも一歩及ばず２位。田中香加主（たなかりか）将（体育学科4年―石川・小松商業高校出身）・松尾恵美（まつおめぐみ）選手（運動栄養学科1年―岩手・雫石高校出身）ペアが女子ダブルスカル決勝で３位。男子舵手なしフォア決勝では、仙台大学クルーが３位と健闘しました。

今大会には、運動栄養サポート研究会漕艇部サポートグループの学生4名も帯同し、大会期間中の選手のコンディショニング、疲労軽減・回復のためにサンドウィッチやフルーツの補食、オリジナルドリンクの提供を行い、選手たちを「栄養」の面から支えました。また、本学の阿部芳吉学長・吉田龍哉事務局長及び柴田町ボート協会の皆様約20名も応援に駆け付け、選手たちに大きな声援を送って下さいました。どうも有難うございました。

引き続き、仙台大学漕艇部への温かいご声援を宜しくお願い致します。

ウエイトリフティング部、「第42回東日本大学対抗選手権」―小川選手と大津選手が共に9位

新人選手権に向け、練習に励む小川選手（右）と大津選手
＝仙台大学ウエイトリフティング練習場（第二グラウンド）

7月5日（土）・6日（日）の二日間、埼玉県スポーツ総合センター（埼玉県上尾市）で「第42回東日本大学対抗ウエイトリフティング選手権」が行なわれました。

本学からは、高校時代に山形県チャンピオンだった小川純（おがわじゅん）選手（運動栄養学科1年－山形・鶴岡工業高校出身）が69kg級に出場し、スナッチ91キロ・ジャーク106キロ・トータル197キロで９位。高校3年時にインターハイ３位の実績を持つ大津恭輔（おおつきょうすけ）選手（体育学科１年－宮城・石巻高校出身）も105kgに出場し、スナッチ100キロ・ジャーク130キロ・トータル230キロで９位でした。

小川選手は「記録には満足していない。スクワット（脚力）とデットリフト（背筋力）を強化し、9月中旬に行なわれる東日本大学対抗新人選手権では6位入賞を目指したい」。大津選手は「高校時代はスナッチ105キロ・ジャーク136キロ・トータル241キロが自己ベスト。新人選手権では、体幹の強化を図り、自己ベストを更新したい」とそれぞれ今後の目標を話しました。

男子ビーチバレーボール部、狩野選手・小山選手ペアがインカレ3位入賞

３位のメダルを掲げて笑顔を見せる狩野選手（左）と小山選手ペア
＝仙台大学

8月8日（金）～8月10日（日）、川崎マリエンビーチバレーコート（神奈川県川崎市）で「第２６回全日本ビーチバレーボール大学男女選手権大会」（参加校：22チーム）が開催され、

本学男子ビーチバレーボール部の狩野僚太（かのうりょうた）選手（体育学科4年―宮城・東北工業高校出身）・小山優（こやまゆう）選手（体育学科4年―静岡・稲取高校出身）ペアが３位入賞を果たしました。

予選ブロック（１セット）で大阪経済法科大学Bに1－0、東海学園大学に1－0で勝利し、予選ブロックを1位通過。決勝トーナメント（２セット）1回戦では天理大学に2－0で勝ち、準々決勝の国士舘大学Bにも2－0で勝利。準決勝の中京大学に0－2で敗れましたが、3位決定戦の神戸学院大学Aに2－0に勝利し、見事３位を勝ち取りました。

狩野選手は「大学最後のインカレだったので、気合が入りました。３位は嬉しいです」と話し、「東京オリンピック出場を目指して頑張っていきたいです」と今後の抱負を話しました。

～　Monthly Report will continue evolving and improving along with you all.　～

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.101／ 2014 September
（月1回発行）

仙台大学 広報室
Monthly Report

ハワイ大学マノア校教育学部KRSとの基本合意書締結

左からＫＲＳのムラタ学科長、ヤング教育学部長、朴澤理事長、阿部学長

平成２６年９月３日（ハワイ時間：日本時間の９月４日）仙台大学はハワイ大学マノア校のカレッジコラボレーションセンター（米国ハワイ州）においてハワイ大学マノア校教育学部キネシオロジーアンドリハビリテーション科学学科（ＫＲＳ）との国際学術交流に関する基本合意書を締結しました。

同大学とは、平成６年に仙台大学の姉妹校である明成高等学校で、修学旅行先がハワイになったことをきっかけにし、アスレティックトレーニング及び運動生理学に係る高度な教育内容が本学の学生に適しているとの理由によりさまざまなやりとりを積み重ねた結果、平成１５年１２月に「第１回のアスレティックトレーニング研修」を、平成１６年４月には同大学から無料のインターネットによる「遠隔授業」を実施するなど、着実に学術交流と連携を積み重ねて参りました。

基本合意書締結は、スポーツ科学、体育科教育、アスレティックトレーニング及び運動生理学に係る米国での教育、日本での教育に関する専門的知識・技術の共有をはじめ、共同研究、留学生・教職員交換プログラムの運営他を目的にしています。

【裏面に続く】

＜ 目 次 ＞

ハワイ大学マノア校教育学部KRSとの基本合意書締結	1
大自然の中で仲間と過ごした4日間—平成26年度仙台大学「キャンプ」	4
生活習慣病予防運動教室を開催	5
亘理・仮設住宅で仙台大学と獨協大学との共同ボランティア活動を実施	6
2014東北こども博—10月12日（日）・13日（月・祝）に開催決定	8
学生の競技結果	9

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

調印式に臨んだ教育学部のヤング学部長は「東北地方唯一の体育大学である仙台大学と１０年以上もの永きに渡り信頼あるパートナーシップを深められたことは、ハワイ大学が学生達に国際交流を推進している方針とも合致し、大変画期的な試みです。仙台大学という素晴らしいパートナーに恵まれて、さらに両校が結束し、発展できることを確信しています。」と語り、続いてスピーチをしたサットン国際交流学部長および副学長は「仙台大学が、“スポーツは健常者のみならず全ての人に”という精神を表明し実行している点に感銘を受けました。それこそが、東日本大震災という大災害においても日本人が助け合い、困難を克服しつつある崇高な精神に基づいているのでは　と深く感じ入った次第です。

私は２週間前のハワイ大学入学式で、娘がＫＲＳで学ぶために、わざわざアメリカ本土のヴァージニア州から来た～　というご両親にお会いしました。それほどに同学科は秀でております。

テニスの錦織選手が世界的に大活躍し、２０２０年に東京オリンピック・パラリンピックが開催される日本において、体育を専門にする大学があることに驚きと尊敬の念を抱いており、仙台大学との調印がさらなる飛躍につながることを願っています。」と感想を述べました。

その後、ＫＲＳのムラタ学科長は「１１年もの仙台大学との交流・友情・信頼に心よりお礼申し上げます。仙台大学の学生達が毎年欠かすことなくアスレティックトレーナーや、スポーツ科学などについて真剣に学んでいる姿勢に、ハワイ大学にとっても国際化・異文化コミュニケーションがいかに大切であるかを痛感しています。

今回の基本合意書の締結により、さらに親交を深め、相互の大学が協力してリサーチを行うなど、教育における情報交換も活発化させていきたいと思います。」と話しました。

それらを受け朴澤理事長は「朴沢学園理事長として、このたびのハワイ大学マノア校教育学部との調印を大変嬉しく存じます。昨年亡くなった義弟の宮田が海洋波動の研究のためハワイ大学で過ごした経験から、同大学で学ぶ意義をアドバイスしてくれたこと、学園に併設している明成高校が、修学旅行先としてハワイ大学を選定したことなどをきっかけに、義弟の娘のホノルルでの挙式の機会に打診した結果、理解を得て始まった同大学との交流の経過について、携わって頂いたハワイの多くの関係者に心からお礼申し上げます。この交流をもとにした人材育成の象徴といえるのが、明成高校を卒業し仙台大学に進学、その間を通じてハワイ大学研修に参加し、同大学大学院修学を経て米国アスレティックトレーナー資格（ATC）の取得をやりとげ、現在、ATCとして仙台大学のアスレティックトレーニングルームに勤務する鈴木のぞみ新助手であります。この調印を機に新たなスタートとして、よりアカデミックな連携を深めてまいります。」と英語でご挨拶致しました。

このたびの合意を経て、同校とのさらなる連携にますます期待が高まります。

平成26年度 新任者紹介 挨拶（平成26年7月28日付）

小野勇太　新助手

7月28日より、新助手として採用頂きました小野勇太です。日体協ATと柔道整復師の資格を取得、以前は整骨院勤務でした。本学卒業生として、本学へ貢献できることを誇りに思います。勤務地は明成高校川平ATルームとなり、お会いする機会は少ないかと思いますが、身体の痛み相談はお任せください。今後とも皆様よろしくお願い致します。

今回のハワイ研修に参加させて頂き、誠に光栄に思います。海外でのアスレティックトレーナーの活躍を直に見て交流を持てたことは、とても良い刺激となりました。ハワイ大学と基本合意書締結に至るまでの関係者の苦労を無駄にせず、今後の両校アスレティックトレーナー分野において益々の発展に貢献できるよう努めて参ります。

海を越えて輝く学生達 Summer 2014
～ハワイ大学アスレティックトレーニングアドバンスコース研修終了～

9月1日から9月8日までの期間、8名の本学学生達がハワイ大学アスレティックトレーニングアドバンスコース研修に参加した。

学生たちは、英語研修、アスレティックトレーニング関連施設見学および施設内でのワークショップ（テーピング、水分補給）、KRSでの授業見学（下肢評価および運動生理学）を経験し、下肢評価ではハワイ大学学生と共に演習を行なった。医学部においては、献体解剖の見学も経験することができた。また、アメリカ（ハワイ大学）におけるアスレティックトレーナーの活動現場を見学する目的でハワイ大学アメリカンフットボールチームの練習および公式戦を視察した。

このように多岐にわたるプログラムを通し、アメリカ（ハワイ大学）でのアスレティックトレーナーに関する教育プログラムの一端を理解できたことは参加学生にとってアスレティックトレーニングを身近に感じるとても良い学びになったと考える。

さらに、仙台大学・ハワイ大学マノア校教育学部における国際学術交流調印式、両校の2003年からの交流を記念する式典にも参加と、通常の研修にはない格別な経験を経て、仙台大学の一員であることを強く認識できる最良の機会に恵まれた。

後半、仙台大学・ハワイ大学アスレティックトレーナー関連教職員間の情報交換会も開催され、アスレティックトレーナーの教育、育成、さらに学術研究など双方にとって発展的な意見交換ができ、今後の両大学の交流に欠かせない共通理解が深まった。

参加学生が今回得られた経験を自分だけのものとせず、本学全学生に対しグローバルな視野にたった思考や行動を伝授してもらえることを期待する。両大学の教職員および学生がさらなる発展に寄与できるように努力していきたい。

＜報告：体育学科准教授　村上憲治＞

堀江知世新助手が管理栄養士国家試験に合格しました

堀江知世新助手（平成24年運動栄養学科卒―栃木･氏家高校出身）【＝写真】が管理栄養士国家試験に見事合格しました。堀江新助手に、管理栄養士を目指したきっかけや今後の抱負を聞きました。

Q1.管理栄養士を目指したきっかけは？

私は、スポーツと栄養について学びたいと考え、本学の運動栄養学科へ進学しました。学生生活の中で部活動に対して、栄養指導に携わり、栄養指導を行うためには高度な専門的知識や技術が必要であると感じました。このような経験から、卒業後は実務経験を積み必ず管理栄養士の資格を取得しようと決めました。

Q2.合格までの道のりは？

社会人1年目は日曜日に東京アカデミーに通いながら、平日は自主学習に励みました。しかし勉強時間を十分に確保できず不合格という結果でした。不合格の通知を受け、勉強する気持ちが途切れた時期もありました。しかし受験する仲間と刺激しあいながら、出勤前や通勤中、昼食中の時間を有効に活用することで学習時間を増やしました。1年目不合格という結果を味わったからこそ、今回合格できた喜びは格別でした。

Q3.今後の抱負は？

管理栄養士としてスタートに立ったばかりです。そのため知識・経験共に不足していると感じています。

今後は、健康運動指導士の受験資格があることから、再度勉強に励み資格を取得し、運動栄養学科の卒業生として「運動」と「栄養」両面から指導できる管理栄養士を目指します。

大自然の中で仲間と過ごした4日間―平成26年度仙台大学「キャンプ」

平成２６年度の「キャンプ」が、宮城県白石市「南蔵王野営場（国立花山青少年自然の家管轄施設）」にて行われた。第一団は９月３日～６日、第二団は９月７日～１０日、それぞれ３泊４日の日程で実施された。実習生は、６～７名の男女学科部活混成班に振り分けられ（１団１２班、２団１１班）、野外生活や沢登り、縦走登山に取り組んだ。それぞれの班にはキャンプカウンセラーとして補助学生が１人ずつつき、実習生と生活を共にしながら指導にあたった。

第一団は、雨のキャンプとなった。初日には、雨が降る中テントを濡らさないように設営することが求められ、どの班も苦労を強いられた。しかしながら、夕食作りの頃には協力する姿勢が見られ、スムーズに作業を進められるようになっていった。２日目の沢登りでは、少し肌寒い曇り空のもとで行われたが、今年度の学生たちの元気の良さが印象的であった。飛び込みポイントや一枚岩のウォータースラーイダーでは、次々と学生が水の中にダイブしていった。キャンプ実習が南蔵王野営場に移って３年目となるが、これほど学生が積極的に水の中に飛び込んでいったのは初めてであった。飛び込んだ学生は皆震えながらも、いい顔をしていた。３日目の登山では、途中雨に降られる中、過酷な登山となった。特に、最終班はなかなかペースをあげられず、ケガ人も出て、最終的には１９時２０分にヘッドランプをつけながらの帰着となった。他の班の学生やスタッフ達の暖かい拍手、帰着した者たちのホッとした表情や涙が印象的であった。また、その直前に、他の班のメンバーが「登山から帰ってきてすぐにカレーが食べられるように、彼らの夕食を準備させてほしい」と嘆願してきたことも、とても嬉しい一幕であった。

第二団では、うってかわって天候に恵まれたキャンプとなった。まったくといっていいほど雨に降られることはなく、全てのプログラムを予定通り野外で行うことができた。天候が安定している分、協力して作業をスムーズに進めることができた班には余裕ができる。あいた時間の中で沢遊びや場内散策にでかけたり、ゆったりしたりそれぞれの班で思い思いの時を過ごしていた。

２日目の沢登りや３日目の縦走登山でも、一団と同様に非常に元気であった。この２団で特筆すべきことは、誰一人装備不備者がいなかったことと、全員が３日目の縦走登山にチャレンジし、誰一人欠けることなくコースを歩ききったことである（例年、雨具に不備があったり、ケガで登山にチャレンジできない者がいた）。登山後に行われたキャンプファイヤーでは、各班で考えたスタンツを発表したが、これまた例年にないほどすばらしい出来映えであった（１団も同様に、過去２年間より出来映えのよいものであった）。

南蔵王野営場にキャンプ実習を移してから、今年は３年目の実習であった。オリエンテーションを厳しく行い、先輩からの「大変だけど有意義である」という口コミの影響もあり、年々実習生の質があがっているように感じる。同時に、指導する補助学生の能力や意識も確実に向上している。３年の試行錯誤を通して、原始的な野外生活を基盤として登山をメインプログラムとするキャンプ実習をつくりあげることができたが、よりよい実習のためにスタッフの体制やマネジメント面で改善する部分はまだ残されている。来年度もさらによいキャンプ実習になるよう努力していきたい。

＜記事･写真：岡田成弘講師提供＞

生活習慣病予防運動教室を開催

スクワット（両腕を前に出しながら、ゆっくりと腰を下ろす）の様子

9月5日（金）、本学で「生活習慣病予防運動教室」（主催：柴田町・仙台大学スポーツ健康科学実践機構）の第3回目が行なわれ、柴田町在住の生活習慣病が気になる65歳未満の男女約20名が参加しました。この日は、柳澤麻里子新助手が生活習慣病についての健康講話を行ないました。また、小池和幸教授（写真中央）が運動指導を担当。参加者の皆様は、健康づくり運動サポーター（※）の資格取得を目指す本学の学生らと一緒に、歌を歌いながら足踏みやスクワットをしたり、椅子に座って膝上げをしたりするなどして楽しく運動を行ないました。

柳澤新助手は「参加者にはお一人ずつ歩数計を貸出し、毎日の歩数や運動内容などを2週間ずつ記録用紙に記入して頂いています。生活習慣病予防運動教室が終わる頃には、運動の習慣をはじめ、これからの生活習慣が少しでも変化していくことを期待しています」と話しました。

この運動教室は、「楽しみながら生活習慣を改善し、生活習慣病の予防や転倒、骨折しにくい身体をつくるための知識と運動を学ぶ」ことを目的として、7月～12月まで6回にわたって開催されます。今後は、骨密度測定やインボディ測定などを実施し、生活習慣病の早期発見及び生活習慣の改善のアドバイスなどを行なっていく予定です。

※「健康づくり運動サポーター」は本学独自の認定資格で、同サポーター養成プログラム（実践）を修了することによって認定されます。地域密着型の「健康づくり運動サポーター」養成プログラムは、運動についての正しい知識をもち、「安全に」「元気よく」「明るく」「楽しい」運動指導のできるサポーターを養成し、体育系大学としての特徴を生かして、地域の健康づくりに貢献しようというものです。

柴田町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会プレイベント ―フライングディスク体験会を実施

9月15日（月・祝）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「柴田町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会プレイベント―フライングディスク体験会」（主催：柴田町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会、協力団体：宮城県フライングディスク協会・仙台大学アルティメット同好会）が実施されました。このプレイベントは、フライングディスク（フリスビー）を使った珍しい遊びやゲームなどの体験を通じて、町民相互の触れ合いを図って頂きながら、ディスクスポーツの楽しさを発見して頂き、生涯スポーツに繋がる一つのきっかけを提供することを目的に開催されました。当日は、天候にも恵まれ、柴田町在住の子どもやお年寄り、障がいをもった方など約120名が参加しました。

フライングディスクの正しい握り方や綺麗に投げるためのコツなどは、本学の弓田恵里香助教（2014世界アルティメットクラブ選手権マスターの部日本代表・４位／宮城県フライングディスク協会アルティメット普及委員）から説明【＝写真】がなされ、ディスタンス（遠くに飛ばす種目）・アキュラシー（ストラックアウトのボールがディスクになった的を狙う種目）・ディスクゴルフ（グランドゴルフをディスクで行う種目）・アルティメット（バスケットボールやサッカーをディスクで行う種目）の４種目を体験。参加者の皆様方は、思う存分フライングディスクを楽しみました。

本学の仲野隆士体育学科長（柴田町総合型地域スポーツクラブ設立準備委員会副会長／宮城県フライングディスク協会副会長）は「平成27年3月に柴田町総合型地域スポーツクラブが設立されるように準備を進めている。設立の際は、フライングディスクにも力を入れていきたいと考えている。町民のニーズを確認したかった」と話し、「参加者の皆様方が興味関心を持ってくれている様子が伺え、安心できた」と話しました。

亘理･仮設住宅で仙台大学と獨協大学との共同ボランティア活動を実施

共同ボランティアを終えての集合写真＝亘理町中央工業団地仮設住宅内集会所

9月22日（月）、仙台大学と獨協大学（埼玉県）の学生たちが亘理町中央工業団地仮設住宅内集会所を訪問し、共同でボランティア活動を行ないました。ボランティア活動に参加した学生たちは、仮設住宅の住民の皆さんと交流を深め、楽しいひと時を過ごしました。

本学では、東日本大震災以降、災害ボランティア活動として亘理町でエコノミークラス症候群・廃用症候群の予防を目的とした運動指導を継続して行なってきました。この日も、本学の橋本実教授、齋藤まり･松浦里紗の両新助手に加え、本学の体育学部健康福祉学科の学生3名も「ストレッチ体操」・「ラジオ体操」を行なったり、楽しく歌いながら体を動かしたりするなどの運動指導やレクリエーションゲームを担当しました。また、この日は、本学の災害ボランティア活動に賛同下さった、異文化とのコミュニケーションを学んでいる獨協大学外国語学部･工藤和宏講師のゼミ生12名が「人間図書館」と題して、自らの経験･体験を通して感じたことなどを発表し、住民とのコミュニケーションを図りました。

共同ボランティア終了後は、本学に戻り、仙台大学と獨協大学との学生同士の活発な意見交換が行なわれ、親睦も深めた有意義な会となりました。

スリランカ、コロンボから報告Ⅱ―横川和幸元仙台大学教授

大学食堂のネーム入りプレートです（大きさが分かるよう時計とサングラスを置きました）。

食事風景その１
栄養学的にどうなのでしょう。

食事風景その２
栄養学的にどうなのでしょう。

スリムな選手達です。

感謝の気持ちを表す作法です。

幅跳びの踏み切り板と砂場です。

コロンボから任地アヌラーダプラへ移動して２週間が経ちました。ここは文化三角地帯と呼ばれている都市のひとつです（あとの二つはポロンナルワ、キャンディ）。沢山の遺跡や寺院が点在し、観光の街として知られています。

体育大学でのアンダー１８選抜陸上競技合宿の一部を報告します。

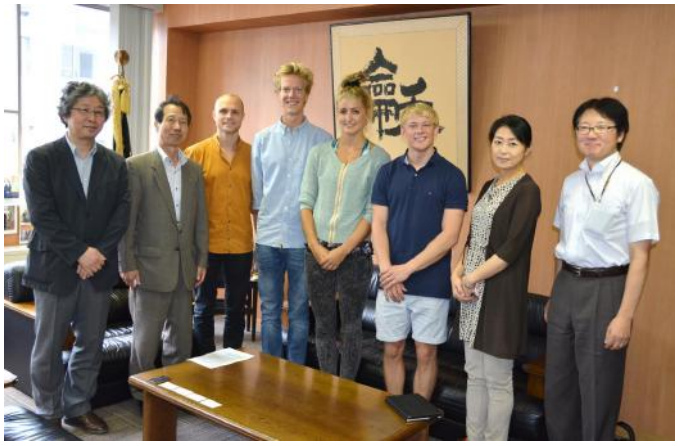
選抜された約４０人は、スリムな形態でバネがあり将来有望な選手もいました。ただ、グランドの状況は土で凹凸がひどく、石ころも転がっています。なかなか全力では走れそうもない環境でした。コーチ達とのデスカッションも何度か行ないましたが、日本のトレーニングシステムが理解できないようです。

「どうしてそんなに練習するのか？」、「それは何回すればいいのか？」「トライアンド・エラーって何だ？」など面白い質問がたくさんあり楽しい合宿でした。

※この合宿で初めて右手の指を使って食事しました。

＜寄　稿：スリランカ教育省
体育・スポーツ課　横川和幸＞

デンマーク・リレベルト大学の学生４名を受入れ



9月16日（火）、国際交流協定校のデンマーク・リレベルト大学の学生４名が、高橋国際交流センター長・鎌田教授・渡邊事業戦略室長と共に学長室を訪れました。Klaus Andersenさん、Sara Seirさん、Patrick Vesthさん、Thomas Damasgaardさんの4名は同大理学療法学科の学生で、18日（金）まで自国と日本におけるリハビリテーションに関する学びを深めるため、日本の文化に触れたり日本の病院を視察したりするなど、日本への理解を深めました。

台湾・台東大学からの交換留学生５名を受入れ

9月24日（水）、国際交流協定校の台湾・台東大学から学生５名が挨拶のため、現在本学大学院1年生である盧彦中さん（写真左端：台東大学と仙台大学の両大学の学位をダブルディグリー制度により取得）と一緒に学長室を訪れました。詹斐雯さん、邱琦玲さん、林旻昊さん、張家謄さんの４名は、１年間、学部の科目等履修生として学びます。また、林彦宇さんは、２年間、ダブルディグリー制度により本学で学位取得を目指します。

ソチ五輪スケルトン日本代表のOB笹原友希選手を励ます会・後援会発足パーティー

写真提供：朴澤理事長

笹原選手に花束を贈呈する
仙台大学同窓会秋田支部の小林支部長
＝秋田キャッスルホテル

9月10日（水）、秋田キャッスルホテル（秋田市）で、ソチ五輪スケルトン日本代表のOB笹原友希選手（平成19年運動栄養学科卒－秋田中央高校出身）を励ます会・後援会発足パーティーが開催されました。秋田テレビや秋田魁新報社など地元企業の方や、仙台大学同窓会秋田支部長の小林恵津子氏（昭和55年体育学科卒）、本学からも朴澤泰治理事長が参加し、62名の方が笹原選手へ熱いエールを送りました。

後援会長の最上英嗣氏（秋田県議会議員）は「2018年の平昌五輪までには、後援会の会員数300名を目標にしたい」。朴澤理事長は「仙台大学とスケルトンの名を知ってもらうためにも頑張ってほしい。大学で学んだスポーツ科学や栄養学を競技力向上に生かしてほしい」と述べました。

笹原選手は「秋田に金メダルを持って帰りたい。感謝の気持ちを忘れず、夢や目標に向かって頑張りたい」と決意を語りました。

笹原選手を励ます会・後援会発足パーティーは盛会裏に終了しました。

2014年度日本芝草学会秋季大会（仙台大学）―10月5日・6日に開催

2014日本芝草学会秋季大会（仙台大学）のチラシ

10月4日・5日・6日の三日間、「2014年度日本芝草学会秋季大会」が本学で開催されます。本大会では、一日目に津波被災地をバスで巡回視察し、翌日から皆様と共にスローガンに沿った討議を重ねる予定です。二日目はゴルフ場部会・公園緑地部会と「防災や復興における芝生地の役割」をテーマとした公開シンポジウムを開催します。三日目は校庭芝生部会・公園緑地部会と「サッカー・ワールドカップブラジル大会の報告」として公開特別講演会を開催致します。

※シンポジウムと特別講演は一般公開で、どなたでもご参加になれます。（予約不要・無料）

2014東北こども博―10月12日（日）・13日（月・祝）に開催決定

2014東北こども博のポスター

仙台大学、柴田町、NPO法人東日本大震災こども未来基金等で構成される東北こども博実行委員会は、来たる10月12日（日）・13日（月・祝）の二日間、仙台大学キャンパスにおいて「2014東北こども博」を開催致します。（仙台大学大学祭と両日同時開催）

東北こども博は、「復興」・「笑顔」をキーワードに2011年10月からスタートし、今年で４回目となります。こどももおとなも、老若男女すべての方々に笑顔をもたらすようなイベントです。おもちゃや遊び、スポーツや音楽、アウトドアなど体験・参加できる楽しさいっぱいの2日間です。

入場は無料ですので、皆さまお誘い合わせの上、ぜひご来場下さい。

＜2014東北こども博公式ホームページ＞
http://www.sendaidaigaku.jp/kodomohaku/

東北アメリカンフットボールリーグ戦開幕

第4クオーター・DB清野雄太主将（33）（体育学科4年―岩手・盛岡南高校出身）がタッチダウンを決め、17-21と4点差に追い上げる。＝ダイナヒルズ運動公園

8月31日（日）、ダイナヒルズ運動公園（宮城県大和町）で「第39回東北アメリカンフットボールリーグ戦」が開幕しました。

３年ぶりの「王座奪還」を狙う本学は、開幕戦で東北学院大学と対戦。３点リードで第２クオーターを終えたものの、第３クオーターで東北学院大学に逆転されました。第４クオーターでDB清野雄太（せいのゆうた）主将（体育学科4年―岩手・盛岡南高校出身）がタッチダウンを決め、４点差に追い上げる粘りを見せるものの、１７－２８で惜敗しました。

WR池端竜也選手(5)（体育学科2年―秋田西高校出身）が華麗なステップで相手ディフェンスを翻弄する。

東北地区大学サッカーリーグ開幕
―12発快勝、インカレ出場に向け好スタート

FW宮澤選手が先制ゴールを決める。＝仙台大学サッカー・ラグビー場

9月6日（土）、仙台大学サッカー・ラグビー場で「第39回東北地区大学サッカーリーグ」が開幕しました。本学男子サッカー部は、秋田大学と対戦し、12－0と圧勝。14年連続31回目のインカレ出場に向け好スタートを切りました。MF宮澤弘（みやざわひろし）選手（体育学科1年－柏レイソルユース出身）とFW蓮沼翔太（はすぬましょうた）選手（体育学科3年－柏レイソルユース出身）がハットトリックの活躍を見せ、大勝に大きく貢献しました。

硬式野球部、野口亮太投手（体育学科4年）がリーグ通算25勝を達成

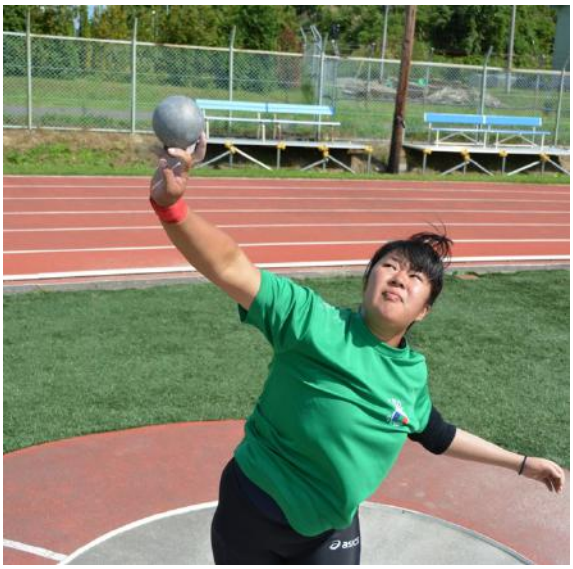
リーグ通算25勝を達成した野口投手＝東北福祉大学野球場

9月14日（日）、東北福祉大学野球場で仙台六大学野球秋季リーグ第三節「仙台大学－東北大学」の1回戦が行なわれ、７－０で仙台大学が勝利（７回コールド）しました。

野口亮太（のぐちりょうた）投手（体育学科4年－群馬・前橋商業高校出身）は、今季３勝目、歴代９位タイのリーグ通算２５勝を挙げました。東北大学を6回3安打7奪三振無失点。三塁を踏ませない安定した投球を見せました。

163㎝左腕・野口投手は「記録は気にせずに、一戦一戦集中して戦っていきたい。自分の持ち味は制球力。緩急をつけた丁寧な投球を心がけ、春秋連覇に貢献したい。絶対神宮に行きたい」と力強く今後の抱負を語りました。

インチョン2014アジアパラ競技大会陸上競技（投てき3種目）日本代表の加藤由希子選手（健康福祉学科3年）が健闘誓う



大会に向けて砲丸投げの練習に励む加藤選手
＝仙台大学陸上競技場

平成26年10月18日（土）～24日（金）までの7日間、韓国･インチョンで開催される「インチョン２０１４アジアパラ競技大会」の陸上競技（投てき３種目）の日本代表に、本学陸上競技部の加藤由希子（かとうゆきこ）選手（健康福祉学科3年―宮城･気仙沼女子高校出身）が選出されました。

同大会は、２３の競技にアジアの４２か国と地域の約5,000人の選手が参加する障害者スポーツの祭典です。

加藤選手は、左腕が義手（生後6か月から義手を装着している）のアスリートで、ジャパンパラ大会の投てき３種目（やり投げ・円盤投げ・砲丸投げ）の日本記録保持者。9月7日（日）に山口県山口市で行なわれた「2014ジャパンパラ陸上競技大会」の女子砲丸投げでは、加藤選手が１１メートル６６の日本新記録で優勝しました。

加藤選手は「2016年のリオデジャネイロパラリンピック・2020年の東京パラリンピックに繋がる大会にしたいです。砲丸投げで世界新記録を狙います」と活躍を誓い、「東日本大震災で私の故郷の気仙沼も大きな被害を受けました。金メダルを獲って、被災地を元気にしたいです。スポーツは、障害者も健常者も関係なく、被災地を元気にすることができると思います」と熱い想いを語りました。

全日本大学駅伝東北予選会

前から西澤賢治選手（28）（健康福祉学科４年―青森中央高校出身）・
小野将太選手（11）（体育学科１年―宮城･明成高校出身）・
本郷拓海選手（18）（体育学科１年―福島・田村高校出身）

9月20日（土）、本学陸上競技場で「第46回全日本大学駅伝東北予選会」が行なわれました。

東北４県の７大学が参加し、各校８人がトラックで１万メートルを走り、全員の合計タイムを競いました。全国大会に出場できる大学は、１位のみ。本学は４位で、残念ながら全国大会出場を逃しました。

＜最終順位＞
１位：東北大（４時間１６分４４秒）
２位：岩手大（４時間２１分５０秒）
３位：東北学院大（４時間２７分４７秒）
４位：仙台大（４時間２９分１２秒）
５位：富士大（４時間３５分２６秒）
６位：秋田大（４時間３７分１７秒）
７位：山形大（４時間４０分１秒）

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.102／ 2014 October
（月1回発行）

加藤由希子選手の金メダル２個

仙台大学 広報室 Monthly Report

～Be more academic and global～

文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」で4タイプ全てに選定される

昨年度から教育改革等に積極的な私立大学に対する助成拡充の一環として開始された文部科学省の「私立大学等改革総合支援事業」において、本年度助成に関し、仙台大学は、昨年度に引続き、同事業が設定する事業タイプの全てが選定されました。昨年度はタイプ１～タイプ3の3タイプ、本年度はタイプ１～タイプ4の4タイプについての全タイプ「選定」となりました。

平成２６年度は、日本の私立大学、短大、高専など申請した７４５校のうち、選定となったのは４１２校であり、４つのタイプ全てが選定されたのは全国で本学を含む８大学（仙台大学、青森中央学院大学、国際医療福祉大学、明海大学、芝浦工業大学、女子美術大学、金沢工業大学、福岡工業大学）のみでありました。

この事業は、大学教育の質的転換、地域貢献、産学連携、およびグローバル化という、現在、大学が時代から要請されている重要事項について全学的・組織的に取り組んでいる私立大学等に対する支援を強化するため、大学教育の質向上その他各事業の主要項目について取組内容を点数化し、申請大学に各項目の取組状況を自己評価させ、その獲得点数が一定基準を上回る場合に選定対象として認定し、選定対象となったタイプについて、経常費・設備費・施設費を一体として５０％を大幅に超える補助率を適用し重点的に支援するものです。従って、認定の有無は大学改革への取組みに対する評価指標ともなるものです。

本年度は、支援内容のうち「教育研究活性化設備整備費補助金」については、タイプ１「建学の精神を生かした大学教育の質向上」＝「語学自習システム」・タイプ２「地域発展」＝「地域貢献のための漕艇器具等」・

【裏面に続く】

＜ 目 次 ＞

文部科学省「私立大学等改革総合支援事業」で4タイプ全てに選定される	1
陸上競技部、加藤由希子選手(健康福祉学科3年)が仁川アジアパラ大会・女子砲丸投げで世界新記録樹立	2
2014年度日本芝草学会秋季大会(仙台大学)を開催	3
2014東北こども博を開催―子どもたちの笑顔あふれる	4
元気！健康！セミナーin七ヶ宿―仙台大学方式 元気体操を紹介	5
学生の競技結果等	9

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

タイプ３「産業界・他大学等との連携」＝「足漕ぎ車椅子関連測定機器」関矢准教授による東北大学共同研究対象・タイプ４「グローバル化」＝「携帯型インボディ（中国青海省体育科学共同研究）」の各設備について整備することとなっております。今後は、それぞれ特色ある設備の有効活用により４つの事業タイプを着実に実施し成果をあげるとともに、大学教育の質の向上、地域社会への貢献その他時代が要請するところに十分応えることにより、さらに世界へ羽ばたく学術的な大学として歩んで参ります。

陸上競技部、加藤由希子選手（健康福祉学科3年）が仁川アジアパラ大会・女子砲丸投げで世界新記録樹立

左から藤井部長・朴澤理事長・加藤選手・阿部学長＝仙台大学

「インチョン2014アジアパラ競技大会」の陸上・女子砲丸投げ（片腕切断・機能障害）で12m21をマークし、世界新記録で金メダルに輝いた本学陸上競技部の加藤由希子（かとうゆきこ）選手（健康福祉学科3年―宮城･気仙沼女子高校出身）の共同記者会見が、10月30日（木）本学において開催されました。会見には、朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長・藤井邦夫部長・加藤選手が臨みました。

冒頭に阿部学長は「この度の加藤選手の金メダル２個は、国民の皆様への一足早いクリスマスプレゼントであり、被災地気仙沼の方々に希望と夢をもたらしたと思う。今後も藤井部長の指導の下、リオデジャネイロパラリンピックを目指すと確信している」と述べました。

藤井部長は「加藤は、やり投げ・円盤投げ・砲丸投げの日本記録保持者でもある。上り調子で、これからが楽しみな選手。2年後のリオデジャネイロパラリンピックでも戦える力は十分ある。2020年の東京パラリンピックも視野に入れて頑張ってほしい」と話しました。

左腕が義手の加藤選手は、「私は気仙沼市の出身です。被災地でありながら多くのご支援・応援を頂き、感謝の気持ちでいっぱいです。2020年の東京パラリンピックまで競技を続け、東京パラリンピックの砲丸投げで世界新記録を更新して金メダルを獲得することが目標です」と感謝の言葉とさらなる活躍を誓う言葉を述べました。

なお、この様子は、当日20時45分～NHK仙台放送局「ニュースみやぎ845」で放映、翌日の河北新報社をはじめとする各紙朝刊に掲載されるなど、テレビ局・新聞社からの注目が高まっています。

引き続き、加藤選手への熱い応援をよろしくお願い致します。

硬式野球部、熊原健人投手（体育学科3年）が「侍ジャパン21U代表」に選出

10月27日（月）、本学硬式野球部の熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科３年―宮城・柴田高校出身）が、「第１回ＩＢＡＦ　２１Ｕワールドカップ」＜台湾・台中、２０１４年１１月７日（金）～１１月１６日（日）＞に出場する野球日本代表「侍ジャパン２１Ｕ代表」の２４人に選出されました。

２１Ｕワールドカップは、２１歳（１９９３年以降に生まれた）以下の選手を対象とした、今年、新たに開催される世界大会で、プロ・アマチュア（大学・社会人）の混成チームです。

大学日本代表に引き続き、ここ柴田町から世界にチャレンジする熊原投手へ温かいご声援をよろしくお願い致します。

＜熊原健人投手のコメント＞

7月は大学日本代表となり、今回はプロ・アマ混成メンバーの日本代表に選ばれたことを非常に嬉しく思います。国際大会は、１球で勝負を分けるので、１球１球こだわって投げていきたいと思います。チームの勝利に貢献できるよう頑張ります。応援よろしくお願いします。

2014年度日本芝草学会秋季大会(仙台大学)を開催

本田敏秋遠野市長の講演の様子＝仙台大学

日本芝草学会主催(会長：小笠原勝宇都宮大学)の2014年度日本芝草学会秋季大会(仙台大学)が10月3日(金)から3日間仙台大学をメイン会場として開催されました。

芝草学会は、1983年に設立された芝草ならびに緑化に関する諸事業の発展に寄与することを目的とした学術団体です。会員の構成は、大学・試験研究機関の研究者のほかに、各分野の実務者が多く、格式張らない『身近な学会』と定評があります。

大会第1日目は、55名の参加者とともに蒲生～岩沼の沿岸をバスで巡回視察しながら、仙台市「海岸公園冒険広場」、岩沼市「千年希望の丘」、「西地区集団移転団地の芝生公園」では各市役所の担当部署職員の説明を聞きながら、また車中では過酷な条件の中生き延びた語り部さんの説明に耳を傾けて、映像や紙面では捕え難い現場の雰囲気を把握して、翌日からの討議の参考にしました。また、グランデイ・２１（宮城県総合運動公園）と仙台大学の洋芝の生育状況と維持管理機械を視察しました。さらに、同日並行して泉パークタウンゴルフ倶楽部において、36名の参加者が震災後の維持管理状況を視察プレーしました。

大会2日目は、午前中に二つの部会が開催されました。ゴルフ場部会では「東北地域のゴルフ場での様々な取り組み」をテーマに公園緑地部会では「阪神淡路大震災における公園緑地の役割と運営について」をテーマに講演をいただきました。午後の一般公開シンポジウムでは、「防災や復興における芝生地の役割」をテーマに基調講演を「震災復興におけるまちづくりの具体的取り組み」として中央大学教授の石川幹子氏から、「遠野市の沿岸被災地後方支援」として岩手県遠野市長の本田敏秋氏から、「震災復興の進捗状況と課題」として仙台市百年の杜推進課長の佐々木亮氏から講演をいただき、引き続きシンポジウムと質疑応答を行いました。震災復興における芝草の意義を大いに議論しました。

夕方から情報交換会が本学学生食堂で行われ、多数の参加者があり、議論と懇親を深めました。2日目の参加者は、一般参加者の他に多数の学生の参加があり、約160名でした。

大会3日目は、午前中に二つの部会が開催されました。校庭芝生部会では「東北地方での校庭芝生化事例の検証」をテーマに講演を、グラウンドカバープランツ緑化部会では「心の復興/メンタルヘルスと緑素材、緑地利用について考える」をテーマに話題提供をいただきました。

午後の一般公開特別講演では、「各種競技場の整備とそのあり方」として（株）東洋グリーンの秋篠周太郎氏から、「1982年スペイン大会から9回連続W杯視察とブラジル大会1か月の滞在を踏まえて」として日本ウエルネススポーツ大学教授の松本光弘氏から講演をいただきました。3日目の参加者は、一般参加者の他に多数の学生の参加があり、約150名でした。

多くの参加者から内容の濃いしかも盛大な大会であったとの身に余る光栄な言葉をいただき、大会の成功と本学が社会貢献の一助になったことを感じました。

最後に、大会運営副委員長のわたくし小島から天候に恵まれたこと、多くの参加者、講演者、後援・協賛をいただいた各種団体、そして大会の準備にご苦労をされた運営委員の皆様に感謝を申し上げ閉会となりました。

来年度の春季大会は6月に日本大学で、秋季大会を秋に琉球大学を会場に開催する予定です。

＜記事：小島文雄コンサルタント
（仙台大学体育施設）提供＞

2014東北こども博を開催―子どもたちの笑顔あふれる

学生ボランティアとけん玉を楽しむ小学生＝仙台大学第二体育館

10月12日（日）・13日（月・祝）の二日間、「震災復興」と「子どもたちの笑顔」をテーマに、「2014東北こども博」（主催：東北こども博実行委員会、後援：文部科学省／宮城県／仙台市教育委員会など）が本学を会場として開催され、両日合わせて約17,100名の方々がご来場下さいました。

4回目を迎えた今年の「東北こども博」は、子どもたちに、遊んで、からだを動かし、元気になってもらおうと全国の玩具メーカーや地元企業約70社が協賛。キャラクターによるステージショー、玩具やゲームが体験できる「トイホビー」、野球やサッカーなどの競技に挑戦できる「スポーツ」、グルメ屋台などが並ぶ「お祭り」、コンセプトカーに乗っての記念撮影・宇宙飛行士トレーニング体験・杉山芙沙子さん（元プロテニスプレーヤーである杉山愛さんの母）による「こどもの力を伸ばす１０の黄金法則―楽しい親子の関わり―」と題した講演会など「地域連携企画」の４つのエリアで構成された多彩な催しが行なわれ、各会場は親子連れなどで賑わっていました。

約350名の学生ボランティアが二日間に渡り「東北こども博」を支え、盛り上げました。トイホビー広場で学生ボランティアとけん玉を楽しんでいた名取市立愛島小学校5年の男子児童は、「久しぶりにけん玉をしました。大学生のお兄さんが優しく教えてくれて楽しかったです」「こども博は毎年楽しみにしています。特にトイホビー広場とスポーツ広場がお気に入りです」と話しました。

2014仁川アジア大会ボートで金のOB大元選手と銀のOB西村選手が来校―さらなる飛躍を誓う

OB大元･OB西村の両選手を囲む大学関係者ら＝学長室

10月12日（日）、韓国・仁川で開催されたアジア大会のボート男子軽量級ダブルスカルで金メダルに輝いたOB大元英照（おおもとひでき）選手＜写真左から3番目＞（アイリスオーヤマ―平成19年体育学科卒―宮城･塩釜高校出身）と同男子エイトで銀メダルに輝いたOB西村光生（にしむらみつお）選手（NTT東日本―平成24年体育学科卒―愛媛･宇和島水産高校出身）＜右から3番目＞が本学漕艇部の阿部肇監督＜右から2番目＞と共に、メダル獲得の報告に学長室を訪れました。

阿部芳吉学長＜左から2番目＞、仙台大学同窓会の鈴木省三会長＜右端＞及び柴田町ボート協会の児玉裕雄会長＜左端＞から大元・西村の両選手に対し、労いと称賛の言葉が贈られました。

3大会連続金メダルを獲得した大元選手（2006年アジア大会の同種目、2010年アジア大会の軽量級かじなしフォア）は「これまでの結果は、大学時代に恵まれた環境と良い指導者がいたことが大きい。（２年後の）リオデジャネイロ五輪に出場することを競技生活の集大成としたい」。アジア大会に初出場となった西村選手は「大学に入って、正しいトレーニング方法や食事･栄養に関する知識を身に付けた。世界で戦うには、パワーもスタミナも足りない。リオデジャネイロ五輪出場が目標」とさらなる飛躍を誓いました。

その後両選手は、「東北こども博」で本学漕艇部が実施した「エルゴメーター（陸上でボートを漕ぐ動きを体験できる機械）体験」で自ら子どもたちにローリングのお手本を示すなどボートの楽しさを伝えていました。

元気！健康！セミナーin七ヶ宿―仙台大学方式 元気体操を紹介

仙台大学方式の元気体操を実演する齋藤新助手
＝七ヶ宿町活性化センター

10月19日（日）、七ヶ宿町活性化センター及び同保健センター（宮城県七ヶ宿町）で「元気！健康！セミナーin七ヶ宿」（主催：河北新報／共催：宮城県医師会他）が開催されました。同セミナーは、七ヶ宿の町民のＱＯＬ（生活の質）を高めることを目的としています。

本学の齋藤まり新助手が「自分らしく元気に年を重ねていくために～仙台大学式元気体操の楽しみ方～」と題して、楽しく健康づくりできる体操を実演しながら紹介しました。また、本学の柳澤麻里子・松浦里紗の両新助手が、健康づくり運動サポーター（※）の資格を有する本学の学生らと一緒に骨密度とインボディを測定し、適切なアドバイスを行ないました。仙台大学式元気体操の楽しみ方及び骨密度とインボディの健康測定には、約50名の七ヶ宿町民の皆様がご参加下さいました。

齋藤新助手は「健康な体を維持するためには、運動の継続が大事。楽しく歌いながら、笑いながら、運動して頂けるよう心掛けました」と話し、「七ヶ宿町は高齢化率の高い地域です。今後も健康づくりの活動を広げ、宮城県民の健康寿命に貢献できるよう楽しい運動を提供していきたい」と抱負を語りました。

※「健康づくり運動サポーター」は本学独自の認定資格で、同サポーター養成プログラム(実践)を修了することによって認定されます。地域密着型の「健康づくり運動サポーター」養成プログラムは、運動についての正しい知識をもち、「安全に」「元気よく」「明るく」「楽しい」運動指導のできるサポーターを養成し、体育系大学としての特徴を生かして、地域の健康づくりに貢献しようというものです。

第4回　しばたB級グルメフェスティバル

乳酸菌飲料の砂糖の量を実感してもらう砂糖水の試飲コーナー

10月5日(日)、秋の澄み渡る空の下、柴田町船岡城址公園において第4回しばたＢ級グルメフェスティバルが開催されました。今回、運動栄養サポート研究会ブースとして、「正しい水分補給を知ろう!!～スポーツの秋に向けて～」をテーマに、運動栄養サポート研究会紹介コーナー並びに水分補給についての試飲コーナーを設け、出店しました。運動栄養サポート研究会紹介コーナーでは、運動栄養サポート研究会についての説明をはじめ、栄養サポート活動の様子の写真や、活動で使用している食事調査用紙、運動栄養学科10周年記念誌などの展示とともに、実際に大学生アスリートに提供しているドリンクの試飲コーナーも設けました。ご来店いただいた中には、仙台大学の卒業生や地域健康づくり運動サポーターの教室に参加してくださっている地域の方々が来場し、貴重なお話を聞くことができました。水分補給についての試飲のコーナーでは、市販の清涼飲料水のエネルギー量を砂糖に換算し、ペットボトルに入れたものを展示しました。親子で来店された方々には、身近な清涼飲料水の飲み方について考えていただくきっかけをつくることができたのではないかと感じています。全体の来場者数は約5500人と大盛況に終わり、運動栄養サポート研究会紹介コーナーには、こどもからご高齢まで約140人と多くの皆様にご来店いただきました。短い時間ではありましたが、活気あふれる柴田町をはじめ、日頃仙台大学を支えて下さっている地域の方々と交流することができ、仙台大学の取り組みを地域の方々に紹介する良い機会となりました。

今回の出店に際しまして、多大なるお力添えをいただきました柴田町商工会青年部の皆様をはじめ、Ｂ級グルメ事務局並びに運営スタッフの皆様に心よりお礼申し上げます。

＜報　告：運動栄養学科　新助手　三品朋子＞

海外留学研修報告会･説明会

10月21日（火）、本学F棟101教室にて「海外留学研修報告会・説明会」が開催され、朴澤理事長をはじめ教職員、学生が多数参加しました。

報告会では、平成26年度前期に実施された「フィンランド　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム」、「ハワイスクーリング　アスレティックトレーニング研修アドバンスコース」へ参加した学生がそれぞれの成果を報告しました。本学との国際交流協定校であるカヤーニ応用科学大学にて実施された１ヶ月間の「フィンランド　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム」に参加した２名は「文化の違いや言葉の壁にはじめは戸惑い失敗もしたが、それらの経験を通して、失敗を恐れずに挑戦することの大切さを学んだ。」と報告しました。「ハワイスクーリング　アスレティックトレーニング研修アドバンスコース」へ参加した学生は、「献体解剖の授業を通して、実際に筋肉などを見て触れることで学びがより深まった。」「大学生スポーツの規模が日本と違った。」と報告の最後に8名それぞれが研修の感想を発表しました。また、今回の研修実施期間にハワイ大学マノア校教育学部キネシオロジーアンドリハビリテーション科学学科（ＫＲＳ）との国際学術交流に関する基本合意書の調印式および交流10周年記念式典も行われ、これらの現場に居合わせたことが「とても貴重な経験となった。」と述べる学生もいました。

報告会終了後に行われた平成26年度後期実施予定分の海外留学研修説明会では、「ハワイスクーリング　アスレティックトレーニング留学研修ビギナーコース」「ハワイ大学　短期英語研修プログラム」「フィンランド　スポーツ・健康科学分野における短期留学プログラム」「カリフォルニア州立大学ロングビーチ校日米スポーツ科学事情比較セミナー」「デンマーク国立リレベルト大学における健康教育短期プログラム」「同　中長期プログラム」「台東大学　協定校短期交換留学プログラム」「中国　国費留学」の計８プログラムに関して国際交流センター企画委員より学生へ説明する時間がもたれました。報告会に引き続き、説明会でも海外留学や研修への参加を考えている学生たちが熱心に耳を傾け、留学を大学生活の選択肢に新たに加えた学生もおり、異文化で学ぶ意欲が大学全体として広がりつつあります。

＜報　告：事業戦略室　遠山知寿＞

阿部芳吉学長、北上市･柴田町両議会議員交流会で講演

写真提供：柴田町議会事務局

10月23日（木）、阿部学長に姉妹都市である北上市・柴田町両議会議員交流会で、柴田町のホテルにて講演をして頂きました。

冒頭、仁川アジアパラ競技大会の女子砲丸投げで加藤由希子選手の世界新記録での優勝が報告され、賞賛の雰囲気が漂いました。演題は「地域を生かし、地域に生かされる大学～震災後の子どもたちの生き方を通して～」ということで、学長自身の教員時代や仙台市教育長などで培った豊富な実績と豊かな識見に基づいた意義深いお話しを熱く語って頂き、参加者に感銘を与えました。

特に震災で子どもたちは大人になっている。しかし、まだまだ「こころのケア」が必要であり、大学の役割として継続的に寄り添っていくことが大事であるというお言葉が印象深く、心に残りました。

両市町の議員に対し、世の中を良くするために、教育をよく理解し、お金を掛けるべきと結ばれました。

なお、講演後開催された懇親会に仙台大学応援団・チアリーディングチームTwinkle（トゥインクル）の出演があり、両市町にエールを送って頂き、喝采を浴びたことを申し添えます。

＜寄　稿：柴田町議会議員
OB安部俊三（昭和47年体育学科卒）＞

第10回健康福祉研究会

田中伸弥氏の実践報告の様子

10月25日（土）、「第10回健康福祉研究会」が本学C301教室を会場に行われ、卒業生、在学生、教職員、一般の方など、200名近い方々が参加されました。

「健康福祉研究会」は、介護や福祉、健康づくりなどの現場に勤める方と、健康福祉学科の卒業生・在学生・教職員等が相互に学習研鑽できる環境づくりの構築を目指し、平成16年度より開催してきたものです。今年度は、第10回という区切りの年ということで、「健康福祉学科教育の原点と人材養成」をテーマに、介護福祉士の仕事の広がりや可能性について卒業生の実践を通した報告や講演を行いました。

阿部学長、大山学科長の挨拶の後、「介護福祉士教育の今」と題して山野准教授による基調講演があり、その中で健康福祉学科開設の意図と使命などが再確認されました。

続いて、次の6名の卒業生よりそれぞれ実践報告がありました。（1）緑川義崇氏（平成23年卒／介護老人保健施設余目徳洲苑勤務）（2）戸田佳代子氏（平成21年卒／青梅慶友病院勤務）（3）二瓶さやか氏（平成19年卒／岩手県立大学大学院社会福祉学研究科在籍、ゆめさとデイサービス勤務）（4）澤田明之氏（平成17年卒／仙台医療秘書福祉専門学校勤務）（5）福田伸雄氏（平成17年卒／日高病院勤務）（6）田中伸弥氏（平成15年卒／特別養護老人ホーム萩の風勤務）。どの卒業生の報告も、本学で取得した介護福祉士の資格を活かし、自分の信念をしっかりと持ちながらそれぞれの現場で活躍されていることがわかる内容でした。そしてより一層「介護」のあるべき姿を追求していこうとする姿勢がうかがえました。特に会場の在学生たちは、いきいきと自分の仕事や介護の魅力などについて語る先輩たちを見て、たくさんの刺激を受け、「自分もこうなりたい」という思いを抱いたことと思います。また、我々教員側も、このような卒業生の成長と活躍の様子を嬉しく思い、今後の学生教育をしていく上で大きな励みとなりました。

最後に、今回の健康福祉研究会で実践報告をいただきました6名の卒業生の方々はもとより、会の開催・運営等に際してご支援・ご協力をいただきました教職員の皆様に、この場をお借りして心より御礼申し上げます。どうもありがとうございました。

＜報　告：健康福祉学科　講師　後藤満枝＞

しばた健康まつり2014

10月11日（土）、柴田町役場保健センターで、「しばた健康まつり2014」が開催されました。

様々な催し物が用意されている中で、催し物の一つとして体操の時間があり、参加させていただきました。顔見知り同士が運動の時間に合わせて多数集まったこともあり、終始和やかな笑顔に包まれ、約140名の出席者は、頭の体操・下肢の筋力トレーニングなど思い思いにストレッチを楽しんでいました。

＜報　告：新助手　柳澤麻里子＞

スリランカ、コロンボ報告Ⅲ―横川和幸元仙台大学教授

集団演技の一部です。

演技の最終部分で国旗を表現。

芝のトラックです。

表彰係りのスリランカ美人！です。

仙台は朝夕の冷え込みが厳しくなっているようですね。こちらも少しは涼しくなり夜間のエアコンはいりません。しかし昼はまだまだ暑く女性は日傘をさして歩いています。

当地アヌラーダプラではナショナルスポーツフェスティバルが開催されています。また、陸上競技の会場にもなっており、スリランカ人の走りをじっくり観察できました。ここの競技場は非常に珍しい芝のトラックで、日本にはありません。開会式では指導校であるセントラルカレッジ１２００人の学生による集団演技に観客は感動していました。

＜寄　稿：スリランカ教育省
体育・スポーツ課　横川和幸＞

ハンドボール部、男女共に10年ぶりインカレ出場決定

男女共に10年ぶりのインカレ出場を決め、喜ぶ選手ら
＝仙台大学第二体育館

9月28日（日）、平成26年度東北ハンドボール秋季リーグ最終戦が本学第二体育館行なわれ、仙台大学ハンドボール部は男女共に上位進出を果たし、インカレ出場を決めました。男子は10年ぶり18回目。女子は10年ぶり5回目のインカレ出場となります。

秋季リーグ戦で男子ベストセブンに選ばれた高橋和希（たかはしかずき）主将（写真：前列左から5番目）（体育学科2年－北海道・函館工業高校出身）は「1・2年生主体のチーム。今後につながる収穫の多い大会にしたい。1勝以上を目指して、最善を尽くしたい」。同リーグ戦で女子ベストセブンに選ばれた桑澤亜弥（くわざわあや）主将（写真：前列右から5番目）（運動栄養学科4年－東京・藤村女子高校出身）は「チャレンジャー精神で、1試合1試合思いっきりプレイしたい。悔いの残らないようインカレの舞台を思う存分楽しみたい」。就任3年目の桑原康平監督（写真：前列左から6番目・男女ハンドボール部監督）は「男女共にインカレ出場を目標に頑張ってきたので、その目標が達成でき嬉しい。対戦チームは全ての点で格上なので、胸を借りるつもりで臨みたい。全国レベルを肌で感じる大会にしたい」とインカレに向けての抱負を語りました。

平成26年度全日本学生ハンドボール選手権大会（インカレ）は、11月22日（土）～26日（水）まで、岐阜メモリアルセンター（岐阜県岐阜市）・ヒマラヤアリーナ（同）・各務原市体育館（岐阜県各務原市）で行なわれます。

引き続き、仙台大学男女ハンドボール部への熱い応援をよろしくお願い致します。

男子バスケットボール部、東北大学リーグ「優勝」
―2年ぶり13度目のインカレ出場を決める

東北大学バスケットボールリーグで「優勝」し、2年ぶり13度目のインカレ出場を決めた男子バスケットボール部の選手ら＝山形県体育館

10月11日（土）～10月13日（月・祝）の三日間、山形県体育館で「東北大学バスケットボールリーグインカレ予選」が行なわれ、本学男子バスケットボール部が見事「優勝」を飾り、「第66回全日本大学バスケットボール選手権大会（インカレ）」への出場権（2年ぶり13度目）を獲得しました。

庄司優也主将

得点王と最優秀選手賞に選ばれた庄司優也（しょうじゆうや）主将（体育学科4年―山形・羽黒高校出身）は「絶対負けないという強い気持ちで戦い続けたことが優勝の勝因。インカレではベスト８以上が目標。目標達成に向け一層練習に励みたい」。

チームを率いて５年目の村田健一監督は「選手間でミーティングを重ね、チーム力がひとつにまとまり、逞しく強いチームになったと感じる。インカレで一つでも多く勝つことを目標に頑張ってきた。何とか一泡吹かせたい」とインカレに向けての意気込みを語りました。

インカレは、11月24日（月）～30日（日）まで、国立代々木競技場第二体育館・大田区総合体育館・墨田区総合体育館で行なわれます。

引き続き、仙台大学男子バスケットボール部への温かいご声援を宜しくお願い致します。

女子柔道部、全日本学生柔道体重別団体優勝大会
―初の4強入りを逃すも堂々の6年連続8強入りを果たす

五将（48kg級）・渡辺選手が大内刈りを決める＝ベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）

10月25日（土）、団体戦（7人制）で争う「全日本学生柔道体重別団体優勝大会（女子6回）」がベイコム総合体育館（兵庫県尼崎市）で開催されました。

本学女子柔道部は、シード校のため2回戦からの登場となりました。2回戦の対戦相手は、福岡大学。仙台大学は先制を奪われますが、五将（48kg級）・渡辺愛美（わたなべなるみ）選手（現代武道学科1年－栃木･白鴎大足利高校出身）が「大内刈り」で有効を奪い、優勢勝ち。これで一気に流れをつかみ４－１で逆転勝ちを収め、見事準々決勝進出を決めました。

準々決勝の対戦相手は、体重無差別で争う6月の全日本学生柔道優勝大会（団体戦5人制）で、本学が１－１の代表戦の末に敗れた東海大学。9月の全日本学生柔道体重別選手権3位の中堅（57kg級）・工藤千佳（くどうちか）選手（現代武道学科3年－青森･五所川原農林高校出身）や同3位の三将（52kg級）・鈴木真佑（すずきまゆ）選手（体育学科4年－京都文教高校出身）らが果敢に相手を攻めましたが、あと一歩のところでポイントが奪えず惜しくも「引き分け」。仙台大学は、技術面・精神面でも攻めの姿勢を見せましたが、０－１で惜敗。またも東海大学の前に屈しました。初の４強入りは逃しましたが、堂々の６年連続８強入りを果たしました。

南條和恵監督は「過去最強チームで臨んだ今大会。あと一歩のところだったが、攻めきれなかった。また一からチーム作りに励みたい。この大会で得た経験と悔しさをバネに、次こそ８強の壁を突破したい」と涙をこらえながら話しました。

引き続き、仙台大学女子柔道部への温かいご声援をよろしくお願い致します。

男子サッカー部、齋藤恵太選手（体育学科4年）が福島ユナイテッドFC入団内定

左から朴澤理事長・吉井監督・齋藤選手・阿部学長＝仙台大学

10月30日（木）、本学で仙台大学サッカー部のFW齋藤恵太（さいとうけいた）選手（体育学科4年―宮城･聖和学園高校出身）の福島ユナイテッドＦＣ入団内定記者会見が行なわれました。福島ユナイテッドＦＣからは竹鼻快ＧＭが、本学からは朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長・吉井秀邦監督・齋藤選手が会見に臨みました。

最初に阿部学長は「齋藤選手は被災地山元町出身なので、この度の福島ユナイテッドＦＣ入団内定が山元町の方々に元気になって頂く大きなきっかけになると思う。幼い頃からサッカーのプロ選手を目指して努力・精進してきた斎藤選手には日本を代表する選手になり、後輩たちへの励みになってくれることを期待する」と挨拶しました。

吉井監督は「恵太はポテンシャルの高い選手。特に、足が速く、足元のドリブル技術も高い。相手に向かっていく性格で、非常にプロ向き。チームの雰囲気を盛り上げる明るさも持ち味。日本代表を目指せる選手になってほしい」。竹鼻ＧＭは「齋藤選手のことは、仙台大学との練習試合の時に知った。爆発的なスピードと得点をした時の喜び方を見て、面白い選手がいるなと思った。そして、素直な心と聞く力を最大限評価している。彼と一緒に頑張っていきたい」と齋藤選手へ期待の言葉を述べられました。

齋藤選手は「夢の第一歩が実現して心から嬉しいです。仙台大学の関係者、家族、被災を経験している地元の仲間たち、そして、応援して下さっている皆様に感謝しています。自分のゴールでチームの勝利に貢献し、子どもたちに目標とされる選手になりたいです」と心境と今後の抱負を述べました。

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.103／ 2014 November
（月1回発行）

仙台大学 広報室
Monthly Report

地元・気仙沼市から「スポーツ栄誉賞」受賞
―陸上競技部・加藤由希子選手（健康福祉学科3年）

菅原市長から「スポーツ栄誉賞」の盾を受け取る加藤選手（右）＝気仙沼市役所

11月16日（日）、気仙沼市役所で「平成26年度気仙沼市スポーツ顕彰授与式」が行なわれ、本学陸上競技部の加藤由希子（かとうゆきこ）選手（健康福祉学科3年―宮城・気仙沼女子高校出身）が「スポーツ栄誉賞」を受賞しました。加藤選手は、昨年7月にフランスのリオンで開かれた「2013IPC陸上競技世界選手権大会」のやり投げで日本新記録で銅メダルを獲得。その功績が認められ、加藤選手の地元である気仙沼市の菅原茂市長から盾と賞状が贈られました。

過去に同市の「スポーツ栄誉賞」を受賞したのは、千田健太選手（ロンドン五輪フェンシング男子団体銀メダル）・菅原智恵子選手（ロンドン五輪フェンシング女子個人・団体７位入賞）・佐藤真海選手（３大会連続でパラリンピック陸上競技走り幅跳び出場）の３選手のみです。

加藤選手は授与式の前に、先月行なわれた「2014仁川アジアパラ競技大会」の陸上女子砲丸投げ（世界新記録を樹立）と円盤投げ（大会新記録）で2冠を達成したことを菅原市長に報告。市長から「向かうところ敵なしですね。被災地・気仙沼に元気と勇気を与えてくれました。まだまだ記録を伸ばし、体に気をつけて頑張ってくださいね」と賞賛と激励の言葉を頂きました。加藤選手は「来年ドバイで行なわれる世界選手権とリオデジャネイロ・パラリンピックを目指して頑張ります。今の結果に満足せず、さらに上を目指します」と今後の目標を力強く話しました。

＜ 目 次 ＞

地元・気仙沼市から「スポーツ栄誉賞」受賞―陸上競技部・加藤由希子選手	1
百歳元気あおぞらにこにこ体操を披露	2
TKbjリーグ仙台89ERS・佐藤文哉選手(本学OB)が来校	2
「楽しい遊びや運動で高齢者の元気をつくる」をテーマに発表	3
ベトナムでの日本留学フェアに初参加	5
学生の競技結果等	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

百歳元気あおぞらにこにこ体操を披露

あおぞらにこにこ体操を実演する本学健康福祉学科の佐々木さん（右）と日高さん＝亘理山元いちご選果場

11月8日（土）、亘理山元いちご選果場（宮城県亘理町）で「JAみやぎ復興祭」が開催され、仙台大学・JAみやぎ・FMあおぞらの三社共同で制作した「JAグループみやぎ あおぞら にこにこ体操」が披露されました。

「あおぞら　にこにこ体操」は、本学が2年前にJAみやぎより委託を受け、農家の方々の健康増進を目指して制作されたオリジナル体操です。

今回は、JAみやぎ会員の皆さまへのなお一層の普及を図ることを目的として実施されました。平成26年12月1日からは、新しいバージョンの「あおぞらにこにこ体操」がFMあおぞら（宮城県亘理町）で１日２回放送されることになり、さらに、同体操はＪＡグループでＣＤ化され、家庭でも手軽にできる体操としての普及に向けた活動が進められています。

当日は、会場いっぱいにお集まり頂いた100名以上の地域の皆様と共に「あおぞら　にこにこ体操」を行ないました。最初に本学の阿部芳吉学長が「みんなで「にこにこ体操」に励みましょう。健康で長生きをして、人生を楽しみましょう」と挨拶。本学の佐々木里紗（ささきりさ）さん（健康福祉学科4年－岩手・一関学院高校出身）と日高啓涼（ひだかけいすけ）さん（健康福祉学科4年－アップルスポーツカレッジ－新潟・六日町高校出身）がステージ上で「にこにこ体操」を実演しました。

日高さんは「にこにこ体操は、覚えやすく簡単にできる体操ですので、にこにこ体操を通して、健康で長生きして頂きたいです」「将来は、運動指導のできる福祉関係の仕事で活躍したいです」と話しました。

TKbjリーグ仙台89ERS・佐藤文哉選手（本学OB）が来校

左から阿部学長・朴澤理事長・OB佐藤選手・村田監督・杉山コーチ＝学長室

11月11日（火）、日本プロバスケットボールリーグ（通称bjリーグ）仙台89ERSの本学OB佐藤文哉（さとうふみや）選手（平成25年体育学科卒―宮城・明成高校出身）が来校し、大学にサイン入りユニフォームを寄贈して下さいました。朴澤泰治理事長、阿部芳吉学長及び本学男子バスケットボール部の村田健一監督・杉山竜馬コーチが同席。

阿部学長は佐藤選手に対し、「在学生の励みになるので、ユニフォームは目立つところに飾りたい。とても有難い」。「怪我をせず１年間通して活躍し、リーグ初優勝を目指して頑張ってほしい」とお礼と激励の挨拶を送りました。

佐藤選手は宮城・明成高校から仙台大学を経て、仙台89ERSに入団。仙台大学時代は主将。東北大学バスケットボールリーグでは3年連続でベスト５と３ポイント王を受賞するなどの活躍をされました。佐藤選手と言えば、３ポイントシュートが代名詞であり、そのシュート力とシュートテクニックが持ち味。飛躍のプロ2年目となる佐藤選手は「仙台大学は自分の原点に戻れる、エネルギーももらえる場所。もう一度頑張ろうという気持ちになれる」と話し、「日々の練習から意識や行動を変えなければ、試合では良い結果は得られない。練習から100％出すことが大事。後輩達には11月のインカレで上位進出を目指してほしい。自分もチームの勝利に貢献できるプレーをして、リーグ初優勝を目指す」と後輩達への力強いエールと今後の抱負を述べました。

船岡小学校から総合学習で3名の小学5年生が仙台大学を取材体験

11月12日（水）、船岡小学校から小学5年生の3名が来訪し本学で取材活動を行いました。これは船岡小学校が総合学習プログラムの一環として「柴田三ツ星プロジェクト」と題し授業展開しているもので、柴田町の良さを探求し学ぶことを目的に5学年の小学生がさまざまな地域にある施設などを各班ごとに取材し、その成果を学校に持ち帰り披露するものだそうです。

3名の小学生記者からは、仙台大学の歴史や人気のサークル活動、仙台大学のオリンピック選手はどれくらいいるのか、どんな思いで仕事をしているか、他の大学との交流やサークル同士の交流はあるのかなど、多岐にわたる質問があり「柴田町から世界で活躍する学生の方や卒業生がいるということがすごい」「サッカー部には200人を超える部員がいることに驚いた」など、小学生らしい素直な感想を話していました。第3体育館のトレーニングセンターと第4体育館のアスレティックルームの見学では、新助手の白坂牧人、浅野勝成S&C（ストレングス・アンド・コンディショニング）両コーチと、鈴木のぞみアスレティックトレーナーの専門的な説明を聞き、地道なトレーニングや自分の体をケアする学生の様子を一生懸命カメラに収める姿もありました。短い時間ではありましたが、小学生記者達にとって、仙台大学をより身近に感じる取材体験となったようです。

ご協力下さった白坂新助手はじめ関係者の皆様、ありがとうございました。

「楽しい遊びや運動で高齢者の元気をつくる」をテーマに発表

11月25日（火）、せんだいメディアテーク（仙台市青葉区）で「復興の新しいまちづくりに向けて―楽しい遊びや運動で高齢者の元気をつくる」（主催：株式会社乃村工藝社／共催：一般社団法人OVAL HEART JAPAN・仙台大学／協力：コセキ株式会社）をテーマにした取り組みが紹介され、約60名の方がご来場下さいました。

本学スポーツ健康科学研究実践機構長の鈴木省三教授（写真右端）は、「子どもの頃から運動習慣を身に付ける、楽しい36の基本動作を身に付けることが、介護を必要としない高齢者の割合を増やすことになる」と説明し、子どもの心と体と頭を伸ばす36の基本動作を紹介しました。また、転倒予防とバランス能力の向上を目的とし、「ビームステップ」を用いたステップ運動も紹介しました。

体力や運動能力のレベルが似ている子どもと高齢者が一緒に楽しめるスポーツ・ゲームとして、鈴木省三ゼミに所属している青山美沙紀（あおやまみさき）さん（右から2番目）（体育学科3年―栃木・宇都宮文星女子高校出身）が「ICTを活用した新しい鬼ごっこ」を提案。青山さんは「ICTと運動体験（鬼ごっこ）との融合を通して、高齢者には介護予防や寝たきり防止に、子どもたちには運動習慣を楽しく継続させることや、肥満改善に役立ててほしいです」と話しました。また、同ゼミの樋場美里（とよばみさと）さん（左から2番目）（体育学科3年―秋田・横手城南高校出身）と二瓶柚紀（にへいゆうき）さん（体育学科3年―福島西高校出身）（左端）は、「ICTを活用した新しい鬼ごっこ」の実演を行いました。

最後に、一般社団法人OVAL HEART JAPAの代表理事である大西一平氏が、主に高齢者を対象とした、歩いて健康を維持するためのウォーキングプログラム「歩く人。」の活動などの報告を行ない、報告発表会が締めくくられました。

NSCAジャパン南関東AD（地域ディレクター）セミナーを開催

前列左から4番目加賀氏、5番目白坂氏

11月16日（日）、千葉市の株式会社ザオバにおいて、NSCAジャパン南関東AD（地域ディレクター）セミナーを開催致しました。

今回は、講師に仙台大学アシスタントS&Cコーチ白坂牧人氏、仙台大学ヘッドS&Cコーチ加賀洋平氏をお招きし、「日米S&Cの現状と比較」をテーマとする講義、ならびに「ウェイトトレーニングの基礎」をテーマとする実技講習を実施致しました。

午前は白坂牧人氏に「日米S&Cの現状と比較」をテーマとする講義を実施して頂きました。

本講義では、米国における民間営利施設、日米のプロスポーツチームならびに日米の大学においてS&Cコーチとしての活動経験を有する白坂氏から、それぞれの拠点におけるS&Cコーチの現状、実情について非常に興味深いお話をして頂き、日米のストレングス&コンディショニングの比較解説をして頂きました。

米国に比べ、日本においては施設環境の面で劣る部分があること、S&Cコーチとして求められるスタンダードについて曖昧な部分があることが解説される一方で、S&Cコーチの育成プログラムについては米国においても十分に確立されたものがある訳ではなく、S&Cコーチとして成長していくためには、日米を問わずストレングス&コンディショニングに関する科学的根拠と指導技術を教授することの出来る秀でたS&Cコーチの下で経験を積むことが重要である点が強調されました。

今回の講義には若手のS&Cコーチが多数参加されていらっしゃいましたが、今後、自らの成長のために何をすべきかを把握する良い機会になったのではないかと思われます。

午後は加賀洋平氏に「ウェイトトレーニングの基礎」をテーマとする実技講習を実施して頂きました。

本実技講習は、加賀氏よりリバースランジ、ランジ、RDL、グッドモーニングエクササイズ、スクワットの各エクササイズの基本テクニックについて「健康的で効果的な動作」という概念、視点に基づく解説をして頂いた上で、小グループに分かれ、それぞれのエクササイズを実践するという流れで展開されました。

ウェイトトレーニングの基本テクニックは多くのトレーニング指導者に浸透しているようで、実は統一性がなく理解度も低い現状があるといえますが、筋生理学、バイオメカニクス等の科学的根拠に基づき、より健康的で効果的なウェイトトレーニングの基本テクニックを学ぶ絶好の機会となったのではないかと思われます。

本実技講習を通じて、S&Cプログラムのエクササイズ選択には、科学的根拠に基づく明確な理由が存在しなければならないこと、各エクササイズの動作ポイントについて徹底した指導を実施することが重要である点について、参加者の多くが再認識されていたようでした。

＜寄　稿：NSCAジャパン南関東
アシスタント地域ディレクター　野口克彦氏＞

ベトナムでの日本留学フェアに初参加

各ブースで工夫を凝らしたPR

基本理念【Sports for All】について、朴澤理事長・学事顧問直々に解説

パンフレットや大学紹介の動画を用いて説明

仙台大学の紹介動画を熱心に見る学生

2014年11月15日（土）16日（日）の二日間、真夏のような晴れ渡る空の下、ベトナムハノイ市メリハノイホテル並びにホーチミン市ホテルエクアトリアルにおいて、独立行政法人日本学生支援機構主催日本留学フェアが開催されました。

80を超える参加機関が各ブースにて、工夫を凝らしたPRをしており、活気溢れるフェアとなりました。その中で、仙台大学のブースには、両日で約50名程の学生並びに留学関係の企業関係者が訪れ大盛況となりました。

今回、日本留学フェア初参加となった仙台大学では、ハノイ大学大学院に在学している鈴木美生さんの協力を得ながら大学紹介を行いました。

フェア中は、大学の基本理念である【Sports for All】のもと、朴澤理事長・学事顧問にご指導をいただきながら、各学科の特色を伝えるとともに、2020年の東京オリンピック・パラリンピックに向けこれからのベトナム国内でスポーツに関連した知識技術の普及を呼び掛けました。

ベトナムではスポーツは趣味の一環として行われていますが、専門的に学ぶ機会はほとんどなく、体育の授業がない学校もあるということでした。ですので、スポーツと聞くとプロのアスリートを目指すための大学と認識する学生が多く見受けられ、仙台大学の特色である“スポーツと栄養”“スポーツと福祉”“スポーツと情報”などの他の分野との関連付けを説明することはとても難しく感じました。

仙台大学を紹介するに当たり、自分自身が深く関わっている分野の知識や経験を話すだけでは、「仙台大学とはどんな大学なのか」という本質を伝えることができないと痛感しました。今後は、自分の専門分野に限らず、仙台大学全体の取り組みを通して、学生に何を提供できるのか改めて理解を深めていきたいと考えています。

来年度、今回のフェア参加をきっかけに一人でも多くの学生が仙台大学へ入学することを願います。

＜報告：新助手　小野勇太、三品朋子＞

ベトナムでのプレゼンテーション実施

「足漕ぎ車いす走行訓練と身体機能の改善」について
＝関矢准教授

「仙台大学アスレティックトレーニングについて」
（デモンストレーションの様子）　＝小野新助手

「仙台大学体育学部運動栄養学科について」
＝三品新助手

11月17日（月）、ホーチミン市体育大学訪問時に約50名程の大学院生に対し、①「足漕ぎ車いす走行訓練と身体機能の改善」について関矢准教授より、②「仙台大学アスレティックトレーニングについてとテーピングデモンストレーション」について小野新助手より、③「仙台大学体育学部運動栄養学科」について三品新助手よりそれぞれプレゼンテーションを行いました。

「足漕ぎ車いす走行訓練と身体機能の改善」についてでは、先日来訪されたベトナムハノイ、バクマイ病院とjica・仙台大学の共同研究に関するデータを基に、ベトナム国内で実際に行われた臨床研究結果の一部を紹介し、今後のベトナムでの展開について解説をしました。プレゼンテーションの後半には、現在日本で行っているベトナム医療従事者向け足漕ぎ車いす療法研修会の報告と、今後実施する動作分析の実際を映像とサンプルデータを介して紹介しました。質疑応答では、研究開発に関する質問が多く挙がり、大学院生のみならず大学教員の方々にも強い関心をもっていただけた様子でした。

「仙台大学アスレティックトレーニングについてとテーピングデモンストレーション」では、アスレティックトレーニングについての解説から、実際にテーピングの処置を行う様子を動画とデモンストレーションで披露しました。質疑応答の際には、「テーピングのテープには薬品が含まれているのか」「テーピングを行うことで早く治癒するのか」といった治療目的で行うものと感じている様子が見受けられたため、テーピングの処置を行うことにより「怪我の予防と再発防止」「怪我をした部位を補助する」などの考え方について解説をしました。ベトナムではまだ展開されていない分野ということもあり、大学院生の皆さんの関心が強く感じられました。

「仙台大学体育学部運動栄養学科」についてでは、運動栄養学科の特色並びに運動栄養サポート研究会の活動について解説しました。ベトナムでは、幼少期の栄養不足が食の問題として挙げられているものの、大きく取り上げられる機会が少なく、運動栄養という分野はまだまだ関心が低い現状であると感じました。他国の興味関心を高めていくためにも、まずは各国の食問題について学び、考えていく必要があると痛感しました。

今回プレゼンテーションを行った3つの分野の普及をはじめ、仙台大学の基礎理念である【Sports for All】の精神がベトナム国内にも広まっていくよう尽力していきたいと思います。

＜報告：新助手　三品朋子＞

第19回新体操演技発表会　12／7(日)開催

今年で19回を迎える「新体操演技発表会」（主催：仙台大学男女新体操競技部）を12月7日（日）に開催致します。

発表会には、本学男女新体操競技部・仙台大学開放講座ジュニア新体操教室・本学ブレイキン同好会・浅沼圭選手（フリースタイルダンサー）が出演予定です。

学生たちの迫力ある演技、子どもたちのかわいらしい演技をぜひご覧ください。

一般の方もご入場頂けます。皆様のご来場をお待ちしております。

日　時：2014年12月7日（日）　12時30分～15時（開場12時）
場　所：仙台大学第五体育館
入場料：無　料

第10回スポーツシンポジウム　12／13(土)開催

12月13日（土）、仙台市民会館で本学主催事業「第10回スポーツシンポジウム」を開催致します。

「スポーツが与える夢と希望」をテーマに、３大会連続でパラリンピック陸上競技走り幅跳びに出場している佐藤真海さん（サントリーホールディングス株式会社）らが講演を行ないます。

入場のお申し込みの際は、住所・氏名・年齢・電話番号・参加人数を明記し、ハガキ、ファックス、Ｅメールにより以下までお送り下さい。

■ハガキ／980-8660　（住所記入不要）
　　河北新報社営業部「スポーツシンポジウム」係
■ＦＡＸ／022-227-0923
■Ｅメール／oubo@po. kahoku. co. jp

仙台大学レクリエーション部、「第16回FLOWER」開催のお知らせ

仙台大学レクリエーション部は、主に仙南地域を中心に、児童館や小学校、福祉施設、社会教育施設などでレクリエーション活動や体育指導、季節のイベントなどのお手伝いをしています。また、夏休みには、ミヤギテレビが主催する沖縄遊・ＹＯＵ塾のシニアリーダー、蔵王少年自然の家での長期キャンプのアシスタントとしても活動を行なっています。

そして、年に一度、部員が集結し「FLOWER（フラワー）」というイベントを開催しています。お子様から大人の方まで皆様と共に楽しめるイベントで、今回で１６回目を迎えます。今年は「まごころ」をテーマに、「FLOWER」を通して真心を持って感謝の気持ちを伝えたいと思います。

つきましては、以下の日程等で「第16回FLOWER」を開催致します。皆様のご来場を心よりお待ちしております。

仙台大学レクリエーション部　部員一同

日　時：平成26年12月21日（日）13時～15時30分（開場12時30分）
場　所：槻木生涯学習センター
入場料：無　料

男子サッカー部、東北地区大学サッカーリーグ2年連続「全勝優勝」
―14年連続31回目のインカレ出場へ

2年連続「全勝優勝」を喜ぶ仙台大学男子サッカー部の選手ら
＝宮城県サッカー場

11月1日（土）、宮城県サッカー場（利府町）で「第39回東北地区大学サッカーリーグ第9節（最終節）」が行なわれ、本学男子サッカー部は、岩手大学と対戦しました。

仙台大学は、0-0で迎えた後半15分、左サイドからのコーナーキックをDF中條渡（なかじょうわたる）選手（体育学科4年―宮城・東北高校出身）が豪快に頭で合わせて先制。

さらに後半29分には、リーグ得点王のMF宮澤弘（みやざわひろし）選手（体育学科1年―柏レイソルユース出身）が、思い切りよく左足で振り抜いたシュートがゴールネットに突き刺さり追加点。終始相手を圧倒し続けた仙台大学が２－０（前半0-0、後半2-0）で岩手大学を破り、貫録の全勝（９勝０敗：５年連続東北地区大学サッカーリーグで負けなし）優勝を果たしました。これで、本学男子サッカー部は１４年連続３１回目のインカレ（第63回全日本大学サッカー選手権大会）出場への切符を手にしました。

インカレは、12月11日（木）～味の素スタジアム西競技場（東京都調布市）等で開催される予定です。引き続き、本学男子サッカー部への熱い応援をよろしくお願い致します。

後半、ゴールを決め喜ぶMF宮澤弘選手（１４）

男子ウエイトリフティング部―全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（2部）に出場

写真提供：壹岐優監督

小川選手のジャーク

写真提供：壹岐優監督

大津選手のスナッチ

11月7日（金）～9日（日）の三日間、羽曳野市立総合スポーツセンター（大阪府）で「第60回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会（２部）」が行なわれました。

本学男子ウエイトリフティング部からは３名が出場。小川純（おがわじゅん）選手（運動栄養学科1年―山形・鶴岡工業高校出身）が69kg級に出場し、スナッチ88kg・ジャーク110kg・トータル198kgで6位入賞。85kg級に出場した鈴木嘉浩（すずきよしひろ）選手（スポーツ情マスメディア学科3年―山形・鶴岡工業高校出身）は、スナッチ86kg・ジャーク110kg・トータル196kgで10位。大津恭輔（おおつきょうすけ）選手（体育学科1年―宮城・石巻高校出身）も94kg級に出場し、スナッチ101kg・ジャーク134kg・トータル235kgで6位入賞を果たしました。団体の結果は、出場２０チーム中１３位でした。

創部３年目・監督就任１年目の壹岐優監督は「インカレ前の目標は、団体でポイントを獲得することだった。創部以来、インカレで初めてポイントを獲得（15ポイント）することができ、今後に向けて大きく前進することができた」と話し、「順位を決める最後の1本に挑む集中力と技術力を高めていきたい。普段の練習の「質」にこだわり、次は２部のトップ１０入りを果たしたい」と今後の抱負を述べました。

第12回インディペンデンス全日本大学サッカーフェスティバル―宮城県で全国大会開催、本学男子サッカー部が4年連続出場

0-1で迎えた前半40分、FW日野口選手（11）が直接フリーキックを決め、1-1の同点に追いついた。

控え選手の出場する機会の拡大を目的とした「インディペンデンスリーグ（Ⅰリーグ）第12回全日本大学サッカーフェスティバル」が、11月28日（金）、宮城県サッカー場で行なわれました。

同フェスティバルは、昨年に引き続き、宮城県で開催。東日本大震災からの復興を支援することも大きな目的の一つとなっています。

4年連続出場の本学男子サッカー部は、初戦で環太平洋大学（中国地区代表）と対戦。本学は前半33分、先制点を許す苦しい展開。しかし、前半40分に日野口廉（ひのぐちれん）選手（11）（体育学科4年―埼玉・昌平高校出身）が見事な直接フリーキックをゴール左隅に決め、1-1の同点に追いつき、前半を折り返しました。後半10分、PKを決められ、再びリードを許してしまいます。その後、仙台大学は何度か好機を作りましたが、決定力不足で試合終了。1-2で環太平洋大学に敗れ、残念ながら初戦敗退となりました。

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.104／ 2014 December
（月1回発行）

仙台大学 広報室
Monthly Report

スポーツコミッションせんだい設立記念
第10回スポーツシンポジウム
～スポーツが与える夢と希望～

パネルディスカッションの様子＝仙台市民会館

12月13日（土）仙台市民会館大ホールにおいて、仙台市・仙台大学・河北新報社の主催「スポーツが与える夢と希望」をテーマに、今年で10回目となるスポーツシンポジウムを開催しました。小雪の舞う中、総選挙の前日にも関わらず一階の会場をほぼ埋めつくす約650名の方々にご来場いただき、スポーツの可能性が無限大であることを再認識する貴重な場となりました。

最初に仙台市長奥山氏は、スポーツコミッションせんだいの設立が仙台市民の健康に寄与することを期待するという開会挨拶をし、本学の阿部学長は、スポーツを通して感動と元気を市民に伝え、仙台全体の復興を図ろうと述べました。

第一部の基調講演では、2020東京オリンピック・パラリンピック誘致活動のスピーチで一躍世界に名を知らしめた佐藤真海（さとうまみ）パラリンピアン（陸上・走り幅跳び）・サントリーホールディングス（株）と東日本放送のレポーターである庄司由加さんとの対談で、真海さんは日本で初めて義足をつけ競技に出場した選手として、所属するサントリーの伝統である「やってみなはれ」の精神のもと、2004年アテネパラリンピック～2008年北京パラリンピックとどのようにチャレンジしてきたかについて話されました。

＜ 目 次 ＞

スポーツコミッションせんだい設立記念 第10回スポーツシンポジウム～スポーツが与える夢と希望～	1
宮城県柴田高校体育科の2年生35名が本学で授業体験	3
健康体操を実施―美里町災害ボランティア活動	4
野球・イラン代表チームのOB色川冬馬監督が来校	4
通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会を開催	5
学生の競技結果等	9

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
直通 0224-55-1802
内線 佐藤美保 256
渡辺誠司 271
土生佐多 200
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

佐藤真海氏と庄司由加氏との対談の様子

パネルディスカッションでは、それぞれの立場から意見が述べられました。

真海さんは競技を始め、１年半で出場したアテネパラリンピックでさまざまな選手を目の当たりにし、自分の障がいが軽く思えた時に病気により足を切断するという辛い事実を受け止めることができたそうです。また、障がいを持ちながらスポーツを続けたいと願う選手達には、まだ開いていない扉を自分で開けて欲しい。健常者の方々にはパラリンピックのファンになって欲しいと呼びかけました。

第二部では「スポーツの可能性　～夢を実現するために～」をテーマに、日本フットサルリーグ・ヴォスクオーレ仙台の千葉直樹氏（元ベガルタ仙台）、本学の准教授・全日本柔道連盟強化委員会女子監督の南條充寿氏、本学卒業生であり「第６３回河北文化賞」を受賞された宮城ＭＡＸ（車いすバスケットボール）ヘッドコーチの岩佐義明氏（昭和55年体育学科卒）によるパネルディスカッションが行われ、本学スポーツ健康科学研究実践機構長・ソチ五輪ボブスレー競技チームリーダーである鈴木省三氏がコーデイネーターを務めました。

アスリートが競技力を高め、勝利を導くために南條氏は「『Plan Do Check Action』が実に大切で、忍耐が全ての扉を開く、我慢が肝心。目標と結果が違った時にどこまで深く原因を追究できるか、その検証を忘れない。畳で戦うのは自分だけなので最後に行きつくのは、させられるのではない、自らが進んで取り組む「練習」である」と述べました。

岩佐氏は「パラリンピックは、初期の段階であった福祉や医療のリハビリという目的から発展し、現在はそれらを超えた真の競技になっており、健常者と障がい者の枠を外す心のバリアフリーが大事。ハンディキャップの度合いによって役割が違う障がい者スポーツは、障がいの重い選手が自分の果たす役目を全うするところに価値がある」と話しました。

千葉氏は「ベガルタ仙台が２度Ｊ１昇格した際、たくさんの仙台市民がお祝いを寄せてくれ選手と一体となって楽しむことができた。被災した自分もスポーツを通して絶望が希望に変わったので、被災地へスポーツの魅力というメッセージを届けることもスポーツの果たす大きな役目である。2020東京オリンピック・パラリンピック開催を力にしていきたい」と語りました。

コーデイネーターである鈴木氏は「ブラインドサッカーは耳からの情報でサッカーをする素晴らしさがあり、ハンディキャップのある方から健常者がたくさんのアイデアを得られるように、スポーツはする・見る・支えることに価値がある。また、どんなに悔しくても結果を受け入れて自分を奮い立たせるしかないスポーツは、人間力をも高めてくれる。大震災後に仲間・空間・時間がない＝「三間（さんま）」がない子どもたちと高齢者が一緒になって自宅でスポーツをできる環境を整備していくために、専門的指導者を育てていくことも必要」と、スポーツの可能性をますます広げていくためのディスカッションを締めくくりました。

最後に朴澤理事長より、毎年開催してきたスポーツシンポジウムは記念すべき10回目にこのような大勢の仙台市民・関係者に参加いただき、佐藤真海選手の感動的なエピソードをみなさんと一緒に拝聴できたことを深くお礼申しあげると共に、今後ともこの取り組みを継続させていきたいと考えているので、引き続きよろしくお願いしますとの挨拶で締めくくられました。

宮城県柴田高校体育科の2年生35名が本学で授業体験

高校生に衣服の着脱介護を教える大山学科長（左から2人目）
＝仙台大学介護実習室

12月2日（火）、宮城県柴田高校体育科の2年生35名が「上級学校訪問」のため、本学を来訪しました。訪問は、大学での授業体験を通して、早期から、進学意識を持つことや進路目標の設定を行なうことが目的。高校生たちは、本学の災害ボランティア活動のDVDを視聴した後、介護技術授業体験を行ないました。同体験は、本学の介護実習室において、本学健康福祉学科の大山さく子学科長と後藤満枝講師が対応。「衣服の着脱介護」を体験し、真剣な表情で取り組んでいました。

授業体験終了後、高校生たちからは「仙台大学健康福祉学科は、介護だけでなく、寝たきりや要介護を予防する高齢者への運動指導に力を入れていることがわかった」「大学進学への気持ちが高まった」等の感想が寄せられました 。

第19回新体操演技発表会を開催－若さ溢れる演技で観客を魅了

力強さと優雅さを備えた演技を見せる本学女子新体操競技部
＝仙台大学第五体育館

仙台大学男子新体操競技部の演技

12月7日（日）、仙台大学第五体育館で、本学男女新体操競技部主催の「第19回新体操演技発表会」が開催されました。

出演は、本学男女新体操競技部・仙台大学開放講座ジュニア新体操教室・本学ブレイキン同好会に加え、宮城県国体チーム及び浅沼圭選手（フリースタイルダンサー）にも賛助出演して頂き、発表会を盛り上げて頂きました。各選手たちは、それぞれの持ち味を十分に発揮し、若さ溢れる演技で会場内を埋めつくした５００名余を魅了しました。最終演技が終わると、会場からは惜しみない拍手が送られ、第19回新体操演技発表会は盛況裏に終了しました。

発表会終了後、本学男女新体操競技部の山梨雅枝部長は「本学の男子はダイナミックで大胆な動き、女子は優雅で華麗な演技を披露してくれました。観客の皆様に喜んで頂けて嬉しく思います」。「ジュニア新体操教室の子どもたちのかわいらしい姿、成長した姿にたくさんの拍手を頂きました。新体操は、体の基本的な動きを総合的に身に付けることができる競技。子どもたちには、新体操を通して体を動かす喜びや楽しさを感じ、表現力と感性を高めてほしいです」と話しました。

健康体操を実施―美里町災害ボランティア活動

健康体操（オープン＆クローズ体操）を行なう齋藤新助手（中央）
＝中埣コミュニティセンター

12月11日（木）、中埣コミュニティセンター（宮城県遠田郡美里町）で、本学と地元ボランティアグループ及び美里町社会福祉協議会が連携し、美里町災害ボランティア活動の一環として「健康体操」を実施しました。

本学からは、齋藤まり・松浦里紗の各新助手及びボランティア学生らが実演指導を行ない、阿部芳吉学長・橋本実教授（仙台大学健康づくり支援班）も参加。美里町の災害公営住宅中埣上戸団地住民及び中埣地区の高齢者の方々約60名と一緒に、頭の体操や下肢筋力トレーニング等の認知機能や筋力の維持・向上を目的として、明るく楽しく「健康体操」を実施しました。

ボランティア学生の木村丈治さん（体育学科3年－岩手・高田高校出身）は、「私自身、被災地の岩手県陸前高田市の出身です。災害ボランティアを始めたきっかけは、被災地のために何か役に立ちたいという思いからです」と話し、「笑顔と挨拶、気遣いと心配りを意識しながら活動しています。将来は健康運動指導士として、高齢者の方々の健康づくりをサポートできるようになりたいです」と今後の抱負を話しました。

野球・イラン代表チームのOB色川冬馬監督が来校

野球・イラン代表チーム監督就任の委嘱状を掲げながら阿部学長と固い握手を交わす色川監督＝学長室

12月10日（水）、野球・イラン代表チームの監督に就任（11月30日）した本学OB色川冬馬監督（平成26年スポーツ情報マスメディア学科－宮城・聖和学園高校出身）が学長室を訪れ、監督就任の報告を行ないました。

色川監督は大学卒業後、米国独立リーグやプエルトリコ・メキシコなど五か国１８チームでプレーしながら、選手の指導も行なっていました。イラン代表チームは、来年2月に西アジアカップ（八か国が参加予定）に出場する予定です。

色川監督は「イラン野球協会からは、イラン野球の普及・発展のために貢献してほしいとお話を頂いています。西アジアカップで勝つことで、多くのイラン人の方々が野球に興味を持つきっかけになったらと考えております。やるからには「優勝」を目指して頑張りたいです」「野球が2020年東京五輪で復活する可能性があります。代表チームを育て、イラン代表チームを東京五輪へ導くことが最終目標です」と力強く話しました。

昭和なつかし　健康喫茶を開催

11月11日（火）と12月9日（火）に柴田町住民を対象とした「昭和なつかし健康喫茶」が槻木生涯学習センターで開催されました。今回のイベントは、健康づくり運動サポーターの上級資格を持つ４年生２名が、主となり企画から実施をおこないました。今年で３回目となる「健康カフェ」のイベント名を「昭和なつかし健康喫茶」とし、昭和をイメージした空間で参加者に楽しんでもらえる内容をご用意いたしました。各回のテーマに沿った健康講話や運動はもちろん、喫茶コーナーでは飲み物とお菓子の提供、縁日コーナーでは、射的や輪投げ、魚釣りを体験していただきました。また、縁日コーナーでスタンプラリーも行い、各ブース列になるほど人気のコーナーでした。今回、『昭和』をイメージした空間になるよう、学生のアイディアにより装飾も工夫を凝らし、壁には昭和を思わせるような看板、喫茶コーナーのテーブルにはお手玉やメンコ、こまなどを置き実際に体験できる内容となりました。

第１回目11月11日（火）は「様々な疾患に繋がるメタボリックシンドロームについて」というテーマで、メタボリックシンドロームについての紹介やけん玉を使用しての下肢筋力のトレーニングを行いました。第２回目12月9日（火）は「認知症～口腔ケア・運動で予防～」というテーマで、認知症について理解を深め、楽しく予防できる口の体操や下肢筋力のトレーニングを行いました。

今まで仙台大学の教室に参加したことがある方だけではなく、町の広報のお知らせ版やポスターを見て興味を持ったなど、２日合わせて６６名の方々に足を運んでいただきました。

参加者からは「我々の地区（槻木以外）でも教室を開催してほしい」や「運動不足を解消するきっかけになりそう」また、学生に対しても「対応が素晴らしかった」「久しぶりに若い人と話ができて楽しかった」「若さのエネルギーをもらった」と好評をいただきました。

今後も地域のニーズに応えられるよう、学生と共に地域の健康づくりを行っていこうと思います。

＜報　告：新助手　松浦里紗＞

通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会を開催

通信制教育の学習の進め方等について説明する久能教授＝B204教室

12月19日（金）、本学講義棟B204教室で「通信制教育『小学校教諭二種免許状』取得希望者説明会」が開催され、中等教育課程（保健体育）を履修している本学の1年生及び2年生約30名が参加しました。

本学教職支援副センター長の久能和夫教授より、通信制教育での学習の進め方や事前の心構え等についての説明が始まると、参加学生たちは、真剣な面持ちで聞き入っていました。

参加学生たちに対して、久能教授は「教師になるという明確な意思と情熱を持って通信制教育に臨んでほしい。自ら進んで行動する人を力強く応援していきたい」と話されました。

平成18年度からの明星大学通信教育部との教育業務提携により、仙台大学で小学校教諭二種免許状の取得が可能となりました。本学では、小学校教員採用試験において、今年度も現役合格者を輩出するなどの実績をあげています。

運動栄養サポート研究会「第51回活動報告会」を開催

清野さんの発表の様子＝B103教室

12月19日（金）、本学B103教室で運動栄養サポート研究会「第51回活動報告会」が開催されました。報告会には、同サポート研究会所属学生約50名が参加。今回は、ラグビー部サポートグループの白鳥祐衣（しらとりゆい）さん（運動栄養学科3年―宮城・明成高校出身）と女子バスケットボール部サポートグループの清野鉄雄（せいのてつお）さん（運動栄養学科1年―福島成蹊高校出身）から発表がありました。

活動報告会は、同サポート研究会の各学生が、目標達成に向けて立てた活動計画の進捗状況や途中経過などを報告することを目的として行なわれました。

白鳥さんは「年間活動の目標は、欠食者の割合を減らすことでした。選手たちには、栄養セミナーを実施したり、リーフレットを発行したりしながら食事の大切さや意味を指導してきました。食生活アンケートを実施した結果、欠食者の割合を全体で7割減らすことができました。今後も選手たちの食意識がさらに向上するような活動を継続していきたいです」。清野さんは「自分（選手）の適正エネルギー量を知ることを年間活動の目標に掲げました。選手たちには、料理教室に参加してもらい、自炊に対する意識を高めてもらえるよう努めました。また、大会帯同では補食提供を行ない、「試合前に疲労が取れた」などの意見が寄せられ、好評でした。そして、選手に向けて「自分の適正エネルギー量を知ることができましたか？」というアンケート調査を行なった結果、選手全員から「できた」との回答を得ることができました」とそれぞれ努力し得られた成果について発表を行ないました。

仙台大学道央支部同窓会を開催

株式会社日本ハムファイターズ・チーム統轄本部スカウトの白井康勝氏の講演会の様子＝ホテルポールスター札幌

仙台大学道央支部同窓会での集合写真

12月6日（土）、ホテルポールスター札幌（北海道札幌市）で「仙台大学道央支部同窓会」が開催され、約70名の参加がありました。本学からも朴澤泰治理事長・阿部芳吉学長・鈴木省三教授（仙台大学同窓会会長）・大河原則夫OB参与（仙台大学同窓会事務局長）らが出席し、同窓生と交流、懇親を深めました。

最初に、今回、道央支部同窓会が初めての試みとして、株式会社日本ハムファイターズ・チーム統轄本部スカウトの白井康勝氏の講演会を企画しました。白井氏からは「スカウティングと育成で勝つという球団方針」や「ファンファースト（ファン第一）の気持ちで考えている」等について、ご自身の経験に基づいたお話を頂きました。

講演会終了後、仙台大学道央支部の懇親会が開会され、阿部学長から冒頭の挨拶が行なわれました。阿部学長は「仙台大学は3年後に創立50周年を迎えます。その際には、道央支部同窓会の皆様にぜひご協力を頂ければ大変有難く存じます」と話されました。その後、参加された同窓生の皆様は、会食しながら久しぶりの再会を喜び合ったり、在学中の思い出話に花を咲かせたりと充実した時間を共有し、道央支部同窓会は盛会裏に終了しました。

スリランカ、コロンボ報告Ⅳ―横川和幸元仙台大学教授

①この通路で運動します。
②３回続けてのドリブルは出来ません。
③ボールの方向は定まりません。
　カラーコーンがないので石が目標物です。
④動いているロープに反応できず、ジャンプのバランスも悪い。
⑤縄跳びの授業で男子は頑張って練習しますが、女子は出来ないとすぐに諦めてしまい勝手に綱引きを始めました。
（思わず笑っちゃいました）

１２月に入り寒さが厳しくなっているようですが、仙台では先日初雪が降ったとか！

こちらは雨季で雨や曇りの日が多くなっています。

スリランカではカレッジやスクールが６日から休みに入りました。

体育の授業や陸上競技の指導も３カ月が経過し、その感想をひとこと。

スリランカでのカリキュラムによると、体育実技が３０％・保健が７０％の割合で授業が行われているようです。

しかし、実態としては体育施設や用器具の不足により体育実技も教室で各競技スポーツに関わる知識を教えることが中心になっています。

実技を行うにしても、ここでは制服に通学靴で体育の授業を受けなければなりません。（経済的理由の他にも様々な問題があるようです）

従って、運動の内容もかなり限定され困ってしまいます。

・制服を汚さないような運動。
・汗はなるべくかかない運動。
・女子はスカート着用なので脚を前後左右に開くような運動は避ける。

これらの条件を満たすような運動はあるのでしょうか・・・？

生徒の実態は・・・

準備運動で膝の屈伸、脚部の伸展、首の回旋運動などを示範すると子供たちは笑い出します。今までこのような運動を見たことがないのでしょう。

異様な動きに見えたのかもしれません。

・体育の授業の経験が乏しいので、どのように体育の授業を受けたらよいのか分からない。
・準備運動の意味が理解できない。
・整列することが苦手。
・順番を守れない。
・勝手な行動をとる。
・運動課題が難しいとすぐに諦める。
・動くものに反応できない。（ドリブルや縄跳びなど：コーディネーション能力が極めて悪い）

以上の様な問題点がありますが、決して子ども達を責めるわけにはいきません。施設や用具の不足の環境下でも現場の教師の意識が少しでも変化すれば改善可能な部分がいくらでもあるかと思われますが・・・。

活動期間２７０日の半分が終わり折り返しに入りました。まだまだやることが沢山あり、実情に合わせて指導したいと思います。

＜寄　稿：スリランカ教育省
体育・スポーツ課　横川和幸＞

平成26年仙台大学親睦会総会･忘年会開催

１２月５日（金）ホテルメトロポリタン仙台において、平成２６年仙台大学親睦会・忘年会が開催され、法人事務局から朴澤泰治理事長・学事顧問をはじめ藤田常務、齋常務、桜井理事、佐野理事が、東京事務所からは遠藤所長にご出席いただき、１３３名という多くの参加者で賑わいました。

最初に総会では、親睦会会長の阿部学長より「２月のソチオリンピック、熊原投手を率いた硬式野球部初の神宮出場と初戦突破、仲野先生のスポーツテンカがＴＶでたびたび放映され、年の瀬には学内カップルの誕生など多方面で大変実り多き１年でした。学生達の努力に大学が大いに沸いた今年。来年もさらに飛躍の年にしていきましょう。」との挨拶がなされ、近江幹事から１年間の会計報告及び新役員の紹介がありました。

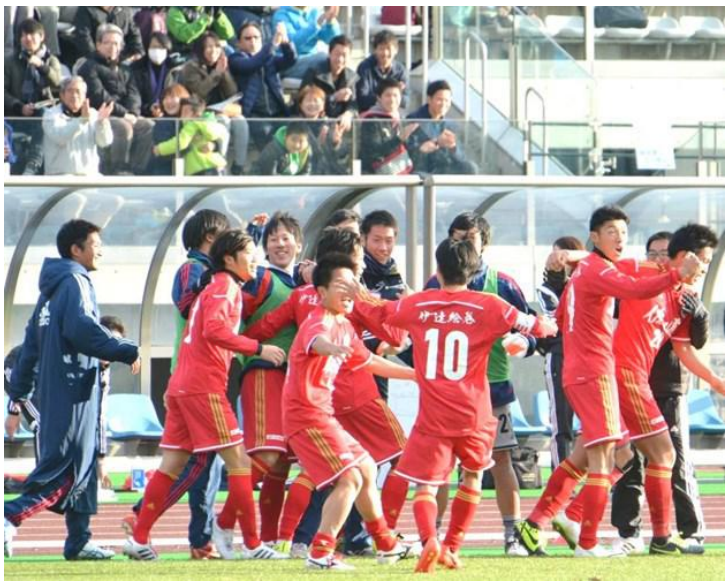
次に忘年会では平田幹事長の開会後、来賓として朴澤理事長・学事顧問のご挨拶、マーティ・キーナート特命副学長の乾杯に続きお２人のアルパ奏者による中南米の民族楽器「アルパ」が披露されました。大抽選会で盛り上がった後、若井統括副学長と吉田事務局長の３本締めで、和やかなひとときはお開きとなりました。

今年の親睦会を担当下さった平田幹事長、武石先生、田中先生、横田先生、近江課長、遠山さん、菅野さん、１年間本当にお疲れさまでした。

来年は新幹事長に久能先生、岡田先生、真野先生、金井先生、笹原さん、佐藤真紀子さん、松浦さんが選出され、久能新幹事長は「おもてなしの心で幹事を務めていきたい」とおっしゃっています。どうぞよろしくお願い致します。

男子サッカー部、明治大学を破り準々決勝進出／全日本大学選手権

FW齋藤選手(19)が決勝ゴールを決める＝味の素スタジアム西競技場



ゴールを決め、喜びを爆発させる齋藤選手(同)

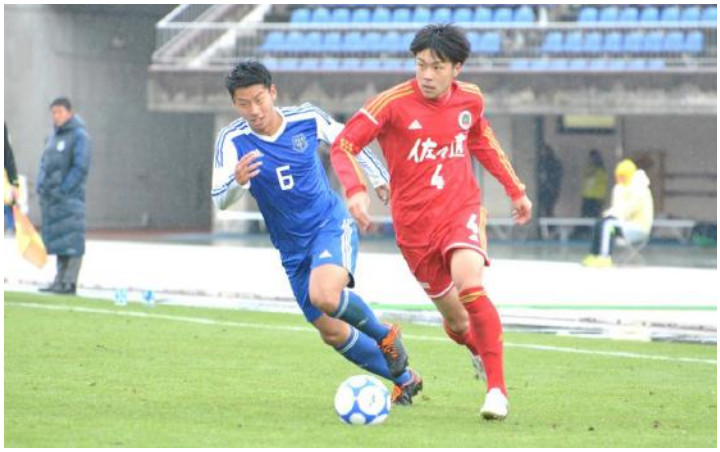
12月14日（日）、味の素スタジアム西競技場（東京都調布市）で「第63回全日本大学サッカー選手権大会」の2回戦が行なわれ、仙台大学（東北）が優勝候補の一角の明治大学（関東2位）を１－０（前半0-0、後半1-0）で破り、３年ぶりに準々決勝へコマを進めました。（本学は１回戦で常葉大学浜松（東海3位）を３－２（前半2-2、後半1-0）で振り切り２回戦進出）。

試合は序盤から自陣での防戦が続き、ピンチの連続。しかし、中條渡（なかじょうわたる）選手（体育学科4年－宮城・東北高校出身）や乾智貴（いぬいともき）選手（体育学科4年－群馬・桐生第一高校出身）らのDF陣が踏ん張り、GK松岡峻（まつおかしゅん）選手（体育学科4年－栃木・矢板中央高校出身）の好セーブでゴールを割らせず、０－０で前半を折り返しました。

後半19分、MF秋葉侑志（あきばゆうし）選手（体育学科4年－モンテディオ山形ユース出身）のクロスを後半開始から出場のFW齋藤恵太（さいとうけいた）選手（体育学科4年－宮城・聖和学園高校出身）が右足で押し込み、これが決勝点となって、仙台大学は明治大学を１－０で破りました。

福島ユナイテッドFCへの来季入団が内定している齋藤選手は、「決勝ゴールを取れたことは素直に嬉しいです。気持ちで決めたゴールです」と振り返り、「船岡(仙台大学の所在地)から力強く応援に駆け付けてくれている控え部員130名に後押しされ、本当に有難いです。仲間たちと一日でも長くサッカーが続けられるよう次も必ず勝ちます」と感謝の気持ちを込めて語りました。

男子サッカー部、健闘も16大会ぶりの4強入り逃す／全日本大学選手権



ＭＦ児玉昇選手（４）（体育学科３年―柏レイソルユース出身）が攻守にわたる活躍を見せた。＝shonan BMWスタジアム平塚

試合終了後、関西学院大学ベンチへ挨拶する仙台大学イレブン

12月16日（火）、shonan BMWスタジアム平塚（神奈川県平塚市）で「第63回全日本大学サッカー選手権大会」の準々決勝が行なわれ、仙台大学（東北）は関西学院大学（関西3位）と対戦し、惜しくも０－１（前半0-1、後半0-0）で敗れ、16大会ぶり3度目の4強入りを逃しました。

試合は前半14分に失点し、追う展開。仙台大学は相手陣内でゲームを進めますが、なかなか得点ができず、０－１で前半を折り返しました。

後半開始から仙台大学はFW齋藤恵太（さいとうけいた）選手（福島ユナイテッドFC入団内定／体育学科4年－宮城･聖和学園高校出身）を投入し、攻撃にリズムを生み出しました。後半13分、MF秋葉侑志（あきばゆうし）選手（体育学科4年－モンテディオ山形ユース出身）がフリーでボレーシュートを放ちましたが、ゴール上方へ外れます。同20分には、MF川上盛司（かわかみせいじ）選手（体育学科1年－鹿島アントラーズユース出身）の右サイドからのクロスをFW蓮沼翔太（はすぬましょうた）選手（体育学科3年－柏レイソルユース出身）が左足で振り抜きましたが、相手GKの足で止められます。その後も相手陣内で再三チャンスを作りましたが、相手の固い守りの前にゴールを決めることができませんでした。関西学院大学にあと一歩及ばず０－１で敗れ、準決勝進出はなりませんでした。

引き続き、本学男子サッカー部への温かいご声援をよろしくお願い致します。

男子サッカー部、鳥山祥之選手がJFLヴァンラーレ八戸FCに入団内定

吉井監督と握手を交わす鳥山選手（右）＝仙台大学

12月5日（金）、本学男子サッカー部MF鳥山祥之（とりやまよしゆき）選手（体育学科4年―柏レイソルユース出身）の2015シーズンからのJFLヴァンラーレ八戸FCへの入団内定が、正式に決まりました。

鳥山選手の最大の武器は、サイド攻撃からの正確なクロスボール。チームの多くの得点は、鳥山選手のクロスボールから生まれています。また、サイドバックの位置からのビルドアップ能力も高く、攻撃的なサイドバックとしての能力も高く評価されました。そして、本学男子サッカー部の14年連続31回目のインカレ出場に大きく貢献しました。

鳥山選手は「サッカーを続けられることに喜びを感じています。両親、仙台大学サッカー部の吉井監督・瀬川コーチ・伊勢コーチ・和泉コーチや今まで支えてくれた方々に感謝しながら精一杯プレーし、チームの勝利に貢献できるように頑張ります。応援をよろしくお願いします」と話しました。

なお、昨年、JFLヴァンラーレ八戸FCに加入したOB菅井拓也選手（平成26年健康福祉学科卒―宮城･聖和学園高校出身）とOB菅井慎也選手（平成26年体育学科卒―宮城･聖和学園高校出身）の双子の兄弟も、現在活躍中です。

女子フロアボール部、インカレ2年ぶり2度目のV

2年ぶり2度目となったインカレ優勝を喜ぶ、女子フロアボール部の選手たち
＝仙台大学第一体育館

12月20日（土）・21日（日）の二日間、駿河台大学体育館（埼玉県飯能市）で「第4回日本学生フロアボール選手権大会（インカレ）」が開催されました。

仙台大学は１回戦で前年度優勝校の強豪・駿河台大学と対戦。１－２で迎えた第３ピリオド残り２０秒で、2014年世界学生選手権フロアボール日本代表のFW黒田（くろだ）こはる選手（体育学科2年－宮城広瀬高校出身）が２得点を挙げる活躍を見せ、３－２で逆転勝利を収めました。決勝戦は、仙台大学が国士舘大学を４－１で破り、２年ぶり２度目の優勝を果たしました。

千葉恵理子（ちばえりこ）主将（健康福祉学科3年－宮城･岩ヶ崎高校出身）は「優勝の喜びを味わえて嬉しいです。東北リーグ（大学・社会人チームを含む）で初優勝し、その勢いのままインカレでも優勝を果たせました」と話し、「インカレ連覇に向けて、より一層努力していきたいです」と今後の抱負を語りました。

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.105／ 2015 January
（月1回発行）

仙台大学 広報室
Monthly Report

DAN DAN DANCE＆SPORTS 11thを開催
― 会場に笑顔が広がる ―

仙台大学ブレイキン同好会による楽しいダンスパフォーマンス
＝えずこホール（宮城県大河原町）

1月24日（土）、えずこホール（仙南芸術文化ホール）において、今年で11回目を迎えた「DAN DAN DANCE＆SPORTS 11 th」（主催：仙台大学・DAN DAN DANCE＆SPORTS実行委員会）が開催され、約350名の方々にご来場頂きました。老若男女・障害の有無を問わないダンサーたち28組の力強く華麗なパフォーマンスが繰り広げられ、会場いっぱいに笑顔が広がりました。

仙台大学からは、男女新体操競技部・体操競技部・ブレイキン同好会・台東大学（台湾）の留学生ほか多数の団体が出演。明成高校・常盤木学園高校・東北生活文化大学高校の各ダンス部による若さ溢れるエネルギッシュな演技も披露され、大いに会場を沸かせました。最終演技には、ゲストダンサーとして「チーズマン」が感性豊かで創造性のあるダンスを繰り広げ、会場中の方々の目が釘付けとなりました。

DAN DAN DANCE＆SPORTS 11 thを終えた実行委員長の佐藤将道（さとうまさみち）さん（体育学科4年ー福島北高校出身）は「会場を後にする方々からは、ありがとう！よかった！楽しかった！と声をかけて頂き、実行委員長冥利に尽きる次第です。人を引っ張る立場になって、苦労した部分もありましたが、周りの協力があって無事に終えることができました」と感謝の言葉を述べました。

【２面に続く】

＜ 目 次 ＞

DAN DAN DANCE＆SPORTS 11thを開催―会場に笑顔が広がる	1
プロ野球楽天の新人選手が本学で体力測定に臨む	2
NRサプリメントアドバイザー資格試験に本学から5名が合格	3
第1回 高校生のための仙台大学教師塾	4
仙台大学硬式野球部「全日本大学野球選手権」出場記念誌が完成	7
学生の競技結果等	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
TEL 0224-55-1802
FAX 0224-57-2769
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

仙台大学わんぱくフット

本学の山梨雅枝講師は「先週ニューヨークで公演したばかりの世界的ダンサーである「チーズマン」さんにゲスト出演して頂き、コンテンポラリーダンスの魅力を発信できたと思います。学生たちには「踊る」・「創る」という力のほかに「観る」という「鑑賞力」を身に付けさせることを目標にしていきたいです」と今後の抱負を話しました。

なお、「DAN DAN DANCE＆SPORTS」は毎年1回開催しており、来年度は、2016年1月23日（土）に開催予定です。ダンスに興味関心のある方は、ぜひご来場・ご参加下さい。

仙台大学女子新体操競技部

仙台大学男子新体操競技部

台東大学（台湾）からの留学生

プロ野球楽天の新人選手が本学で体力測定に臨む

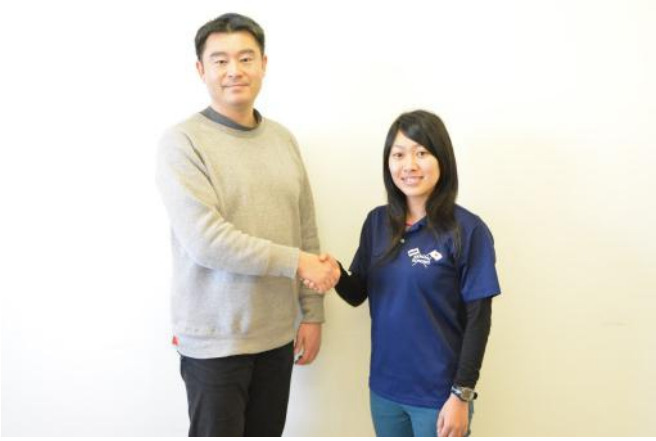
脚筋力を測定する安楽投手
＝仙台大学バイオテックス室

1月24日（土）、本学でプロ野球楽天ゴールデンイーグルスの新人合同自主トレが行なわれ、新人選手9名（安楽智大投手・小野郁投手・福田将儀外野手・ルシアノ　フェルナンド外野手・入野貴大投手・加藤正志投手・伊東亮大内野手・八百板卓丸外野手・大坂谷啓生内野手）が体力測定に臨みました。この体力測定は、選手が自分の体力やコンディションを詳しく把握するために、5年前から本学で行なわれています。新人選手たちは、最大酸素摂取量（全身持久力の指標）と脚筋力の測定を行ない、ドラフト１位の安楽投手（＝写真）も苦しい表情を浮かべながら取り組んでいました。

今回の体力測定では、本学の高橋弘彦教授、内丸仁・竹村英和の各准教授、小田桂吾講師が測定指導を行ない、本学アスレティックトレーナー部及び大学院生らが測定補助を行ないました。

脚筋力の測定補助を行なったアスレティックトレーナー部の遠藤皓樹（えんどうこうき）さん（体育学科4年―山形・米沢中央高校出身）は、「楽天の体力測定の補助を行なったのは、今回で３年目です。測定は正しく・順序よく・無理をさせず・安全に実施することを心がけました。また、選手たちとのコミュニケーションを通して貴重な経験ができました。今後のトレーナー活動に生かしていきたいです」と意欲的に話しました。

NRサプリメントアドバイザー資格試験に本学から5名が合格



早川准教授と握手を交わす木村さん＝仙台大学

平成26年12月19日（金）、「平成26年度NRサプリメントアドバイザー認定資格」（一般社団法人日本臨床栄養協会の認定資格）の合格者が発表され、本学からは木村汐里（きむらしおり）さん（運動栄養学科2年―群馬・館林女子高校出身）、菊地遥（きくちはるか）さん（運動栄養学科3年―宮城・聖和学園高校出身）、薗部一騎（そのべかずき）さん（運動栄養学科3年―福島・磐城高校出身）、只野瑞恵（ただのみずえ）さん（運動栄養学科4年―宮城・涌谷高校出身）、佐々木美穂（ささきみほ）さん（運動栄養学科4年―秋田・大館桂高校出身）の５名（本学からの受験者７名）が合格しました。本学の合格率は７１.４％となり、全国の合格率（４５.２％）を大幅に上回りました。

NRサプリメントアドバイザーとは、サプリメントやその他の健康食品の摂取方法などを的確にアドバイスできる専門家です。

本学サプリメントアドバイザー資格付与主管の早川公康准教授は「国内外を問わず、スポーツ選手はもちろん一般健常者や高齢者においてもサプリメントを利用するケースが増えています。栄養指導でも通常の食事が重要であるのは当然として、保健機能食品や健康食品等を含むサプリメントに関する多くの知識と深い理解をもった人材へのニーズは高まっており、本資格取得者の今後の活躍が期待されます」と話しました。

今回、本学から最少学年（2年生）で合格した木村さんに、NRサプリメントアドバイザー認定資格試験を受けたきっかけや今後の抱負などを伺いました。

木村汐里さん

Q.NRサプリメントアドバイザー資格試験を受けたきっかけは―

仙台大学運動栄養学科には「スポーツ栄養」に興味があって入学しました。入学直後に見た大学の掲示板に、サプリメントアドバイザーの受験案内のポスターが掲示されていて、そのポスターには「これからの社会は、正しい知識を持ったサプリメントアドバイザーを必要とし、その需要はますます増大していきます」と書かれていたので興味を持ちました。

Q.合格までの道のりは―

1年生の時にも受験しましたが、「不合格」となり、2回目となる今回のチャレンジで合格しました。「今年こそは合格したい」という強い思いで、テキストとネット通信講座の併用で勉強しました。1年生の時は、大学生活に慣れること、勉強と部活の両立でいっぱいいっぱいでしたが、2年生になり、大学生活にも少し慣れ、授業の空きコマと部活（漕艇部）のオフを利用して勉強しました。くじけそうにもなりましたが、早川先生からの叱咤激励で何とか合格することができ、感謝しています。

Q.今後の抱負は―

まずは、ワンステップを踏み出せたと思います。合格は、部活との両立でかなり大変でしたが、その分得られた達成感は大きく、自信になりました。将来は、管理栄養士になることが目標です。今は勉強が楽しくなり、もっと「栄養」や「サプリメント」について知りたいと思うようになりました。少しずつですが、管理栄養士国家試験の勉強をはじめました。部活との両立をして、スポーツ栄養の現場に携われる仕事に就けるよう頑張っていきたいと思っています。

第1回　高校生のための仙台大学教師塾

１２月２６日（金）、２７日（土）の２日間にわたり、『高校生のための教師塾』が本学Ｂ棟２階の教室を会場にして行われました。宮城県柴田高校，宮城県利府高校，明成高校から３年生を中心に１．２年生も加わり、２日間合わせてのべ３２名の高校生が参加しました。

『高校生のための教師塾』は、「教師になろう」とする志をもつ高校生に対し、その思いの実現に向けた教育活動支援を行う。さらには、高大連携並びに本学と宮城県教育委員会・仙台市教育委員会との連携を通して教員の資質向上、「よい先生づくり」のための具現化を図ることを目的として初めて開催されました。

初日は、開塾式の後、阿部学長による「教師の魅力とは何か」の講話に始まり、本学で資格取得できる教員免許の内容及び取得の仕方などについて、教職科目を担当している鈴木清和、大内悦夫、渡邊康男、高橋まゆみ、久能和夫各教授、入澤裕樹助教による教職講座が開かれました。

２日目には、「教えるとは」「クラスをつくるとは」「教師に求められる力とは」などの講座を山谷幸司、荒井龍弥、青沼一民各教授が担当しました。さらに本学で教員を目指し「自主ゼミ（教採塾）」で学んでいる３．４年生と一緒になり「志の実現のために求められること」について熱のこもったグループ討議・発表を行いました。閉塾式では，宮城県教育委員会教育長髙橋仁並びに仙台市教育センター主幹坂本憲昭両氏から自らの体験を振り返りながら「教職を志す者への期待」について力強い励ましの言葉を頂きました。

参加した高校生からは、「今回，改めて勉強が大切なことが分かった。さらに具体的な勉強の内容等についても教えて欲しい」「実技種目の専門的な内容にも触れて欲しい」「通信教育の小学校２種のことについて、もっと詳しく知りたい」など、『高校生のための教師塾』の今後に寄せる期待の声が多く届けられました。

初めての開催と言うことで生徒を派遣してくれた各高校の校長先生をはじめとした教職員の皆様，本学教職支援課の職員の皆様など運営面で多くの支援を頂きました。その支援のお陰で充実した２日間になりました。心より御礼を申し上げます。

＜報　告：教職支援センター　教授　久能和夫＞

グループ討議の様子　教職志望の大学生とともに

みやぎ消防出前講座in仙台大学を開催

心臓マッサージと人工呼吸の練習をする学生＝仙台大学第四体育館

1月14日（水）、本学第四体育館で「みやぎ消防出前講座」（主催：宮城県消防課消防班）が開催され、本学現代武道学科の学生が参加しました。同講座は、地域の安全・安心を確保する上で、消防団が抱える課題について理解を深め、大学生の消防団への入団機運の醸成を目指すことを目的として開催されました。

消防団員として長年活動されている柴田町消防団の佐藤賢一団長は、「消防団は、地域密着性、要員動員力、即時対応力という特徴を活かし、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守る重要な役割を担います。地域のために、一緒に活動しましょう」と訴えました。

仙南地域広域行政事務組合消防本部の大宮裕治氏と上遠野裕深氏の救急救命士からは、救命処置、心肺蘇生、AEDの使用、止血法、その他の応急手当について学びました。学生たちは、心臓マッサージや実際にAEDも使い、緊急時の一連の対応を練習しました。

大久保成実（おおくぼなるみ）さん（現代武道学科2年―仙台三桜高校出身）は、「消防団の方のお話では、地域の人と人とのつながりの大事さを知りました。AEDは初めて使いました。心臓マッサージやAEDを使用し、正しい処置の仕方が学べて良かったです」と話しました。

本学の学生と教員が合同でFD研修会を開催

学生と教員が一緒に授業の現状や課題について模造紙にまとめる様子＝仙台大学

1月20日（火）、本学A棟2階大会議室で「学生・教員合同FD研修会」が開催され、本学の1年生～3年生までの学生15名と教員10名が、「有意義な90分の授業に向けて」というテーマで、授業（講義・実技・演習）について話し合いました。

最初に、本学教育改善企画委員の笠原岳人准教授からテーマと趣旨が説明され、学生と教員が混合の５グループを編成。授業の現状や課題について、グループごとにディスカッションを行いました。その後、各グループで意見を集約し、「共有」に向けてのまとめの作業が行なわれ、最後にグループごとに発表が行なわれました。

各グループからの発表終了後、本学教育改善企画委員長の粟木一博教授は「教育のマネジメントに関する内容の意見が多かった。授業の進め方を振り返ることができた。学生の理解を促進するための工夫をしていきたい」「カリキュラムのあり方や授業の組み立て方を検討し、学習内容の順次性と科目間の関連性を示していくことが必要であると強く感じた」と講評を述べました。

宍戸香菜子（ししどかなこ）さん（健康福祉学科2年―仙台東高校出身）は「日頃思っていたことを話すことができて良かったです。授業の改善に少しでも貢献できたら嬉しいです。このような機会の提供は、学生の意欲も湧くので、ぜひ続けてほしいです」と話しました。

避難訓練を実施しました

消火班による放水体験の様子

仕事納めである１２月２５日（木）柴田町消防署の協力の下、避難訓練を実施しました。今回は学生食堂から出火したという想定で、約６０人の教職員が参加し真剣に取り組みました。

１１９番への通報後、本番さながらに火災消火班や避難誘導班、情報連絡班がそれぞれの持ち場である火元や守衛室に駆けつけ、その他の教職員は速やかに噴水前に避難、実際に火災消火班数名が放水を体験しました。

火事が起きた際、１番大事なポイントは自分の逃げ道を確保しつつ、逃げ遅れた人がいないかどうかの確認だそうです。トイレや倉庫・会議室など施設全てを迅速かつ確実にチェックすれば、犠牲者ゼロを達成できるとのことでした。

最後に消防署の方から「通報する際にパニックとなり、自分の住まいさえ言えない場合があるので、日頃から電話の近くに自宅の住所や電話番号を大きく掲示しておけばいざという時にとても役立つ」という具体的なアドバイスをお聞きし、終了となりました。

「火災を起こさないことが最大の人命救助」今一度この言葉を噛みしめ、大学全体でさらなる火災予防に努めて参りましょう。

平成27年度大学入試センター試験無事終了

１月１７日（土）～１８日（日）と実施された大学入試センター試験が無事終了しました。宮城県の１２大学を会場とした今年の県内の志願者数は、去年より３１８人少ない９、８９８人で、そのうち仙台大学では７５０人が受験しました。

１７日には地理歴史・公民・国語・外国語、１８日には理科と数学それぞれの試験が行われましたが、心配されたリスニングの再試験はゼロで、１８日の午後～夜にかけて強風のため東北本線のダイヤが乱れたものの、受験生に対する特段の影響もありませんでした。

２月６日（金）～７日（土）には本学の一般入試試験も予定されており、受験生にとって希望の春は間もなくです。

日本芝草学会から寄付を頂きました

1月13日（月）付で、2014日本芝草学会秋季大会運営委員会様より、本学に対し、寄付金を頂戴致しました。

この寄付金は、平成26年10月3日～5日に本学を会場として、「2014日本芝草学会秋季大会（仙台大学）」が開催され、運営面での協力に対するものです。

誠にありがとうございました。

仙台大学硬式野球部「全日本大学野球選手権」出場記念誌が完成

平成27年1月15日（木）、本学硬式野球部が平成26年度春季リーグ戦を制し「全日本大学野球選手権」に初出場した足跡を振り返る「仙台大学の“神宮ロード”」が完成しました。「仙台大学の“神宮ロード”」は、記念すべき神宮初出場を硬式野球部に関わった皆様と共に振り返る一資料になるよう硬式野球部OB会が企画しました。

1月31日（土）に、仙台国際ホテル（仙台市青葉区）で「仙台大学の“神宮ロード”」発行記念パーティーが開催され、遠方から多くのOBや大学関係者、地元・柴田町からは硬式野球部を支援する有志の会「川交会（せんこうかい）」の皆様がご参加下さり、喜びを分かち合いながら、盛会裏に終了しました。

BLS部、宮嶋克幸選手（体育学科1年）が大健闘の3位―2014／2015全日本スケルトン選手権

写真提供：OB高橋宏臣さん

ソリに乗り込む宮嶋選手＝長野スパイラル

12月28日（日）、長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラス）で行なわれた「2014／2015全日本スケルトン選手権」において、本学ＢＬＳ部（ボブスレー・リュージュ・スケルトン部）の宮嶋克幸（みやじまかつゆき）選手（体育学科1年―北海道･札幌丘珠高校出身）が2回の合計タイム1分48秒35で見事３位入賞の大健闘を見せました。全日本での上位入賞の結果、宮嶋選手は、男子ジュニアナショナルチームの選抜メンバーに選ばれました。

未来のスケルトン界を担うであろう宮嶋選手に課題や今後の抱負などについて話を聞きました。

宮嶋克幸選手

Q.仙台大学に入学した理由は―

オリンピックに憧れ、中学3年からスケルトンを始めました。高校2年時の全日本で9位に入り、鈴木省三先生（仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部監督）から「仙台大学でスケルトンをやらないか」と声を掛けて頂きました。仙台大学出身で、高校の恩師である西方英幸先生（平成3年体育学科卒）からも入学を後押しされました。本気でスケルトンをやるなら仙台大学しかないと思い、入学を決意しました。また、将来は体育の先生になりたいという目標があります。

Q.今の課題は―

トップ選手は、「滑走技術」や「プッシュタイム」など誰にも負けないものを持っています。それに比べて自分は、中途半端でこれといった強みがありません。全日本では「強み」を明確にしていかなければ勝てないことを痛感しました。2月1日～カナダ・カルガリーで男子ジュニアナショナルチームの合宿が行なわれます。そこで経験を積み、技術を身に付け、自分の強みを見つけてきたいと思います。

Q.今後の抱負は―

全日本で３位に入りましたが、この結果に満足することなく、さらに上を目指して頑張りたいです。来シーズンに開催される「スケルトン世界ジュニア選手権」を見据えて精進していきたいと思います。

世界へ羽ばたく―BLS部、黒岩俊喜主将（運動栄養学科3年）が男子ボブスレー2人乗りでナショナルチーム入り

更なる飛躍を誓う黒岩主将
＝仙台大学ボブスレー・リュージュ・スケルトン人工練習場

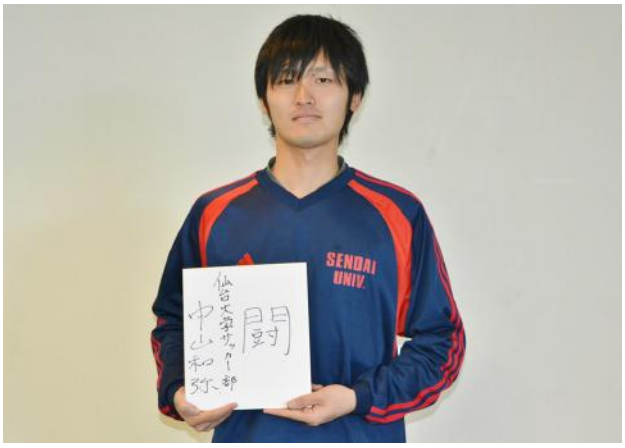
ソチ五輪ボブスレー日本代表で、本学BLS（ボブスレー・リュージュ・スケルトン）部の黒岩俊喜（くろいわとしき）主将（運動栄養学科3年－神奈川・橘高校出身）が男子ボブスレー2人乗りでナショナルチームに選ばれました。2月7日（土）～18日（水）までスイスとオーストリアに遠征し、国際大会に臨みます。

黒岩主将は、昨年9月に長野市ボブスレー・リュージュパーク（スパイラル）で開催された「全日本プッシュ選手権」で１位。コンバインテスト（15m・30m・45m加速走、砲丸フロント投げ、立ち幅跳び、スクワットetc）でも評価の基準を大きく上回り、バランスのとれた高い身体能力が評価されました。また、ボブスレーのパイロットの操縦技術も高い評価を受け、男子ボブスレー2人乗りでナショナルチーム入りを勝ち取りました。

黒岩主将は「ソチではボブスレーのブレーカー（ソリを押す役）として出場しましたが、今度はパイロット（ソリを操作する役）に挑戦することになりました。ボブスレーではパイロットが花形。自分が先頭に立って、日本のボブスレー界を牽引していきたいです。海外のコースを多く滑り、国際大会の経験を積み、パイロット技術と対応力を身に付けたいです」と力強く抱負を話しました。

引き続き、黒岩主将への熱い応援をよろしくお願い致します。

男子サッカー部、DF中山和弥選手（体育学科4年）がY.S.C.C.横浜に入団内定



色紙に意気込みを書いた中山選手

本学男子サッカー部DF中山和弥（なかやまかずや）選手（体育学科4年―コンサドーレ札幌ユース出身）の2016シーズンからのＹ.Ｓ.Ｃ.Ｃ.横浜への入団が、正式に内定しました。これで本学男子サッカー部から今年度は、FW齋藤恵太（さいとうけいた）選手（福島ユナイテッドＦＣ内定／体育学科4年―宮城・聖和学園高校出身）、MF熊谷達也（くまがいたつや）主将（ブラウブリッツ秋田／体育学科4年―柏レイソルユース出身）に続き、３人目のＪリーガーが誕生することになりました。

中山選手は左利きで、１９０センチの長身を生かしたヘディングと１対１の強さが持ち味の大型センターバックです。中山選手に大学４年間を振り返ってもらうと共に、今後の抱負などについてお話を聞きました。

この４年間を振り返って―

同じポジションに良い選手がたくさんいました。競争が激しく、厳しい環境の中、努力する大切さを学びました。自分はDチームから這い上がり、成長できた４年間でした。また、頻繁にベガルタ仙台と練習試合できたことは、大変貴重な経験でした。

大学サッカーで学んだことは―

仙台大学男子サッカー部の吉井監督・瀬川コーチ・白幡トレーナーをはじめ、温かいスタッフに恵まれ、非常に有難い環境でサッカーをやらせて頂き、感謝する気持ちの大切さを学びました。これからも感謝の気持ちを忘れず、精一杯頑張っていきたいと思います。

どんな選手を目指しますか―

しっかりと感謝の気持ちを持てる、浦和レッズの闘莉王選手のように熱い気迫を見せることのできる選手になりたいです。１年目からレギュラーを獲れるように頑張りたいです。今から（齋藤）恵太と（熊谷）達也との対戦を楽しみにしています。

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.106／ 2015 February
（月1回発行）

仙台大学 広報室
Monthly Report

OG小室希選手(仙台大学客員研究員)が全日本スケルトン選手権V6を学長へ報告

左から朴澤理事長・小室選手・鈴木監督・阿部学長＝学長室

2月2日（月）、昨年12月の「全日本スケルトン選手権」に出場したバンクーバー・ソチ五輪日本代表のOG小室希選手（仙台大学客員研究員／平成23年仙台大学大学院修了―平成20年体育学科卒―宮城・白石女子高校出身）が、本学ボブスレー・リュージュ・スケルトン部の鈴木省三監督と共に学長室を訪れ、朴澤泰治理事長と阿部芳吉学長に６連覇達成の報告を行ないました。朴澤理事長は小室選手が現在本学の客員研究員であることに触れ、「研究員として更なる研鑽を期待します」と激励し、阿部学長は「努力の積み重ねが素晴らしい記録につながったのだと思います。小室選手の活躍は、被災地を元気にします」と偉業に対する賞賛の言葉を贈りました。

今大会の一本目の滑走で54秒77をマークし、長野市スパイラルのコースレコード（最高記録）を更新した小室選手は、「スケルトンの楽しさを再発見し、達成感を味わえた大会だった。新しいソリとの一体感が深まってきた。技術を試す心の余裕もできた」と振り返り、「昨年の3月から宮城県のタレント発掘事業で、男子中学生へのスケルトンの指導を行なっている。必死に頑張る中学生の姿を見て、自分の大きな励みになった。心身両面で充実している」と力強く話しました。

引き続き、小室選手への温かいご声援をよろしくお願い致します。

＜ 目 次 ＞

OG小室希選手(仙台大学客員研究員)が全日本スケルトン選手権V6を学長へ報告	1
第6回仙台大学「管理栄養士合格修錬会」を開催―決意を新たに	2
硬式野球部・熊原健人投手（体育学科3年）ら表彰／宮城県スポーツ表彰式	3
本学から海外へ留学する学生2名が学長に挨拶	4
「できる楽しさ」の再発見－平成26年度「スケート実習(盛岡)」	7
羽ばたけ！社会の安全・安心を担う社会人よ！～初めての卒業生を送り出す“現代武道学科”～	9

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
TEL 0224-55-1802
FAX 0224-57-2769
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

第6回仙台大学「管理栄養士合格修錬会」を開催―決意を新たに

合格を誓う修錬生ら＝仙台大学F303教室

2月11日（祝・水）、本学F303教室で、毎年恒例の「仙台大学管理栄養士合格修錬会」が開催され、3月の国家試験直前の総仕上げが行なわれました。管理栄養士合格修錬会は、管理栄養士国家試験合格を目指す本学卒業生及び卒業後同試験の受験意志のある在学生の学習を支援する会です。

今回の修錬会には、本学運動栄養学科の卒業生7名及び在学生2名の計9名が参加。東京アカデミーから講師をお招きし、例年、国家試験で最も配点が高いとされる「臨床栄養学」・「基礎栄養学」・「人体の構造と機能及び疾病の成り立ち」について、重点的に教えて頂きました。

現在、仙台市高砂学校給食センターの栄養士として勤務１年目の尾崎華穂さん（平成25年運動栄養学科卒―宮城広瀬高校出身）【前列左から2番目】は、「昨年の3月からユーキャンの管理栄養士通信講座で勉強していますが、特に「生化学」や「臨床栄養学」に理解しきれない部分がありました。修錬会に参加し、久しぶりに会った仲間と頑張ろうと励まし合いすることで、疑問が解消しました」と話し、決意を新たにしていました。

仙台大学管理栄養士合格修錬会主管の早川公康准教授は「最近、資格取得を目指して勉強を始めた人の中に、勉強それ自体に楽しみを覚え始めている様子もうかがわれます。勉強は苦しいことと思われがちですが、発想の転換により楽しみにもなりうるのも事実です。ましてや人の健康に関わる管理栄養士国家試験の内容は幾重にも価値あるものと言い切れます。最後はやはり“絶対に合格するんだ”という執念に尽きると思います。本学関係受験生の大健闘が期待されます」と語りました。

なお、本年度の管理栄養士国家試験は3月22日（日）、合格発表は5月8日（金）に行なわれる予定です。

第2回傷害予防講習会を開催

スポーツ傷害の予防について説明する小野新助手＝川平ＡＴルーム

2月3日（火）・4日（水）・17日（火）の3回にわたり、川平アスレティックトレーナールーム（仙台市青葉区）で「第２回傷害予防講習会」が開催されました。この講習会の講師は、本学の小野勇太新助手（アスレティックトレーナーと柔道整復師の両資格取得者）が担当し、アスレティックトレーニング活動の普及と怪我を未然に防ぐ意識を高めることを目的として行なわれました。本学と姉妹校である明成高校の特定研究指定部（男女サッカー部・女子バスケットボール部・陸上競技部）の生徒82名・監督3名が受講され、熱心にメモを取りながら聴講していました。

小野新助手は「生徒たちの怪我の予防への関心の高さを感じる3日間となりました。現状把握を目的にアンケートを実施したので、現場の要望に応えられるような講習内容、特に脱水症や熱中症など、命に関わる講習内容も組み込んでいきたいです」と今後の抱負を話しました。

なお、第１回傷害予防講習会は、上記と同様に明成高校の特定研究指定部の生徒たちに対し、平成26年11月11日・12日に本学の斎藤広子新助手が「脳震盪」について、12月9日に小野新助手が「スポーツと栄養」について実施しました。

＜第１回傷害予防講習会＞

NO	日にち	内　容	担当者
1	11月11日	脳震盪	斎藤広子新助手
2	11月12日		
3	12月9日	スポーツと栄養	小野新助手

＜第２回傷害予防講習会＞

NO	日にち	内　容	担当者
1	2月3日	シンスプリント	小野新助手
2	2月4日		
3	2月17日		

硬式野球部・熊原健人投手（体育学科3年）ら表彰／宮城県スポーツ表彰式

高橋仁県教育長から特別功績賞の記念盾と賞状を受け取る熊原投手
＝宮城県行政庁舎講堂

2月14日（土）、宮城県行政庁舎講堂で「平成26年宮城県スポーツ表彰式」が行なわれました。宮城県では、スポーツに関して顕著な成績を挙げた個人及び団体に宮城県スポーツ賞を授与し、その業績を顕彰しています。

本学関係者からは、第1回IBAF21Uワールドカップで準優勝に貢献した硬式野球部の熊原健人（くまばらけんと）投手（体育学科3年－宮城・柴田高校出身）、インチョン2014アジアパラ競技大会陸上女子砲丸投げと円盤投げで優勝した陸上競技部の加藤由希子（かとうゆきこ）選手（健康福祉学科3年－宮城・気仙沼女子高校出身）、第17回アジア競技大会（2014仁川）ボート男子軽量級ダブルスカルで優勝したOB大元英照（おおもとひでき）選手（アイリスオーヤマ／平成19年体育学科卒－宮城・塩釜高校出身）が特別功績賞を受賞しました。また、ソチ冬季五輪男子ボブスレー日本代表の黒岩俊喜（くろいわとしき）選手（運動栄養学科3年－神奈川・橘高校出身）、同女子スケルトン日本代表のOG小室希（こむろのぞみ）選手（仙台大学客員研究員／平成23年仙台大学大学院修了－平成20年体育学科卒－宮城・白石女子高校出身）、同男子スケルトン日本代表のOB高橋弘篤（たかはしひろあつ）選手（システックス／平成19年体育学科卒－宮城・富谷高校出身）が功績賞を受賞しました。

表彰式では、受賞者を代表して、本学の加藤由希子選手（同）が「今年の3月で、東日本大震災から4年が経ちます。私も気仙沼市出身で被災をし、地元の方々に喜びを届けたいという強い思いが後押ししてくれました。生まれながら障がいを抱え、トレーニング方法など試行錯誤を繰り返しながらではありますが、精一杯頑張って参りました。この度の賞は、多くの方のご支援・ご指導のお力添えにより頂戴致しました」と感謝と御礼の言葉を述べました。

仙台大学大学院スポーツ科学研究科「修士論文・リサーチペーパー」発表会を開催

発表会の様子（写真：発表者・佐藤由佳さん）
＝仙台大学E301教室

2月13日（金）、本学大学院研究棟E301教室で、仙台大学大学院スポーツ科学研究科の平成26年度「第16回修士論文・第4回リサーチペーパー発表会」が開催されました。

最初に、若井彌一副学長より「限られた時間の中で、自分の目指してきたものが何だったのか。苦労したこと・悩みながら進めたこと・力を注いだことなどについても触れて頂ければ有難い。充実した発表会になるよう期待したい」と挨拶され、発表が開始されました。

続けて、修士論文19名・リサーチペーパー4名、計23名の発表（発表時間は、15分／1人＜発表10分、質疑応答4分、入替1分＞）がありました。発表者たちは、真剣な表情で発表に挑み「東日本大震災後の総合型地域スポーツクラブの変容」や「日中太極拳愛好者の現状に関する研究」、「ハンドボールにおけるディスタンスシュートのシュート分析」などの各23の演題について、事前に準備したパワーポイントで研究の成果を示しながら発表しました。また、発表後の質疑応答でも活発な議論が交わされました。

発表会の最後に藤井久雄大学院研究科長から「自分の研究内容を理解していない人たちに意義や価値を知らしめることは重要なこと。修士論文やリサーチペーパーで努力した経験を生かし、活躍の場を広げてほしい」とエールが送られ、発表会が締めくくられました。

本学から海外へ留学する学生２名が学長に挨拶

石澤さんと石橋さんを囲む大学関係者＝学長室

2月17日（火）、デンマーク・ノアフュンス国民大学に1年間留学する石澤佑奈（いしざわゆな）さん（運動栄養学科2年―宮城･名取高校出身）【左から３番目】と中国・上海体育学院に4年間国費留学する石橋広育（いしばしこうき）さん（体育学科4年―栃木･作新学院高校出身）【右から３番目】が、本学国際交流センター長の高橋まゆみ教授【右から２番目】、事業戦略室の渡邊一郎室長【右端】、大学院事務室の馬冬梅職員【左端】と共に学長室を訪れ、阿部学長に出発前の挨拶と留学に向けての抱負などを話しました。

管理栄養士を目指している石澤さんは「“世界一幸せな国”と言われているデンマークで、語学を学びながら、先進的な福祉制度や幸福大国の食文化などを学び、海外でも活躍できる人材になりたいです」。体育教師を目指している石橋さんは「体育科教育か運動生理の日中比較研究を試みたいと思っています。2020年東京オリンピック・パラリンピックで、中国人選手の通訳者として、オリンピックに携わることも目標です」と話しました。

仙台大学は、スポーツ科学を中心とした分野で、中国や台湾、韓国、フィンランド、ドイツ、デンマーク、アメリカ、タイ、ベトナム、パラオ、ベラルーシといった数々の海外の大学等と交流し、学生に豊かな学びの機会を提供しています。国際感覚を身に付け、国境を越えて人々をつないでいく人材を育てていきたいと考えています。

「平成26年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式」を開催

大河原町の齋教育長から感謝状を受け取る小林さん（右）＝仙台大学

2月23日（月）、本学第五体育館大教室で「平成26年度学校支援ボランティア感謝状贈呈式」が開催されました。小・中学校での学習支援や部活動支援、特別支援学校での障害児活動支援などを行なった本学学生全員の名前が読み上げられ、仙台市・柴田町・大河原町・岩沼市・大崎市・名取市・角田市の各教育委員会の担当者から学生一人ひとりに感謝状が手渡されました。

感謝状贈呈式で名取市教育委員会の瀧澤信雄教育長は「仙台大学さんには震災直後でご苦労がある中、体育施設を借用させて頂いたり、貴学の荒井龍弥教授に名取市立みどり台中学校校長として３年間出向して頂いたりと、これまで大変お世話になりました。学生ボランティアの皆さんは、子どもたちのために積極的に取り組んでくれて本当に助かっています」。大河原町教育委員会の齋一志教育長は「教育現場は猫の手も借りたいほどです。学校教育には様々な課題がありますが、その中でも学力向上が一番重要視されています。仙台大学の学校支援ボランティアの学生さんには、子どもたちの学力向上のきっかけをつくってもらいました」と感謝の言葉が述べられました。

学校支援ボランティア学生を代表して、小林弘樹（こばやしひろき）さん（健康福祉学科4年―群馬･東京農業大学第二高校出身）が「学校支援ボランティアの活動を通して、自分自身が成長していったように感じています。学校現場でのたくさんの経験を生かし、子どもたちの気持ちの分かる教師になりたいです」と力強く挨拶を述べました。

なお、今年度は、仙台市74名・柴田町21名・大河原町12名・岩沼市26名・大崎市2名・名取市41名・角田市13名の計189名の学生が感謝状授与者となっております。

平成26年度ハワイスクーリング・アスレティックトレーニング研修ビギナーコース（20回目）

研修の開講式

開講式後の集合写真

大庭有希也先生（ハワイ大学助教・PhD・NATA-ATC）の講義

ハワイ大学アスレティックトレーニングルームの見学

テーピングの講習

マッキンリー高校アスレティックトレーニングルームの見学

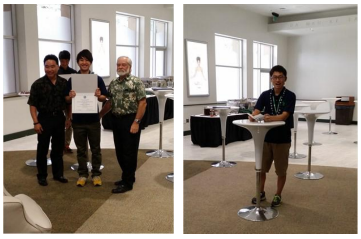
ハワイ大学ウエイトトレーニングルームにて体験

ハワイ大学ストレングス&コンディショニングスタッフと

バスケットボール選手用アスレティックトレーニングルーム

試合前の準備を手伝う学生

修了式後の集合写真



修了証の授与とスピーチの様子

平成27年2月8日（日）より2月15日（日）にかけて、平成26年度ハワイスクーリング・アスレティックトレーニング研修ビギナーコースが実施された。本研修は、平成15年12月にスタートしたもので、毎年9月に行われるアドバンスコースと合わせ、今回で20回目の節目となる実施であったが、ハワイ大学マノア校教育学部キネシオロジー&リハビリテーション科学学科(KRS)との国際学術交流に関する基本合意書の締結（平成26年9月にハワイ大学において締結）後、初めての研修となった。

今回の研修は、体育学科2年生の矢田部瑛（やたべあきら）さん、杉澤愛美（すぎさわめぐみ）さん、蜷川七海（にながわななみ）さん、内村悠（うちむらゆう）さん、同1年生の管野絵理（かんのえり）さん、佐藤章人（さとうあきひと）さん、畠山裕華（はたけやまゆか）さん、健康福祉学科2年生の荒川英隆（あらかわひでたか）さん、榎戸（えのと）ひなさん、運動栄養学科2年生の中野（なかの）まゆかさん、合計10名の学生が参加した。引率は、仲野隆士体育学科長を団長とし、村上憲治准教授、山口貴久講師、白幡恭子新助手、大垣亮新助手、佐藤美保広報室長が行った。

研修では、ハワイ大学マノア校のキャンパスや体育施設の見学、留学生支援室の訪問、英会話の授業、アスレティックトレーニングルームの見学、アスレティックトレーナーの活動見学を中心に進められた。男子バスケットボールの試合前には、水分補給の準備の手伝いや、アスレティックトレーニングルームでのテーピングを真近で目にするなど、貴重な体験ができた。学生リーダーの蜷川七海さん（体操競技部）は、「アメリカの大学は、施設が非常に充実していて刺激を受けた」と目を輝かせていた。ハワイ大学以外にも，遠隔授業講師である金岡友樹氏が勤務するマッキンリー高校のアスレティックトレーニングルームを訪問する機会も設けて頂き、また、専門分野の研修に加えて、ハワイ州庁・イオラニ宮殿・フラダンスショーの見学やダイヤモンドヘッド登山などを行い、ハワイ文化にも触れることができ、内容に富んだ研修であったと思われる。

研修の修了式では、KRSの先生方や現地のアスレティックトレーナーの方々の前で、学生が英語でスピーチを行い、意欲的に英会話に取り組む姿勢がみられた。今年9月には、アドバンスコースが実施される予定である。今後も多くの学生が参加して、世界へ羽ばたく留学への第一歩となることが期待される。

金岡氏が実際にＡＴＣとして高校生をどのようにケアするのか？を学んだ。

＜報告：新助手　大垣亮＞

平成26年度学生相談室主催研修会「不登校が学校教育に問いかける意味（もの）」

平成26年度学生相談室主催研修会が平成27年2月17日（火）13時30分から約2時間にわたりF303教室で開催されました。大阪市立大学名誉教授・大阪樟蔭女子大学名誉教授・鳴門教育大学特任教授の森田洋司先生を招き、教職員と教職を目指す学生あわせて約40名が聴講しました。

森田先生は、いじめ・不登校などの青少年問題や教育問題を通し、現代社会の病理現象を研究なさっています。また、文部科学省の「不登校に関する調査研究協力者会議」の座長を務められています。今回の研修では、不登校はきっかけ探しよりも、学生の対処する「力」を育てていくことが大切であること。不登校は誰でもなる可能性を持っており、本格的な不登校になる前の「3日休み」の段階で教員からの連絡や「7日休み」で対応を開始すること。

また、つらいことがあっても学校に通う理由となる「教員」「友人」「部活」「居場所」といった、社会的絆(social bond)を増やしていくことの大切さについて熱弁を振るわれました。

また、不登校は「熟成」の期間でもあり、乗り越えた人が持つ危機対応への能力は、不登校を経験していない同年代よりも素晴らしいものであることが紹介されました。

質疑応答の時間も設けられ、「機能不全家族の社会の繋がり方の難しさがある」との教員の質問に対し、「成績に関わらないSCや養護教諭が社会資源の入り口になる大切さ」と、「約束が裏切られ続けても関わり続けることを、教職員全体が共通理解として持つことの大切さ」を指摘されました。

最後に、日本の社会は95点を取ったら、100点を取れないことを指摘する減点社会。そうではなく、いつも0点を取っている人が5点取れたことを評価する加点社会になっていくこと、その生徒の良いところを見つければ、生徒が伸びていくとのお話しがありました。重くなりがちな不登校の話題を軽快な語り口で講演して頂き、教職員や教職をめざす学生にとって有意義な学びの場となりました。

＜報告：学生相談室　石澤和子＞

平成27年仙台大学同窓会沖縄支部総会

1月24日（土）に那覇市新都心で開催した「仙台大学同窓会沖縄支部総会及び新年会」には、仙台大学の阿部芳吉学長・仙台大学同窓会の鈴木省三会長・仙台大学同窓会の大河原則夫事務局長のご臨席を賜りました。

10数年ぶりの総会でしたが、遠くは離島の石垣島や宮古島、本島北部など遠方からの参加者も多く、３５名の同窓生が駆けつけてくれました。また、部活動や学校行事等で参加できないと残念がっている同窓生もおり、まさに平成27年スタートにふさわし盛大な総会及び新年会になりました。同窓会総会や臨時総会での同窓会法人化に向けた大学側の取り組みや理由等の説明があり、学生を救う動きなど、沖縄に居ては入ってこない情報等が聞け、大学側の学生を思う取り組みに皆、より一層仙台大学同窓であることを誇りと思い感激していました。

ここ数年、仙台大学出身者の教員採用試験合格者が続いております。少しずつではありますが、確実に沖縄県の学校現場に船岡の地で学生時代を過ごした仲間が増えていることを皆で共有できた喜びは格別でした。多くの仲間と語らい、今後はより一層、先輩・同輩・後輩の絆が深まるのを実感しつつ、極めて有意義なひと時を過ごすことができました。

母校仙台大学の益々のご発展とご隆盛を心より感謝申し上げます。

＜報告：仙台大学同窓会沖縄県支部長
真玉橋（まだんばし）　克彦（かつひこ）（平成3年体育学科卒）＞

「できる楽しさ」の再発見－平成26年度「スケート実習（盛岡）」

平成26年度の「スケート実習」が、岩手県盛岡市の「岩手県営スケート場」にて2月16日から19日の3泊4日の日程で実施された。

今年度のスケート実習は履修登録者の増加に伴って、夏1回、冬3回に分散して行われ、今回の盛岡実習には101名が参加し、フィギュアスケート6班、スピードスケート1班、アイスホッケー4班の3部門に分かれて実習に取り組んだ。フィギュアとスピード部門には現地のベテランスタッフ（岩手県スケート連盟普及部）の方々と補助学生が各班ごとに指導にあたり、アイスホッケー部門は引率教員と補助学生が指導にあたった。

初日から晴天となり気温も暖かかったため、屋外であるリンクの氷が溶けだし危険な状況もあったが、二日目以降は雪や小雨が降ったりしたものの、冷却をフル稼働させたこともあり大きな問題なく滑走できた。全日程で好条件とは言えないコンディションではあったが、学生は体育大生らしく「うまくなる」をスローガンに積極的に取り組んでいて、目覚しい上達ぶりが印象的であった。

参加学生の大半がスケート初心者で、最初は氷の上に立っていることすらやっとの状態の学生も多かったものの、次々と課題をこなしていくことで徐々にコツをつかみどんどんと上達していった。全く馴染めずに途方にくれていた学生も、指導スタッフや補助学生のマンツーマンの指導とその熱意に勇気付けられて所定の課題をクリアすることができた。

実習後にはすばらしい温泉が待っていて、夜だけでなく朝食前に朝風呂を楽しんでいた学生もちらほら。最終日前の夜は筆記テストを終えた後にスタンツ大会で、学年、学科の枠を超えて大いに盛り上がった。最終日には実技試験を兼ねたバッジテストが行われ、フィギュア部門は全員、その他の部門でも希望した実習生全員がC級バッジテストに合格し、資格を取得することができた。さらに今回は補助学生もB級試験に受験者全員が合格した。他にも、記録会、マッチと3日間の成果を存分に発揮して実習全てが終了した。締めくくりは、帰路での昼食わんこそば決戦で、特に女子の食べっぷりは今後の競技での活躍を期待させるほど豪快で、大いに大盛り上がった。

このスケート実習は補助学生にとってはコーチング理論の実践の場にもなっていて、教育実習と同様に、実際に指導することの難しさを実感し貴重な経験を積むことが出来たようです。実は彼らは１年前に「うまくなる楽しさ」をはじめて味わった実習生だったそうで、この実習をきっかけに本格的にスケートに取り組み始め、見本が披露できるというだけでなく、「できそうもない」感覚を持つ学生の良き理解者として強力な手助けとなっていました。

３月には仙台でアイスホッケーコースの最後の実習もあり、毎年、新たな企画にチャレンジするための準備は大変なものの、反省会で出た改善点などを検討し、今後益々良い実習になるよう努力していきたいと思います。

＜記事・写真：川口鉄二教授、
濱田裕二新助手提供＞

全日本スケルトン選手権初優勝のOB笹原友希選手が来校

全日本スケルトン選手権の表彰式の様子＝長野市スパイラル
※写真中央：OB笹原選手

2月18日（水）、昨年12月に行なわれた「全日本スケルトン選手権」で初優勝を飾ったソチ五輪日本代表のOB笹原友希（ささはらゆうき）選手（平成19年運動栄養学科卒―秋田中央高校出身）が、広報室を訪れました。

笹原選手に、初優勝の心境や今後の課題、抱負などについてお話を伺いました。

初優勝の心境は―

スケルトン歴１１年目で、初のタイトルを獲得しました。今までは、勝ちたい気持ちが空回りしていました。今回、長野市スパイラルのコースレコードも大幅に更新することもでき、とても嬉しい気持ちです。

原動力は―

ソチオリンピックで結果を残せなかった、自分の力を最大限に発揮できなかった悔しさが、スケルトン人生を送る上での原動力になっています。

課題は―

今までは、メンタル面が大きな課題となっていました。今回、全日本で初優勝して、メンタル面は克服できたと感じています。今後は、プッシュタイムを伸ばし、世界との差を縮めて、世界と戦える選手になりたいです。

今後の抱負は―

次の平昌オリンピックでは入賞（８位）が目標です。来年のワールドカップ（全８戦）では、年間総合ランキングでＴＯＰ１０入りを目標に掲げ、日々練習に励んでいきたいと思います。

さらなる飛躍を誓う／平成26年度柴田町スポーツ賞表彰式

学生達の受賞を祝福する阿部学長（中央）
＝槻木生涯学習センター（柴田町）

2月27日（金）、平成26年1月～12月までの間にスポーツで顕著な成績を挙げた個人及び団体を表彰する「平成26年度柴田町スポーツ賞表彰式」が柴田町の槻木生涯学習センターで開催されました。

本学関係者からは、女子フロアボール部・漕艇部・体操競技部・男子サッカー部の4団体と12個人（硬式野球1名・陸上競技1名・フロアボール3名・漕艇2名・ボブスレー1名・スケルトン1名・柔道2名・体操競技1名）が受賞しました。また、同表彰式には、本学の阿部芳吉学長も来賓として出席しました。

柴田町スポーツ功績賞を受賞したボブスレー・リュージュ・スケルトン部の黒岩俊喜（くろいわとしき）主将（ソチオリンピックボブスレー男子4人乗り26位／運動栄養学科3年―神奈川・橘高校出身）は、「今回の受賞を糧にし、さらに心・技・体を磨き、人間的にも成長していきたいです。少しでも気を抜いたら次のオリンピック出場はできないと思います。シーズンオフになりますが、大事な時期なので、トレーニングに励み、しっかり身体を鍛え上げたいです」。柴田町スポーツ奨励賞を受賞した女子柔道部の工藤千佳（くどうちか）主将（全日本学生柔道体重別選手権大会女子57kg級第3位／現代武道学科3年―青森・五所川原農林高校出身）は、「この賞を励みに、また明日から頑張っていきたいと思います。今年は大学生活最後の年です。悲願の団体戦大学日本一と個人戦3位以上を目指します。何事にも逃げずに、諦めずに頑張って挑戦していきたいです」と力強く話し、今後のさらなる飛躍を誓いました。

羽ばたけ！社会の安全・安心を担う社会人よ！
～初めての卒業生を送り出す“現代武道学科”～

今年3月の卒業式で初めての卒業生が現代武道学科に誕生する。その総勢は30数名余。彼らは、教員として、警察官として、国を守る自衛官幹部として、全国展開する警備会社の基幹的な職員として、また、学んだ武道をベースに多彩な職業人として、社会に新たな一歩を踏み出す。

現代武道学科は4年前に本学に新設されて以来、文字通り、文武両道を目指し、学生・教員が一体となって、学業に、剣道・柔道・各種スポーツ・その他サークル活動に取り組んできた。この一体的取り組みを、現代武道学科では“チーム現代武道”と呼んだ。

（1）“チーム現代武道”…揃った多彩な顔ぶれの教員

まず、多彩な教員の顔触れが揃った。剣道界最高段位をもつ剣道八段の齋藤学科長、オリンピックでメダル獲得を！という重責を担う全日本女子柔道チームの南條充寿監督、全日本柔道選手権への東北代表として活躍する仲田助教、警察の世界で名を轟かす制圧術の第一人者伊藤教授、トップアスリートとしての挫折を経験に実践的なスポーツ心理学を教授する菊地准教授などの武道系・スポーツ科学系の教員に加え、社会の安全・安心の確保を担う警察の第一線での実務経験を有する飯塚教授、警備業関係研究の第一人者の田中講師、元高等学校校長経験を有する教職の太田教授、国際的に活躍したジャーナリストの高成田教授、日本国憲法の加藤教授、元東北大学教授の佐藤滋教授、そして中央の行政や国連機関での政策立案経験をもつ私などの経歴・職歴を有する教員がタッグを組んで本学科での新しい課題に取り組んだ。

但し、その道のりは平坦なものではない。試行錯誤の連続であった。

（2）二つの明確な目標を掲げての船出…「武道の指導者」と「社会の安全・安心を担う人材」の養成

現代武道学科は、極めて明確な卒業後の目標を持って出発した。それは、二つである。まずは、新たに剣道や柔道等の武道が中学校で必修になったことから、これらを担当できる体育教員を育て輩出することである。勿論これには市井における武道の指導者の養成も含まれた。

次は、武道を学び、その応用展開としての制圧術等を修得し、更には、これらの実技の体得を踏まえ社会の安全・安心の方策を学ぶことである。そして、警察官、消防士、刑務官や自衛隊の基幹的隊員、警備業で基幹的な役割を担う人材といった、いわば、“社会の安全・安心を担う者”としての道を追求することである。

（3）4年先を見据え！先ず、全員で取り組んだ基礎学力固め

入学試験を終えて入学した学生がまず直面したのは、アッと驚くテストであった。それは、プレスメント・テストという学科独自の英数国の3科目の試験である。これで学科の学生は、まず、将来、社会人になるために必要な学力のチェックを受け、また、大学での講義を受けるに当たり、基礎学力がきちんと身に付いているかを厳しく点検された。そして、その後、ゆとり教育の弊害を克服すべく、リメディアル教育がキャリアプランニング関係科目の中で展開された。

学習会の様子

これはその後、学科独自の学習会に引き継がれ、3年次から本格化する教員試験の準備や公務員試験・民間の入社試験のための教養試験への対応のベースともなった。それだけにとどまらない。4年生になって卒業論文の作成が必須だが、その際の考え方や論理構成、文章の記述の仕方などの修得の基礎づくりにも役立ったとする学生も多い。

（4）4年間、みっちり取り組んだ武道の稽古、そして、楽しかった海外武道実習

“武道”修得の面での活動も顕著である。入学する学生には、剣道や柔道の経験を不問に付した。但し、4年間にみっちり武道に習熟する道を準備した。それは、剣道、柔道、空手道、合気道の修得を必修とし、体力と技を身に付けさせるのみならず、武道の稽古は「身体の内側を

見つめ、危機の感知能力、気の感応力を養う修練の道」であることを体で学んでもらうこととした。

また、海外の武道として、テコンドー、太極拳、中国武術などを学ぶことや韓国で行う海外武道実習にも力を入れた。これは本学科の学生にとって異なる社会習慣・文化を背景とする武道に触れることを通じ、広い世界を見つめるよき契機ともなった。更に、その過程で隣国の学生と強い絆をも築く機会を齎した。

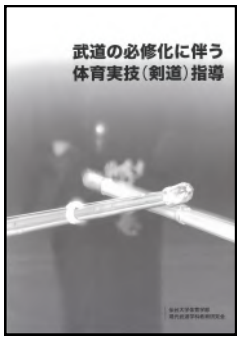
応用武道実技Ⅰ

海外武道実習（韓国･龍仁大学）

中国武術

韓国伝統武道（テコンドー）

（5）新しい羅針盤…本学科独自のテキストでの講義の展開



現代武道学科の学問領域には、これまでの体育・スポーツ健康科学の領域の大学教育では必ずしもカバーされていない分野も多く含まれていた。従って、学科誕生後の４年の間で、学科独自のテキスト作りに力が注がれた。それは、伊藤重孝教授の『安全安心の礎』（2012.4現代武道学科教育研究会）、齋藤浩二教授の『武道の必修化に伴う体育実技（剣道）指導』（2013.3現代武道学科教育研究会）及び遠藤保雄・荒木二郎・森惣一・田中智仁の4先生の講義録『社会の安全・安心概論』（2014.8仙台大学体育学部現代武道学科）という形で結実した。これらのテキストは、学生にとり本学科での講義内容の理解を深めていく上で、一つの新しい羅針盤となっている。

（6）新学科発足直後、直面した3.11東日本大震災…その被災に負けず・めげず！

顧みれば、本学科に入学した学生にとっての初年度は、「3.11東日本大震災」という未曾有の大災害からの復旧への戦いに始まった。学生の多くは復旧に向けボランティア支援に立ち上がった。但し、ある学生は自分自身の家が被災し途方に暮れた。

その中の一人の薬師神さんは宮古の実家が津波で流され、今後どう学生生活を送っていくべきかという困難に直面した。その時、彼女を強く支えてくれたのは予期せぬ支援であった。それは遠い異国から差し伸べられた温かい支援の手である。ミラノ近くで道場を開くイタリア人の柔道家が、途方に暮れる彼女に「あなたにとっては柔道という大きな財産があるではないか」とヨーロッパでの柔道の修業に招いてくれた。以来、3度にわたりイタリアで修業を積んだ。卒業を控えた今、彼女は言う。「イタリアに渡り柔道をすることで、イタリア人が重視している“日本古来の柔道の精神”を改めて見つめ直した。…卒業後も働きながら実業団クラブで柔道を行う決意を固めるきっかけになった」

（7）多方面に雄飛する卒業生…真剣に向き合ってくれた教員とのぶつかり稽古

そして、2015年3月、2011年に入学した本学科30名余の学生は一期生として卒業を迎える。卒業生の進む先は多様だ。宮城県警、神奈川県警、千葉県警、警視庁などの警察官として7名、自衛官4名、刑務官1名、小学校教諭1名、セコム、アルソック、全日警、セノンなどの警備企業へ11名、一般企業3名などがこれに含まれる。この数は就職希望者の96.4%に上る。このように高い就職実績を挙げているのは、チーム現代武道の教員が各専門分野を担当し教育課程外で学習講座を継続的に開講し、特に、警察官OB の飯塚先生を中心にして専門性をもった指導体制が実を結んだものだ。

新卒業生は、真剣に向きあってくれた教員の胸を叩き・ぶつかり稽古で学んだ。

（8）厳しい前途…教員への道！教職に27年度再挑戦する新卒業生よ！頑張れ！

一方、卒業を心から祝える形で迎えられる学生ばかりではない。教員試験に挑戦し一次試験は合格したが、二次試験で合格できず、中学校で保健体育の講師をしながら、27年度に再挑戦する新卒業生だ。そこには厳しい前途が待ち受けているだろうが、一度決めた道…。彼らにとっては、この4月から教育現場で実践的経験を積みながら、決めた道の実現に向けた努力が始まる。彼らに対しては、本学科の期待の星として、今後とも、陰に陽に何らかの形でチーム現代武道は支援していくことを誓っている。

羽ばたけ！現代武道学科卒業一期生…。社会の安全・安心を担う社会人として！

＜寄　　稿：現代武道学科教授　遠藤保雄＞
（写真提供：現代武道学科ＧＭ　中鉢芳尚）

Sports For All
～ スポーツは健康な人のためだけでなく、すべての人に ～

SENDAI UNIV.
PUBLIC RELATIONS

Vol.107／ 2015 March
（月1回発行）

仙台大学 広報室

Monthly Report

TOKYO2020に被災地の視点を届けよう！ 2015国際スポーツ情報カンファレンス開催

2015国際スポーツ情報カンファレンスの様子＝河北新報社

TOKYOオリンピック・パラリンピックまであと5年。被災からの復興が大きなテーマとなっている両大会に向け被災地の視点を考えようと、3月15日（日）に河北新報社ホール　（仙台市青葉区）で「2015国際スポーツ情報カンファレンス」（仙台大学主催）が開催されました。会場にはTOKYO2020組織委員会、日本スポーツ振興センター、大学関係者、行政関係者、ボランティアグループなど多数の方が参加し、被災地の「何を」オリンピック・パラリンピックに繋げるか報告と話し合いが行われました。

はじめに組織委員会戦略広報課長の高谷正哲氏から、現在の準備状況や被災地との関わりについて被災地に残せるものがないか現地を訪れ考えていると報告がありました。

また、日本スポーツ振興センター スポーツ開発事業推進部長の勝田隆氏は、スポーツ界で問題となっているIntegrity（健全性・高潔性）は、まさに震災で被害を受けた被災者が示した日本人ならではの礼儀正しさの中にあると話し、秩序ある大会運営が世界に示すものは大きいと力説しました。

被災地である石巻市体育協会会長の伊藤和男氏は、被災地には大勢のオリンピアンが励ましに訪れてくれた、聖火台の貸与も受けた。オリンピック・パラリンピックではスポーツの力と価値を伝えていきたい。復興マラソンも計画中であると報告しました。

【２面に続く】

＜　目　次　＞

TOKYO2020に被災地の視点を届けよう！2015国際スポーツ情報カンファレンス開催	1
606名が社会に巣立つ―仙台大学卒業式・大学院修了式	2
樹氷を溶かすほどの熱気の中、平成26年度スキー実習が無事終了！	3
平成26年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校日米スポーツ科学事情比較セミナー	5
本学のPR看板広告―JR仙台駅2階のクイックビジョンがリニューアル	7
学生の競技結果等	8

学生の活躍や、取組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも旬な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室
TEL　0224-55-1802
FAX　0224-57-2769
Email:kouhou@sendai-u.ac.jp

最後に登壇したシドニーオリンピック100m背泳銀メダリストの中村真衣氏は、自身が体験した中越地震とアスリートの想い、アメリカ留学中の社会貢献とアスリートの関係を熱く語りました。

最後に4人が一堂に登壇し、本学の粟木一博教授のコーディネートで、TOKYO2020と震災復興・被災地の視点を討論しました。

TOKYO2020には「被災地からオリンピアンを輩出したい」など数々の提案が出ましたが、本学の専門教養演習でオリンピックを取り上げた学生から「オリンピック選手を被災地に招き、災害と復興を学ぶCEP（文化教育プログラム）を実施して帰国は仙台空港からではどうだろうか」「ハンマー投げ選手に被災地の浜辺でフォームが似ている投網の世界選手権を行っては」との提案がなされ、これを即座に高谷氏がTwitterで投げかけたところ室伏広治選手から「これは復興に向けて面白そうな企画ですね！ハンマー投げても何も獲得できないけど、投網なら一網打尽で魚取れますね。」との返信がカンファレンス開催中に届きました。

TOKYO2020まであと5年。今後も東北・北海道唯一の体育系大学である仙台大学が果たすべき役割を考え、スポーツが震災復興に繋がる取り組みを考えて参ります。

＜報　告：仙台大学スポーツ情報マスメディア研究会 溝上拓志＞

＜仙台大生の提案による高谷氏と室伏選手とのTwitterでのやり取り＞

606名が社会に巣立つ―仙台大学卒業式・大学院修了式

阿部学長から「学位記」を受け取る大学院総代の玉﨑千尋さん
＝仙台大学第五体育館

3月14日（土）、本学第五体育館で「平成26年度 仙台大学卒業式・大学院修了式」（第45回体育学部「卒業証書・学位記」授与式並びに第16回大学院「学位記」授与式）が挙行されました。体育学部582名（体育学科343名・健康福祉学科96名・運動栄養学科70名・スポーツ情報マスメディア学科36名・現代武道学科37名）及び台湾の台東大学との国際交流提携に基づく3回目のダブルディグリー制1名、並びに大学院スポーツ科学研究科23名のあわせて606名が所定の課程を修了し、「卒業証書・学位記」が授与され、社会に巣立ちました。

開式に先立ち、発生から4年となった「東日本大震災」で犠牲になった3名の学生、親族の方々、そして多くの方々のご冥福をお祈りし、会場内の方全員で黙とうを捧げました。

また、スポーツ競技や文化活動等において、特に顕著な功績を挙げた方を表彰する「平成26年度学生表彰式」も併せて行なわれ、「仙台大学学長賞」はビーチバレーボール部の狩野僚太（かのうりょうた）さん（体育学科4年－宮城・東北工業大学高校出身）他が、「日本介護福祉士養成施設協会会長賞」は花角貴和子（はなずみきわこ）さん（健康福祉学科4年－仙台西高校出身）が、「全国栄養士養成施設協会理事長賞」は一郷和歌（いちごうわか）さん（運動栄養学科4年－岩手・久慈高校出身）が受賞し、それぞれ阿部芳吉学長から賞状を授与されました。

式終了後には、謝恩会が行なわれ、卒業生と教職員・卒業生同士で思い出話に花を咲かせたり、記念撮影を行なうなど、別れを惜しみながら楽しいひとときを過ごしました。

樹氷を溶かすほどの熱気の中、平成26年度スキー実習が無事終了！

平成26年度「スキー実習Ⅰ」が、山形県蔵王温泉スキー場にて行われた。第一団は2月22日～25日、第二団は2月25日～2月28日、それぞれ3泊4日の日程で実施された。実習生は、8名から11名の男女・学科・部活混成班に振り分けられ総計354名（一団18班編成175名、二団18班編成179名）の参加となった。スキー滑走ではスキーの基礎技術と理論の習得、宿舎においては、集団生活における秩序と規律ある態度を身につけることを目的とした。スキーの指導は本学教員6名、インストラクター13名、TA1名、補助学生18名が指導にあたった。

実習は当初、天候面の不安もあったが、期間中は大きく崩れることなく、安全に行うことができた。今回の実習は、過去最多の人数の中行われたこともあり、スキー技術のレベルに差があり、実習開始初日は第一団、二団ともに約半数のグループがスキー板を着けて歩く等の基本的な動きに重点を置き実習を進めていた。しかしながら、二日目以降はみるみる上達を遂げ、あっという間に基本的な滑走技術を身に付け、最終日のデモンストレーションでは、各班が趣向を凝らし、見事な集団滑走を披露してくれた。特に、デモンストレーションの最後の決めポーズがうまくいった班の達成感に満ちた顔は、実習を運営する立場の教員として、大変嬉しいものであった。

最後に、これだけの大人数の実習でありながら、大きな事故なく実習を終えることができたのは、入念な準備と、指導にあたっていただいた教員、インストラクター、滞在期間中にお世話していただいた宿泊施設の関係者の皆様のおかげである。この場を借りて御礼を申し上げるとともに、本実習の報告としたい。

＜報　告：助教　桑原康平＞

仙台大学健康づくり運動サポーター事業　大学・地域評価会を開催

平成27年3月2日（月）に、柴田町・亘理町の行政担当者や参加者の代表者をお招きして、大学・地域評価会を開催しました。この評価会は、柴田町やその他近隣市町村の健康づくりに関する連携事業について、1年間の事業の実施状況や内容、派遣している健康づくり運動サポーター（以下、健サポ　※）の様子などについて振り返ることを目的として、毎年実施しています。

今回は本学の阿部学長を議長とし、橋本教授から平成26年度の事業報告及び健サポの資格認定状況について報告されました。

参加者の代表より、「来てくれる学生の印象はとてもよく、今後も多くの学生に来てもらいたい」と声をいただきました。また、柴田町の行政担当者より「健サポ上級の取得者数が減少傾向にあるため、多くの学生に上級をとってもらいたい」というご意見もいただきました。参加した健サポ上級の大山諒（おおやまあきら）さん（健康福祉学科4年）は「行政区のイベントを企画・運営させていただき、皆さんの協力により無事に成功させることができた。この経験をこれからの人生に活かしたい」と感想を述べました。

学生たちの実学の場として、本事業は非常に価値の高いものだと感じています。今後も多くの健サポを養成し、授業では身に付けることのできない実践力のある学生を輩出していきたいです。

＜報　告：新助手　齋藤まり＞

※本学独自の認定資格である健サポは、地域の健康づくりに貢献できる人材を育成することを目的とし、平成19年の養成開始から初級336名、中級57名、上級20名の述べ413名の健サポを輩出しています。

健康寿命100歳を目指す介護予防の運動教室を開催

つま先立ち運動を行なう様子＝仙台大学

3月12日（水）、本学第四体育館１階演習室で、平成26年度柴田町特定高齢者介護予防事業「健康寿命１００歳を目指す介護予防運動教室」（平成27年1月8日（木）～3月12日（木）毎週木曜日全10回）の最終回が開催され、柴田町船岡地区在住の65歳～91歳までの男女9名がご参加下さいました。同事業は、柴田町からの委託事業に対し、柴田町社会福祉協議会と仙台大学が運営協力を行なっています。同運動教室は、介護予防の取組みとして運動プログラムを提供し、運動器の機能向上を図り、いつまでも元気で日常生活が送れるようにすることを目的としています。

この日は、参加者の皆様の運動前の健康チェック（体調の聞き取り・血圧測定）を行なった後、本学の阿部芳吉学長が「一番最初の教室と比べて自分の体力がどのくらい伸びたか、伸びたところはさらに伸ばし、伸びなかった体力は考えて伸ばしていきましょう。学生と一緒になって、笑顔で最後の運動教室を楽しんでほしい」と挨拶されました。

同運動教室では、本学の吉田享平（よしだきょうへい）さん（体育学科3年－宮城･名取高校出身）が、これまでの体力測定＜開眼片脚立ち・5m歩行・Timed up & Go（複合的動作能力）＞の説明を行ない、本学の柳澤麻里子新助手が「仙台大学方式トレーニング」の運動指導を担当。参加者の皆様は、健康づくり運動サポーターの資格取得を目指す本学の学生らと一緒に、後出しじゃんけんで頭の体操をしたり、足踏みやつま先立ち運動をしたり、椅子に座って脚の曲げ伸ばし運動をしたりするなどして楽しく運動を行ないました。

将来、養護教諭を目指している山家紹（やんべあき）さん（健康福祉学科1年－宮城・白石高校出身）は「地元の方々との交流は、普通の大学生活では決して得られない貴重なものです。人前で話す力・コミュニケーション能力・会話力などを身に付けていきたいです」と意欲的に話しました。

平成26年度仙台大学学生表彰式

阿部学長からスポーツ功労賞の賞状を受け取る男子サッカー部の児玉昇主将
＝仙台大学KMCH大会議室

3月2日（月）、本学「鹿島メモリアルクラブハウス（通称：KMCH）大会議室」で「平成26年度仙台大学学生表彰式」が行なわれ、女子柔道部・硬式野球部・漕艇部・男子サッカー部・ビーチバレーボール部の5団体及び9名（硬式野球部1名・体操競技部1名・女子柔道部5名・陸上競技部1名・女子フロアボール部1名）がスポーツ功労賞を受賞しました。

阿部学長からは「基本的なことをしっかり練習し、色々なことを考えることのできる、様々な場面でも柔軟に対応できる選手になって下さい。人間性を磨き、常に感謝の気持ちを忘れず日々精進して下さい」と学生たちのさらなる飛躍に向けて、激励の言葉が述べられました。

同受賞式終了後、スポーツ功労賞（団体）を受賞した男子サッカー部の石川隆太副主将（体育学科3年－栃木ＳＣユース出身）は「インカレでベスト８に入ったが、自分は明治大戦の前半しか出場機会がなかった。悔しい気持ちの方が大きい。今年は昨年以上の成績を残せるように燃えている」と話し、闘志をみなぎらせていました。

来年度も大いに活躍が期待される本学の学生たちに、温かいご声援をよろしくお願い致します。

平成26年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校日米スポーツ科学事情比較セミナー

2015年2月15日～3月2日（現地研修期間：2月16日～2月28日）に平成26年度カリフォルニア州立大学ロングビーチ校における短期研修「日米スポーツ科学事情比較セミナー」が実施されました。参加者は体育学科より加藤稔樹（3年）、杉山瑠惟（3年）、佐藤鈴香（2年）、相馬健佑（2年）、津田玲奈（2年）の5名、そして運動栄養学科からも同じく5名で三浦貴哉（3年）、小野寺史益（1年）、菅野祐未（1年）、小島萌里（1年）、堀内くるみ（1年）の計10名という構成でした。教職員引率者は全日程に石森靖明氏（事業戦略室）と弓田恵里香、そして2週目に渡部由香助教が合流しました。

当プログラムはこれまで「スポーツマネジメントとスポーツ栄養」に特化した内容となっていましたが、今年度より「スポーツ科学」とテーマの幅を広げ、より多くの学生が参加しやすいよう変更を加えました。その結果、今年は体育学科コーチング・コースからの参加者もあり、従来の講義に加え「コーチング」に関する授業では、アメリカにおける選手とコーチの関係性やコミュニケーションスキルについて学ぶことができました。施設見学では、LAダウンタウンを一望できるドジャーススタジアムに行くなど、アメリカならではのスポーツ施設の特徴や雰囲気を目の当たりにすることができました。

さらに、プロバスケットボールNBAのLAKERS戦を観戦することにより、日本とは異なるスポーツ現場の熱気を肌で感じることができ、学生たちにとって忘れられない経験になったと思います。　また、昨年度より取り入れたホームステイは今年も実施し、学生は2人1組となりロングビーチ校周辺の5家庭に2週間お世話になりました。ホームステイ先はどこもフレンドリーで受け入れ態勢が素晴らしく、週末には水族館、港の朝市、ショッピングモール、ゴルフ場のクラブハウスでの朝食、サーフィンで有名な地元のビーチなど、各家庭が工夫を凝らし、それぞれがおすすめする場所の案内をしてくれたようです。一方で、中には豆腐ハンバーグなど手料理を作りホストファミリーを喜ばせた学生もいました。当初は英語でのやりとりに苦戦した学生も多かったようですが、最後には涙を流しながらのお別れがあるほど各家庭との交流を深めていました。本学から学生がロングビーチへ出向くようになり6年目となります。これまでも優秀な学生が多く参加してくれましたが、今年の参加学生は特に意識が高く、2週間という短期間での語学力向上は目を見張るものがありました。初日のオリエンテーションでの自己紹介から始まり、授業中の英語での質疑応答や発表、現地の職員や学生との交流時間での1対1の英会話、そして最終日の修了式で立派な英語でのスピーチを行うなど、ロングビーチ校の教職員も驚くような力を発揮してくれました。しかし、本人たちに感想を聞くと、加藤稔樹さん（体育学科3年生）は「現地の方に話すときは、わざとゆっくりと話しかけてくれるのがもどかしく、いつかネイティブのスピーディーな会話にもついていけるくらいになりたい」と悔しそうでした。また、津田玲奈さん（体育学科3年生）は「帰国してからも語学力を磨くため、英会話スクールに通うことを検討したい」と意欲的な様子でした。　2013年7月には、ロングビーチ校から初めて学生10名が来日し、約10日間に渡り仙台大学での日米スポーツ文化比較プログラムに参加しました。昨年も同様に学生10名が来日し、双方向の学生の行き来が生まれています。今回私たちのグループが滞在している間に、これまで仙台大学に来日したことがある学生、そして2015年7月に来日予定の学生と会う機会がありました。特に、昨年仙台へ来た学生たちは、私たちをボウリングに連れて行ってくれたりハンバーガーをごちそうしてくれたりと、とても歓迎してくれ、今回参加した本学の学生は国際交流の醍醐味に触れることができたのではないかと思います。このような新たな友情も含め、学生が滞在中に受けた刺激や感動を、今後の学生生活や将来にぜひ生かしてくれればと願います。

本年度もこのように充実したプログラムが実施できたことを関係のみなさまに感謝申し上げ、今後ともご協力いただけますようお願い致します。

＜寄　稿：助教　弓田恵里香＞

米国 カリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）の海外短期研修プログラム参加学生が帰国の報告

仙台大学との協定校であるカリフォルニア州立大学ロングビーチ校（CSULB）へ海外短期研修プログラムが、平成２７年２月１６日（月）～２月２８日（金）に実施され、本学から１０名の学生が参加しました。プログラム終了後、３名の学生が阿部学長を訪問し、無事に帰国したことを報告しました。

阿部学長から今回の研修に参加しての感想を尋ねられると、学生は「英語をさらに学ぶ必要があると強く実感した。」「英語で会話する中で、ただ伝えるだけではなく、自分の考えをしっかりと理解してもらうことの難しさと大切さを実感した。」「今回の経験をこれからの将来設計に生かしていきたいと思った。」などと感想を述べていました。

この海外短期研修プログラムは２００９年に協定書を交わして以来、今年で６回目の実施となります。一昨年からはCSULBの学生受入れプログラムを実施するなど、年々充実した国際交流が進められています。

＜報　告：事業戦略室　石森靖明＞

本学でトリムカップ2015が開催される

3月27日（金）～29日（日）の3日間、本学第二体育館及び第五体育館で、フットサルの女子日本一を決める「トリムカップ2015第７回全国女子選抜フットサル大会」（主催：日本フットサル連盟・協力：仙台大学）が初めて本学を会場に開催されました。

全国の各地域で予選を勝ち抜いたチームに加え、日本女子選抜チームなど１２チームが出場し、熱戦が繰り広げられました。

同大会の３日間、本学の男子サッカー部及びフットサル部員約70名も、ボランティア学生として大会運営（受付・会場誘導案内・警備・ボールボーイなど）に協力し、大会運営が円滑に行なわれました。本学の学生ボランティアは、日本フットサル連盟や関係者から高い評価を頂き、大会は無事に終了しました。

大会運営で学生ボランティアを統括した男子サッカー部の伊勢裕介コーチ（教務課職員）は、「大会運営で、一生懸命頑張る学生たちの姿に心が打たれました。学生たちには、この経験を今後の充実した学生生活につなげてほしいです」と話しました。

各試合とも熱戦が繰り広げられたトリムカップ＝仙台大学第五体育館

本学のPR看板広告―JR仙台駅２階のクイックビジョンがリニューアル

3月11日（水）から、本学をＰＲするＪＲ仙台駅２階のクイックビジョン（15秒看板：新幹線乗り場に上がる中央エスカレーター左右サイド／3月11日～3月31日まで無料掲載）のデザインがリニューアルしました。

今回は、2016年リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックを目指している全日本女子柔道監督の南條充寿准教授・2014仁川アジアパラ大会陸上女子砲丸投げで世界新記録を樹立した加藤由希子選手（健康福祉学科3年―宮城・気仙沼女子高校出身）・2013世界体操「あん馬」金メダリストのOB亀山耕平選手（徳洲会体操クラブ／平成22年体育学科卒―埼玉栄高校出身）を起用しました。仙台駅へお立ち寄りの際など、リニューアルした看板広告をご覧頂ければと思います。

次回リニューアルは平成27年10月1日を予定しております。大学及び学科紹介に使用されたい写真やクイックビジョンに関するアイデア等がございましたら、ぜひ広報室までお知らせ下さい。

なお、同じものを学長室前の通路にも掲示しています。

全日本柔道選手権東北予選会

男子・仲田助教3連覇逃す、女子・志賀選手（現代武道学科2年）が初代表の座を手にする

準々決勝で、仲田助教が敗れた時は、会場からどよめきが起こった。
＝福島市国体記念体育館

3月8日（日）、福島市国体記念体育館で「平成27年全日本柔道選手権東北予選会」が行なわれました。男子は、３連覇を目指した本学の仲田直樹助教（柔道５段）が準々決勝で敗れ、５度目の全日本選手権出場を逃しました。

女子は、本学から志賀成美（しがなるみ）選手（柔道２段／現代武道学科2年―福島・磐城農業高校出身）【写真】と中村優（なかむらゆう）選手（柔道２段／現代武道学科3年―静岡・藤枝順心高校出身）が決勝リーグに進みました。志賀選手は１勝１敗の２位となり、自身初となる全日本選手権出場を決めました。しかし、昨年覇者の中村選手は２敗で３位となり、惜しくも２年連続全日本選手権出場は果たせませんでした。

志賀選手は、4月19日（日）に横浜文化体育館で開催される「第30回全日本女子柔道選手権」に東北代表として初出場します。女子の無差別級日本一を決める大会で、志賀選手が上位進出を狙いますので、引き続き、温かいご声援をよろしくお願い致します。

BLS部、有明宏祐選手（運動栄養学科2年）がスケルトン男子ナショナルチームの海外合宿に参加

写真：宮嶋選手提供

ソリを手にし、スケルトンのスタート地点に立つ有明選手（左）と宮嶋克幸選手（体育学科1年）＝カナダ・カルガリーオリンピックパーク

本学BLS部の有明宏祐（ありあけこうすけ）選手（運動栄養学科2年―仙台商業高校出身）が、昨年12月の「全日本スケルトン選手権」（長野市スパイラル）で9位（2本の合計タイム：1分50秒72）に入り、2月1日～10日までカナダ・カルガリーで行なわれた男子ナショナルチームの海外合宿に参加しました。

3月25日（水）、広報室を訪れた有明選手に、課題や今後の目標などについてお話を聞きました。

有明宏祐選手

初の海外合宿は―

長野市スパイラルと違うコース（カナダ・カルガリーオリンピックパーク）を初めて経験することができました。日本スケルトン界の第一人者であるOB越和宏コーチ（日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟のスケルトン強化部長／昭和62年体育学科卒）からマンツーマンで指導を受けられた貴重な合宿となりました。越コーチからは、私生活や競技への取組み方まで、競技者としての意識を徹底的に叩き込まれました。

課題は―

プッシュタイムが遅く、スタート時のスプリントが課題です。スケルトンは、氷の上でソリを押す速さが必要となります。越コーチからは、氷の上で速く走るためには、氷を叩くようなイメージを意識することが大切であると教わりました。氷を叩くようなイメージが持てるよう動画を活用し、競技力向上に役立てていきたいです。

今後の目標は―

全日本で6位入賞ができるように頑張っていきたいです。そして、来年2月に開催される「スケルトン世界ジュニア選手権」に出場したいです。

今年は主将として部内をまとめる立場となり、競技面以外でも引っ張る存在として、頑張っていきたいと思います。